

松江市文化財調査報告書 第83集

門田遺跡発掘調査報告書

2000年3月

松江市教育委員会
財団法人松江市教育文化振興事業団

松江市文化財調査報告書 第83集

門田遺跡発掘調査報告書

2000年3月

松江市教育委員会
財団法人松江市教育文化振興事業団



門田遺跡出土遺物

例 言

1. 本書は、平成11年度において松江市教育委員会と財団法人松江市教育文化振興事業団が実施した門田遺跡発掘調査報告書である。
2. 本書で報告する発掘調査は、鳥根県松江土木建築事務所から松江市教育委員会が依頼を受け、財団法人松江市教育文化振興事業団が委託を受けて実施したものである。
3. 調査組織は以下のとおりである。

依頼者	鳥根県松江土木建築事務所	都市整備課	
主体者	松江市教育委員会	教育長	原 敏
		副教育長	田中 芳美夫（～6月）
			神田 義之（7月～）
		生涯学習課長	谷 正次
		文化財室長	岡崎 雄二郎
		文化財室主任	古岡 弘行
		上任主事	金山 正樹
実施者	財団法人松江市教育文化振興事業団	埋蔵文化財課	
		理事長	宮岡 芳雄
		専務理事	北村 悦男
		常務理事	福井 勝美
		事務局長	柳浦 孝行
		調査係長	瀬占 諒子
		調査員	占藤 博昭
		囑託員	広江 光洋

4. 本遺跡の出土遺物を観察するにあたり、松本岩雄氏（鳥根県埋蔵文化財調査センター）にご教示頂いた。
5. 本書の作成は下記の者が携わった。
（遺物復原）花田陽子、田中晶子、奥田美穂子、福田万里、金山和子
（遺物実測）古藤、広江、松下剛、瀬古、後藤哲男、廣浜貴子、青山悦郎、花田、細田美樹
（浄書）奥田、福田
（折本）荻野哲二（松江市教育委員会囑託員）、田中
（遺物撮影）本書に掲載した遺物写真の撮影は、鳥根県埋蔵文化財調査センターの撮影場を借用し、石川崇の指導を受け古藤が行った。
6. 本書の執筆、編集は古藤が行った。
7. 出土遺物は松江市教育委員会生涯学習課文化財室で保管している。

目 次

カラー図版

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	2
III 調査の概要	4
1 区検出遺構	4
2 区検出遺構	26
3 区検出遺構	44
門田遺跡出土の土製品	47
IV 小 結	51

遺物観察表

図 版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	松江市位置図	1
第2図	門田遺跡と周辺の遺跡	3
第3図	門田遺跡調査成果図	5~6
第4図	1区S D-01検出状況及び遺物検出状況図	7
第5図	1区S D-01出土土器実測図	8
第6図	1区S D-02セクション図	9
第7図	1区S D-01及びS D-03セクション図	9
第8図	1区東壁セクション図	10
第9図	1区北壁セクション図	12
第10図	1区南壁セクション図	12
第11図	1区S D-02出土土器実測図(1)	13
第12図	1区S D-02出土土器実測図(2)	14
第13図	1区S D-02出土土器実測図(3)	15
第14図	1区S D-02出土土器実測図(4)	16
第15図	1区S D-02出土土器実測図(5)	17
第16図	1区S D-02出土土器実測図(6)	18
第17図	1区S D-02出土土器実測図(7)	19
第18図	1区S D-02出土土器実測図(8)	20
第19図	1区S D-02出土土器及び石製品実測図(1)	21
第20図	1区S D-02出土土器及び石製品実測図(2)	22
第21図	1区S D-02出土土器及び石製品実測図(3)	23
第22図	1区S K-01検出状況及び遺物検出状況図	24
第23図	1区S K-01出土彩色土器実測図	25
第24図	2区東壁セクション図	27
第25図	2区北壁セクション図	28
第26図	2区西壁(北側)セクション図	28
第27図	2区S D-03セクション図	28
第28図	2区S D-04セクション図	29
第29図	2区S K-02検出状況図	29
第30図	S D-03出土土器実測図(1)	30
第31図	S D-03出土土器実測図(2)	31
第32図	S D-03出土土器実測図(3)	32

第33図	S D-03出土土器実測図 (4)	33
第34図	S D-03出土土器実測図 (5)	34
第35図	S D-03出土土器実測図 (6)	35
第36図	S D-03出土土器実測図 (7)	36
第37図	S D-03出土土器実測図 (8)	37
第38図	S D-03出土土器実測図 (9)	38
第39図	S D-03出土石器及び石製品実測図 (1)	39
第40図	S D-03出土石器及び石製品実測図 (2)	40
第41図	S D-03出土木製品実測図	41
第42図	2区S D-04出土土器実測図	41
第43図	3区調査成果図	42
第44図	3区東壁セクション図	43
第45図	3区S K-03セクション図	43
第46図	3区出土土器実測図	45
第47図	3区出土石器及び石製品実測図 (1)	46
第48図	3区出土石器及び石製品実測図 (2)	47
第49図	門田遺跡出土分銅形土製品実測図	49
第50図	門田遺跡出土土土実測図	49
第51図	門田遺跡出土遺構外遺物 (土器) 実測図	50
第52図	門田遺跡出土遺構外遺物 (木製品) 実測図	50

図 版 目 次

- 図版 1 (上) 門田遺跡調査前全景 (南より)
(下) 1区完掘状況 (北より)
- 図版 2 (上) 1区S D-01完掘状況 (南より)
(下) 1区S D-01土器検出状況 (南より)
- 図版 3 (上) 1区S D-01土器検出状況
(中) 1区S D-01土器検出状況
(下) 1区北壁S D-01断面
- 図版 4 1区S D-01出土土器
- 図版 5 (上) 1区S D-02プラン検出状況 (北より)
(下) 1区S D-02完掘状況 (東より)
- 図版 6 (上) 1区S D-02土器検出状況
(中) 1区S D-02土器検出状況
(下) 1区S D-02土器検出状況
- 図版 7 1区S D-02出土土器
- 図版 8 1区S D-02出土土器
- 図版 9 1区S D-02出土土器
- 図版10 1区S D-02出土土器
- 図版11 1区S D-02出土土器
- 図版12 1区S D-02出土土器
- 図版13 1区S D-02出土石器及び石製品
- 図版14 1区S D-02出土石器及び石製品
- 図版15 (上) 1区S D-03完掘状況 (南より)
(下) 1区S D-03中央セクション (南より)
- 図版16 (上) 1区北壁S D-03断面
(中) 1区S D-03南部検出状況
(下) 1区東壁S D-03断面
- 図版17 (上) 1区S D-03木器検出状況
(中) 1区S D-03土器検出状況
(下) 1区S K-01検出状況 (北より)
- 図版18 (上) 1区S D-02出土土器
(下) 1区S K-01出土彩色土器
- 図版19 (上) 2区完掘状況 (北より)

- 図版19 (下) 2区SD-03完掘状況(南より)
- 図版20 (上) 2区SD-03北側完掘状況
(中) 2区SD-03セクション(北側)
(下) 2区SD-03セクション(中央部)
- 図版21 (上) 2区SD-03南側杭列跡検出状況
(中) 2区SD-03残存木杭検出状況
(下) 2区SD-03上器検出状況
- 図版22 (上) 2区SD-04完掘状況(西より)
(中) 2区東壁杭列跡検出状況
(下) 2区SK-02検出状況
- 図版23 SD-03出土土器
- 図版24 SD-03出土土器
- 図版25 SD-03出土土器
- 図版26 SD-03出土土器
- 図版27 SD-03出土土器
- 図版28 SD-03出土土器
- 図版29 SD-03出土土器及び石製品
- 図版30 (上) SD-03出土土器及び石製品
(下) 2区SD-04出土土器
- 図版31 (上) 3区完掘状況(北より)
(下) SK-03検出状況及び木杭跡検出状況
- 図版32 (上) 3区東壁セクション
(中) SD-05検出状況
(下) 3区ピット群検出状況(西より)
- 図版33 (上) 3区出土土器
(下) 3区出土土器及び石製品
- 図版34 (上) 門田遺跡出土分銅形土製品
(下) 門田遺跡出土木製品
- 図版35 (上) 門田遺跡出土遺構外遺物(上器)
(下) 門田遺跡出土石器石材(左:サヌカイト、右:黒曜石)

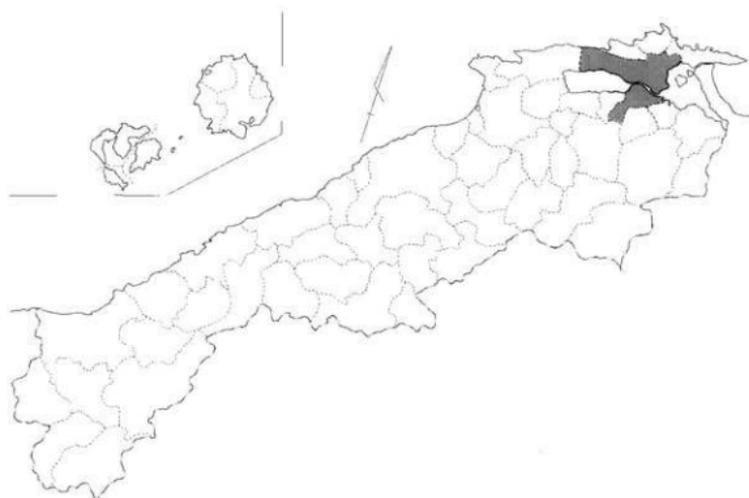
I 調査に至る経緯

高根県松江土木建築事務所（事業者）において、松江市街地と高速道路網との連結を目的とした「3.3.74松江木次線都市計画街路事業」の計画が持ち上がった。そのため、事業者から松江市教育委員会宛に平成10年5月26日付松上第685号で埋蔵文化財の分布調査の依頼書が提出された。

これを受けて本市教育委員会では開発予定区域隣接地に欠田遺跡及び神立遺跡等が存在することから、平成11年1月18、19日において開発予定区域内の試掘調査を実施した。その結果、1箇所のトレンチで遺構として石列らしきものが検出され、弥生時代中期頃の土器が出土した。

遺構・遺物が確認された箇所については字名から「門田遺跡」と命名された。事業者と松江市教育委員会が協議した結果、「門田遺跡」が存在する箇所については工事着手前に本調査を実施することとなった。事業者は平成11年5月10日付松上第614号で埋蔵文化財発掘の通知（文化財保護法第57条の3）を松江市教育委員会経由で文化庁長官宛に提出した。これを受けて本市教育委員会は平成11年6月11日付松教生文第85号で埋蔵文化財発掘調査の報告（同法98条の2）を文化庁長官宛に提出した。

事業者は平成11年5月17日付松上第599号で埋蔵文化財の発掘調査の依頼書を提出し、平成11年6月1日付で発掘調査に関する委託契約を締結した。本調査については松江市教育委員会が財団法人松江市教育文化振興事業団に委託して平成11年6月から実施したものである。



第1図 松江市位置図

Ⅱ 遺跡の位置と環境

本遺跡は松江市街地中心より南西に約1.5km離れた乃木福富町地内に所在する。

立地する地形としては、南西方向に広がる200m級の山地から北に伸びる低丘陵地の北端と宍道湖に向かって南東方向から流れてくる忌部川の下流域が出会う場所に位置している。

碧玉や瑪瑙の原石産出地として知られる八束郡玉湯町の花仙山からはおよそ2.4kmの距離である。

本遺跡の周辺には様々な遺跡が分布している。

旧石器・縄文時代 現在のところこの時代の遺跡の発見例はないが、廻田遺跡では旧石器時代の玉髓製ナイフ形石器が出土しているほか、福富Ⅰ遺跡では尖頭器が採取されており、今後この時代の遺跡が発見される可能性が考えられる。

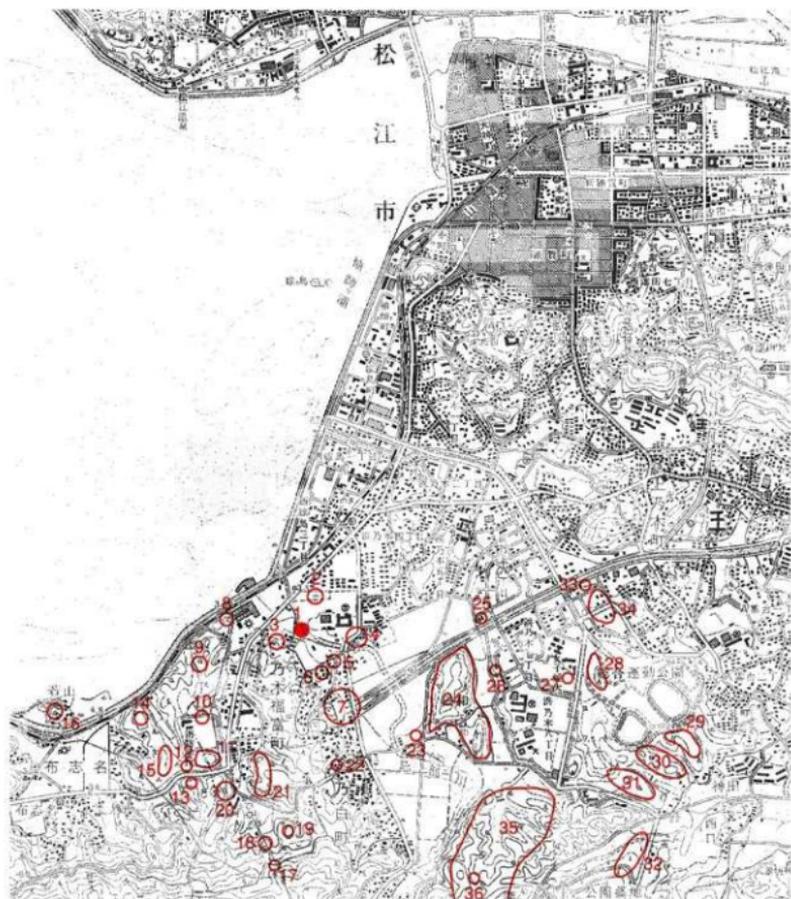
弥生時代 欠田遺跡が前期から後期にわたる遺跡として知られており、大型石包丁、磨製石斧、石鏃のほか各種の土器が出土している。前期から中期までの遺跡としては、田和山遺跡群が最近の発見例である。この遺跡では、標高46mほどの低丘陵の山腹に三重の環壕が廻らせられており、その山頂部では物見櫓と思われる建物跡と、性格不明の総柱建物跡のほか柵列跡が発見されている。出土遺物としては荒神谷遺跡などで発見されている中細形銅剣を模した銅剣形石剣の破片が出土しているほか、上玉、石鏃、環状石斧などが多くの土器に混じて出土している。

中期から後期まで営まれた遺跡としては友田遺跡が知られており、四隅突出型墳丘墓を含む墳丘墓6基と上城墓26基が検出されている。墳丘墓は弥生墳丘墓としては県内最古の部類に入るものである。

古墳時代 前期古墳は周辺では知られていなかったが、袋尻遺跡群の袋尻4号、7号、8号墳が最近の発見である。そのうち4号、8号墳では合わせ口の土器棺が出土している。

忌部川流域では中期後半の小規模古墳からなる古墳群がいくつか知られているが、突出した規模を有するのが全長61.4mの前方後円墳である大角山1号墳である。この古墳は出雲東部でもトップクラスの規模を有するものである。後期の古墳としては、横穴式石室を持つ田和山1号墳や岩屋口古墳が知られる程度で多くは横穴墓である。横穴墓では弥陀原横穴墓群や松本横穴墓群、菅沢谷横穴墓群などが知られる。生産遺跡としては、大角山遺跡、乃白玉作跡、乃白権現遺跡などの土作遺跡がこの地域に集中しており、これは花仙山を背景としたものであると思われる。また、布志名大谷Ⅰ遺跡では製鉄用の炭窯といわれる横口付炭窯が島根県で初めて発見されている。

歴史時代 奈良時代の地誌である『出雲国風土記』には、この付近には「通道」が通っていたと記載されている。松木古墳群やオノ神遺跡は古代道と思われる遺構が検出されており、この地域が古くから交通の要衝であったことが窺える。



- | | | | |
|-----------|--------------|--------------|-------------|
| 1. 門田遺跡 | 11. 大角山古墳群 | 21. 松木古墳群 | 31. 浪ヶ谷遺跡 |
| 2. 欠田遺跡 | 12. 布志名才の神遺跡 | 22. 松本修法壇遺跡 | 32. 小倉見谷横穴群 |
| 3. 神立遺跡 | 13. 足立窯跡 | 23. 栗師前遺跡 | 33. 乃木二子塚古墳 |
| 4. 福富Ⅱ遺跡 | 14. 布志名大谷Ⅱ遺跡 | 24. 田和山遺跡群 | 34. 長砂古墳群 |
| 5. 蓮華塚遺跡 | 15. 布志名大谷Ⅰ遺跡 | 25. 友田遺跡 | 35. 袋尻遺跡群 |
| 6. 尾形古墳群 | 16. 布志名焼窯跡群 | 26. 後友田古墳群 | 36. 菅沢谷横穴墓群 |
| 7. 福富Ⅰ遺跡 | 17. 岩屋口古墳群 | 27. 奥山遺跡 | |
| 8. 乃白玉作遺跡 | 18. 松本横穴墓群 | 28. 運動公園内古墳群 | |
| 9. 二名留遺跡 | 19. 弥陀原横穴墓群 | 29. 神田遺跡 | |
| 10. 大角山遺跡 | 20. すべりざこ古墳群 | 30. 勝負谷遺跡 | |

第2図 門田遺跡と周辺の遺跡

Ⅲ 調査の概要

本遺跡は、松江市乃木福富町字門田に所在する。遺跡の南西方向には標高30mほどの丘陵が広がり、東側には忌部川が宍道湖に向かって北流している。この忌部川の岸辺は以前の河川改修工事によって急激に切り立ったコンクリートブロック壁となっており、調査区から数m東に歩けば川のせせらぎを見下ろすことができる。現在の川底と本遺跡の比高は約5m程であると思われる。

地元の方に伺った話によると、その護岸工事以前は本遺跡の存在する土地の周辺は西側の丘陵から忌部川に向けて下る傾斜地であり、その地形を利用して棚田による耕作が行われていたということである。幸いにも、本遺跡の確認された範囲では以前からの地形が保たれていたようである。

本遺跡の確認された範囲は、調査着手以前は雑草の生い茂る休耕田になってはいたものの、西側から農業用水が絶えず流れ込んでくるという状態であったため、器状に掘削した調査区内に溜まる水は、周囲に一段深い排水溝を設け、水中ポンプを絶えず動かして対処することとした。にもかかわらず、何度か調査区内がプール状態になってしまうことがあり、常に排水に気を使いながらの調査であった。

調査範囲は南北に長い三角形形状に設定したが、周囲に適当な廃土置場が見当たらないことから、調査区を三分割して南側から1区、2区、3区とし、1区を第一期調査、2、3区を第二期調査として分けを行うこととした。

以下は調査の結果であるが、1区、2区にまたがる遺構（SD-03）については「2区検出遺構」の項で記述することとする。

1 区検出遺構

1区では溝状遺構SD-01、02、03と土壇SK-01の4つの遺構が検出された。

SD-01（第4図）

1区東側において検出された溝状遺構である。

検出面からの遺構の深さは約0.5m、遺構の幅は約1mを測り、断面形は逆台形を呈する。

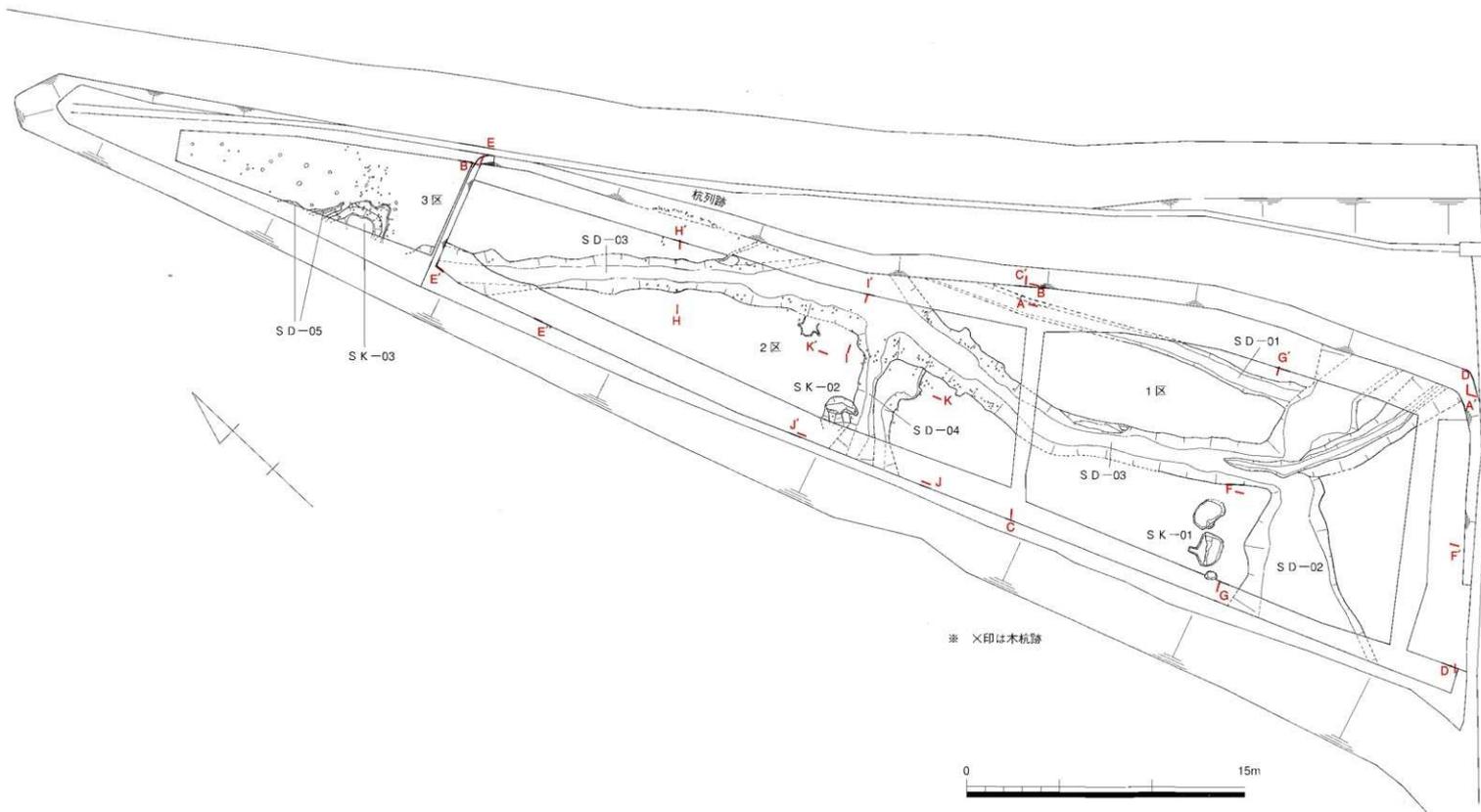
平面形はほぼ直線であり、確認された遺構の長さは約12mを測る。

遺構底面のレベルは緩やかではあるが南に向かって下がっている。

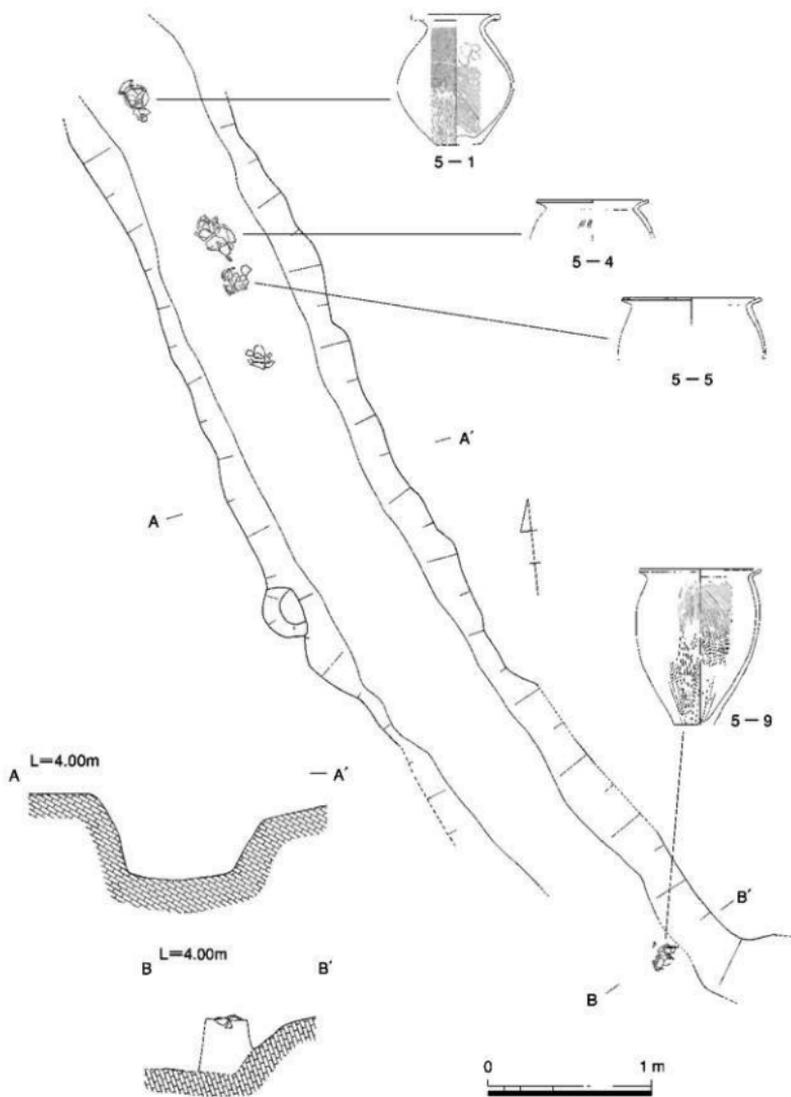
当初この遺構は1区内に納まる規模のものかと思われたが、1区北壁セクションと2区東壁セクションの南側にその断面が確認されたことから、遺構北側は調査区外の2区東側に続くものであることがわかった。一方、1区東壁と南壁セクションにはこの断面は確認できないことから、1区内の南側で完結している遺構であることも確認できた。

遺構埋土は、黒褐色粘質土、淡黄褐色粘質土、茶褐色粘質土からなる。

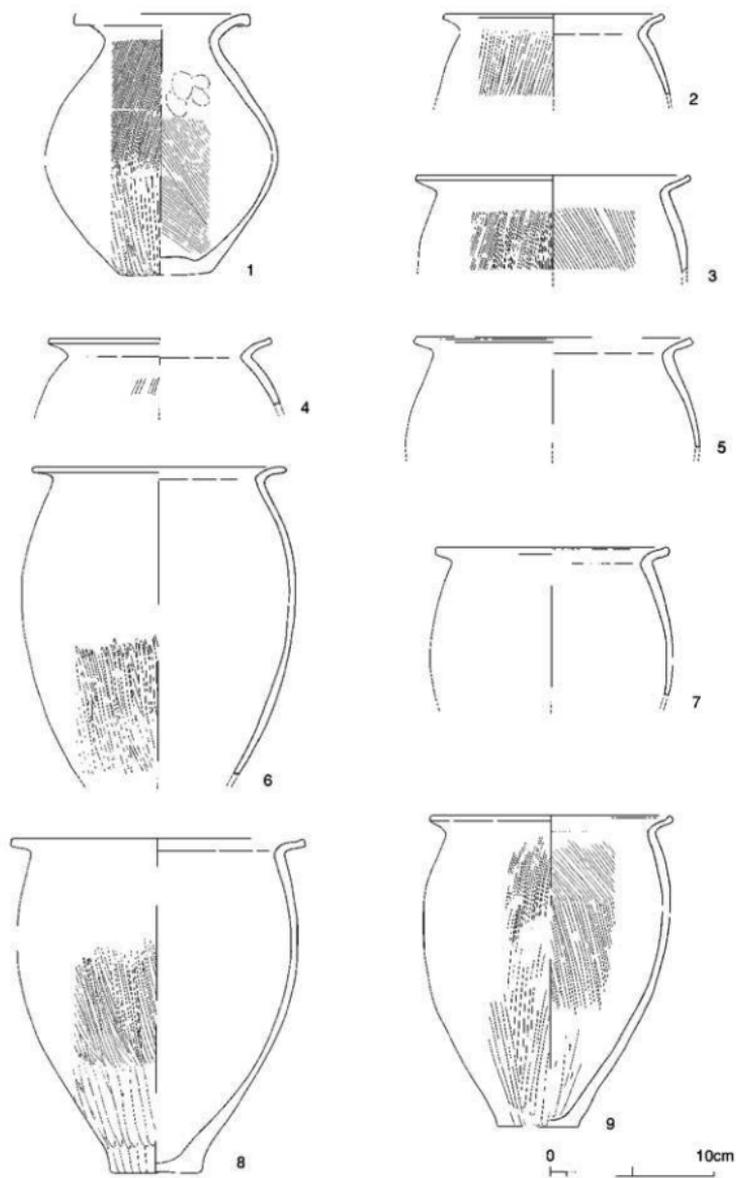
遺物は一様に遺構底面から約0.4mほど浮いたレベルの黒褐色粘質土中より集中して出土している。土器は風化が進んでいたことと、器肉が薄いことから取り上げは非常に困難であった。



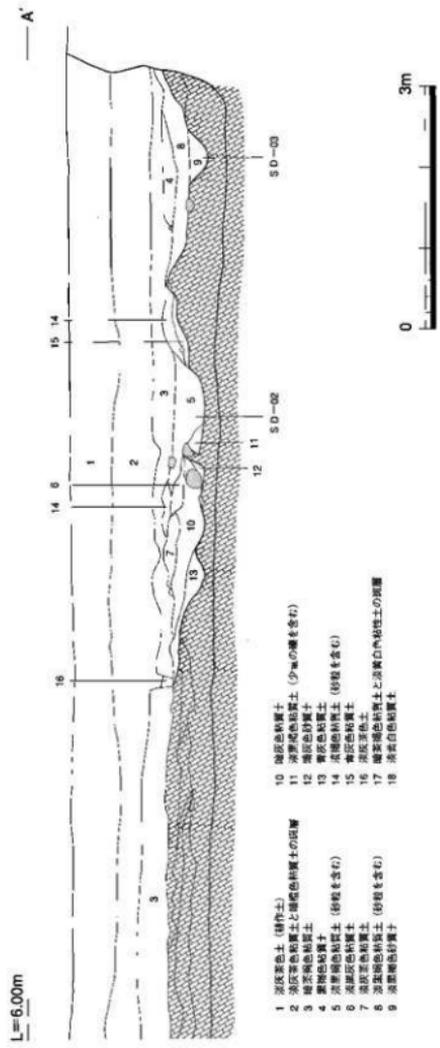
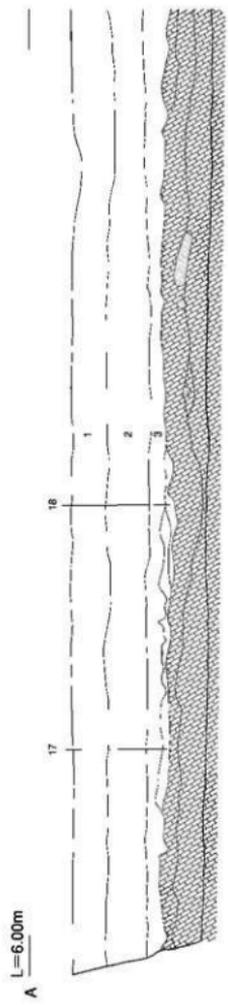
第3図 門田遺跡調査成果図



第4図 1区SD-01検出状況及び遺物検出状況図



第5图 1区S D-01出土土器实测图



- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1 深灰紫色土 (硬粘土) | 10 深灰紫色粘質土 |
| 2 深灰紫色粘質土と褐色粘質土の混層 (少量の礫を含む) | 11 深灰紫色粘質土 (少量の礫を含む) |
| 3 深灰紫色粘質土 | 12 深灰紫色粘質土 |
| 4 深灰紫色粘質土 | 13 深灰紫色粘質土 |
| 5 深灰紫色粘質土 (砂粒を含む) | 14 深灰紫色粘質土 (砂粒を含む) |
| 6 深灰紫色粘質土 | 15 黄灰色粘質土 |
| 7 深灰紫色粘質土 | 16 灰黄色粘土 |
| 8 深灰紫色粘質土 (砂粒を含む) | 17 深灰紫色粘質土と深黄白色粘質土の混層 |
| 9 深灰紫色粘質土 | 18 深灰紫色粘質土 |

第8図 1区東壁セクション図

SD-02

1区南側で検出された自然流路である。

遺構検出面での幅は内側で最大約7.3mを測るが、中央では2.5mを測るまで狭まっている。

遺構検出面からの深さは約0.4mを測り、底面のレベルは東に行くに従い下がっている。

遺構上端から下端にかけての落ち込みは非常に緩やかであり、断面形は底の広いU字状を呈する。

1区東壁セクションと西壁にはこの断面が確認できることから、この遺構は調査区以西より始まり、調査区を横断してさらに東に続くものであることがわかった。

遺構の埋土は、黒褐色、淡黒褐色、淡灰褐色の粘質土と最下層の淡黒褐色砂質土からなり、層序による遺物の時期差は見られず、各層で弥生中期から後期までの遺物が混ざり合った状態で出土した。

SD-01出土遺物（第5図）

SD-01より出土した土器は全て弥生中期中葉の遺物であった。

5-1は壺である。口径10.5cm、器高16.1cmを測る。外面の調整は口縁部が横ナデ、頸部から胴部がハケメ、胴部下半はヘラミガキが施される。内面は胴部にハケ後、ナデ調整が施される。口縁は短く外反し端部は無文である。5-2～9は甕である。いずれも緩やかな「く」字状に屈折する口縁を持つものである。調整は、2は胴部外面がハケ、内面はナデ、3は胴部内外面がハケ、4は肩部にわずかにハケ、5は内外面ともにナデ調整が施される。5は口縁端部に1条の凹線文が施される。5-6は口縁部が横ナデで、外面肩～胴部がナデ、胴部下半はヘラミガキ、胴部内面はナデ調整が施される。5-7は口縁部が横ナデ、胴部は内外面共にナデ調整が施される。5-8は口縁部が横ナデ、外面肩部はナデ、胴部下半はヘラミガキ、内面はナデ調整が施される。5-9は口縁部が横ナデ、外面は胴部上半がハケメ、下半がヘラミガキ、内面は胴部がハケメ、胴部下半はヘラ削りが施される。

SD-02出土遺物（第11図～21図）

SD-02からは、弥生中期中葉から後期初頭の壺、甕、鉢、高杯の他、土器、石製品が出土した。

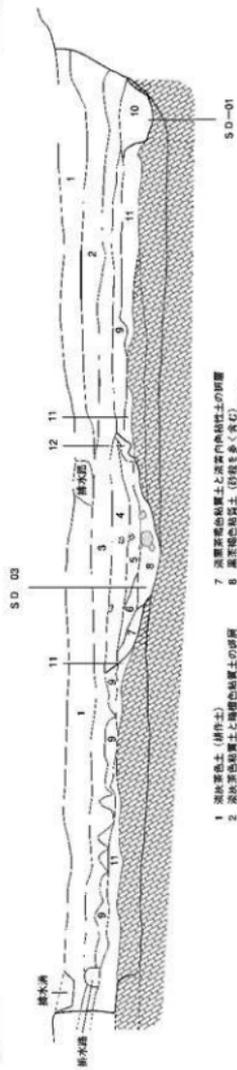
主だったものの説明を以下に述べるが、各々の遺物の詳細については遺物観察表を参照していただきたい。

第11図～12図は壺である。11-1は口縁部が大きく朝顔状に開く壺である。頸部には指片痕文帯が廻り、口縁端部は無文である。11-7は無頸壺である。口縁部及び口縁端部は凹線文と刺突文が施されている。11-8は口縁部拡張部に斜格子文と凹形浮文が施された壺である。12-2は口縁部内面に斜格子文、拡張部には凹線文の後に斜行線文が施されている。

第13図～16図は甕である。13-1は「く」字状の口縁をもつ甕である。外面上部はハケ、胴部下半はヘラミガキが施される。胴部には列点文が施される。13-8は口縁端部に凹線文が施された甕である。外面の調整は胴部上半がハケメ、下半がヘラミガキ、内面はハケメの後底部付近にヘラ削りが施される。14-3、4、6は口縁部、胴部に凹線文、刻み状の文様が施された甕である。これらの土器は備後北部伊藤Ⅳ様式のいわゆる「塩町式」である。15-1～16-7は口縁端部に凹線文、頸部には指

L=6.00m

— C' —

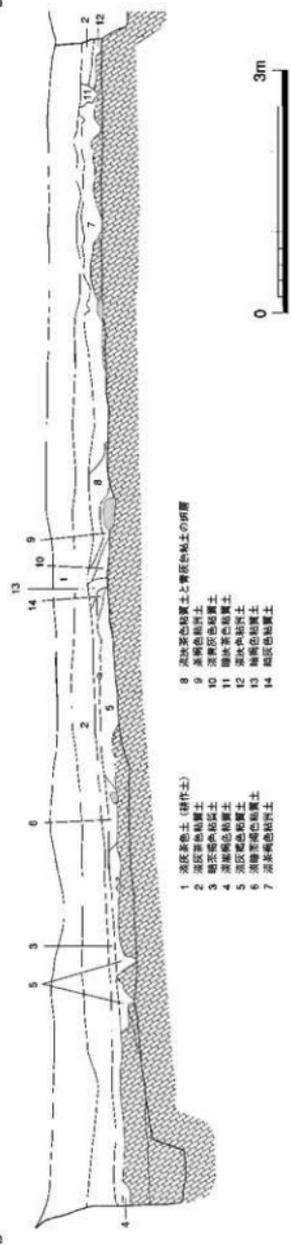


- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 深灰色粘土 (耕作土) | 7 深褐色粘質土と深灰色粘質土の混層 |
| 2 深灰色粘質土と暗褐色粘質土の混層 | 8 深灰色粘質土 (砂粒を多く含む) |
| 3 暗褐色粘質土 | 9 暗灰色粘質土と深灰色粘質土の混層 |
| 4 深褐色粘質土 | 10 深褐色粘質土 |
| 5 深褐色粘質土 (砂粒を少し含む) | 11 深灰色粘質土 (砂粒を多く含む) |
| 6 深褐色粘質土 | 12 深褐色粘質土と深灰色粘質土の混層 |

第9図 1区北壁セクション図

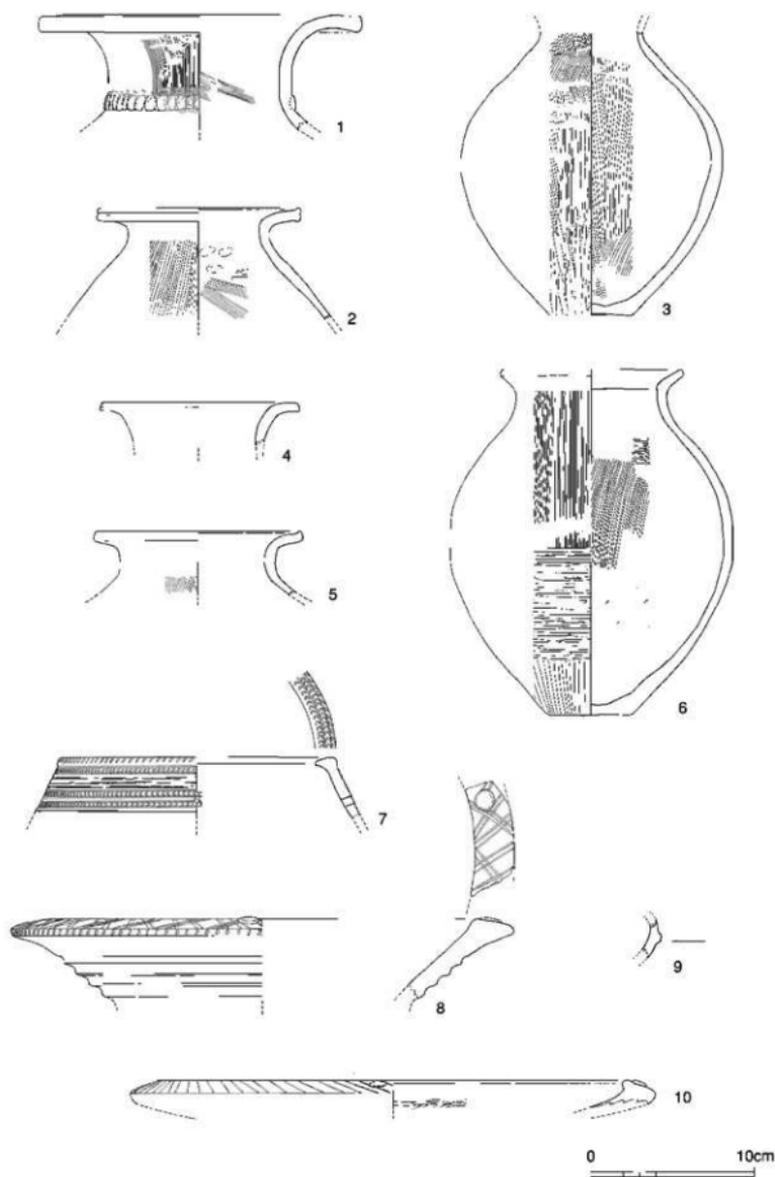
L=6.00m

— D' —

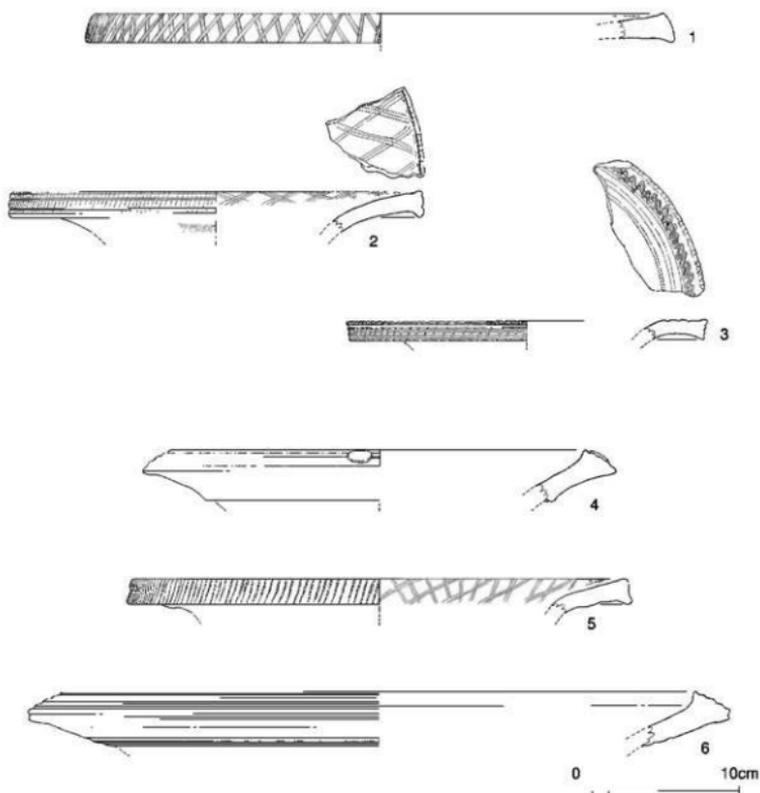


- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 深灰色粘土 (耕作土) | 8 深灰色粘質土と暗褐色粘質土の混層 |
| 2 深褐色粘質土 | 9 深褐色粘質土 |
| 3 暗褐色粘質土 | 10 深褐色粘質土 |
| 4 深褐色粘質土 | 11 暗褐色粘質土 |
| 5 深褐色粘質土 | 12 深褐色粘質土 |
| 6 深褐色粘質土 | 13 暗褐色粘質土 |
| 7 深褐色粘質土 | 14 暗褐色粘質土 |

第10図 1区南壁セクション図



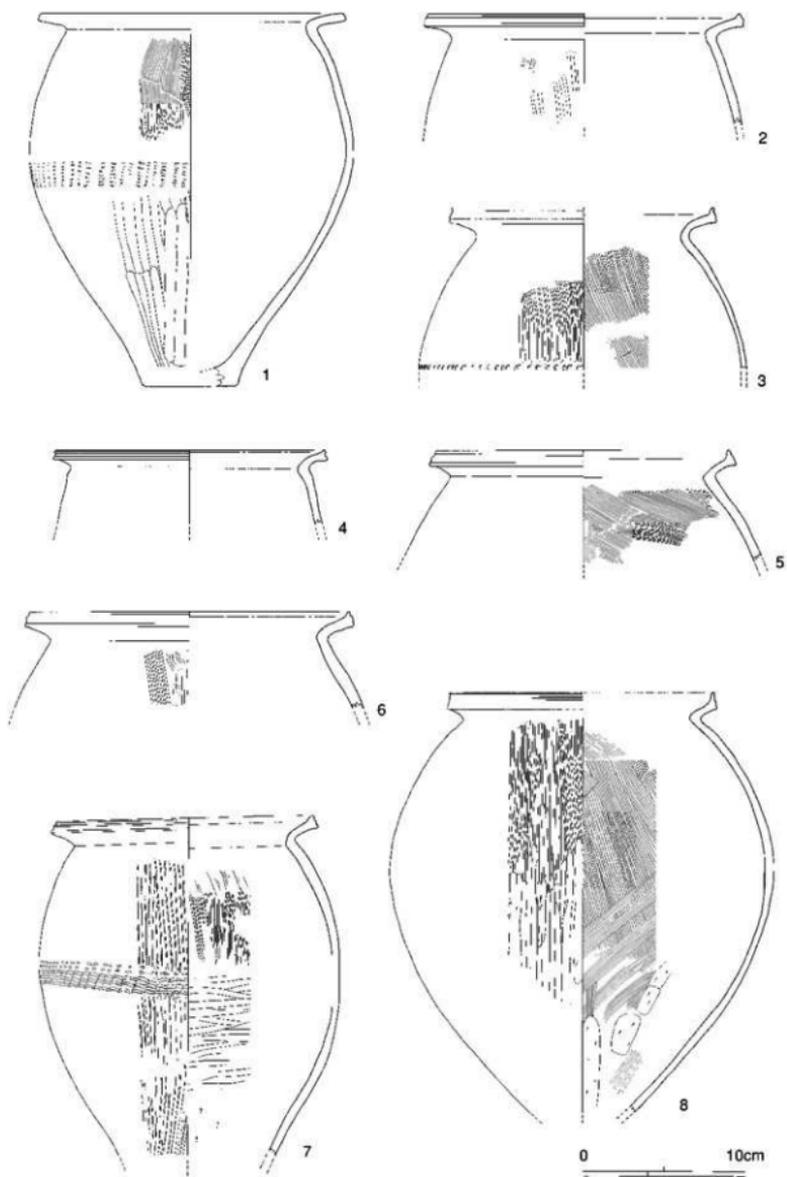
第11图 1区SD-02出土土器实测图(1)



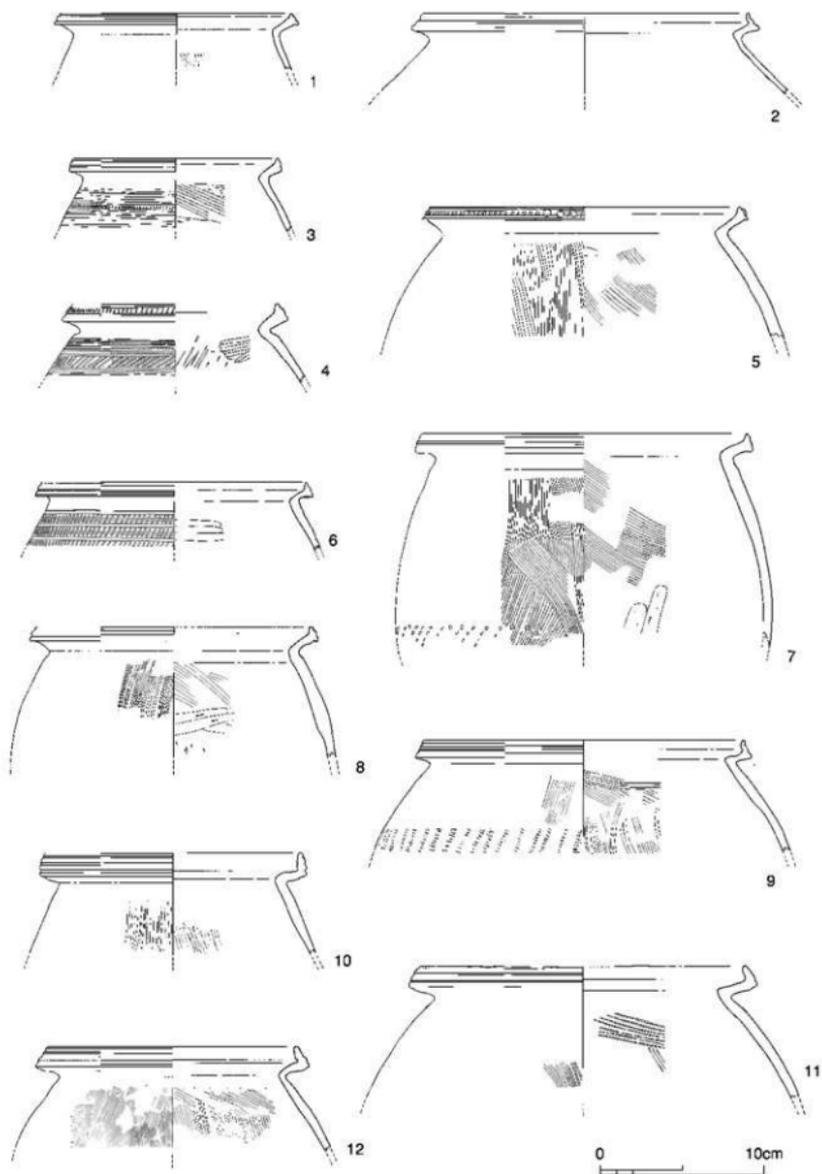
第12図 1区S D-02出土土器実測図(2)

頭あるいは工具による圧痕文帯が施された甕である。

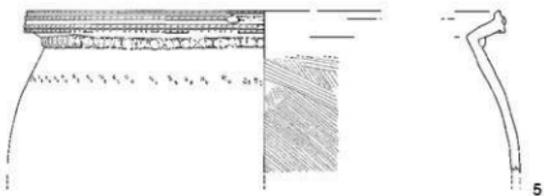
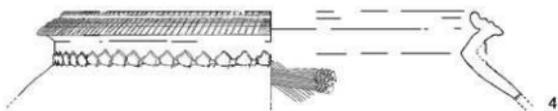
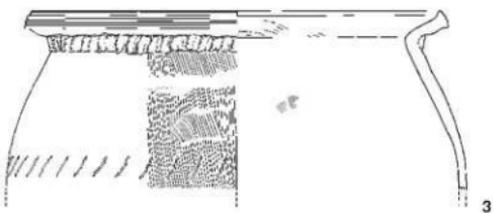
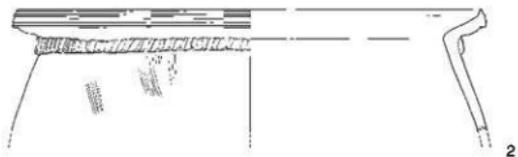
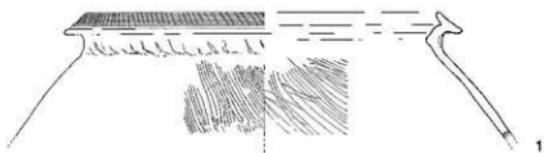
17-1は無頸壺である。口縁部には凹線文の間に斜行刻目文が施され、胴部下半には列点文が廻る。この土器も「塩町式」のものと思われる。17-2～5は後期の甕である。いずれも口縁端部に凹線文が施されており、内面の調整は頸部以下がヘラケズリである。17-7は鉢である。口縁端部には凹線文、内外面には櫛描文が施されている。また、外面に赤色顔料が塗布されている。18-2は水平口縁の高杯である。口縁端部に刻み目が施される。また、2箇所に穿孔が認められる。18-6は大型の高杯である。口縁端部、及び口縁部外面に凹線文が施される。18-12は器種不明の遺物である。中心に径1.4cmの孔を有する。外面の調整はハケメ、及びヘラミガキ、内面はヘラミガキとヘラ削りが施される。18-16は器種不明の口縁部である。側面には凹線文が施される。内面の調整はヘラミガキである。18-17は器種不明の底部である。外面には赤色顔料の塗付が認められる。



第13图 1区S D-02出土土器实测图(3)

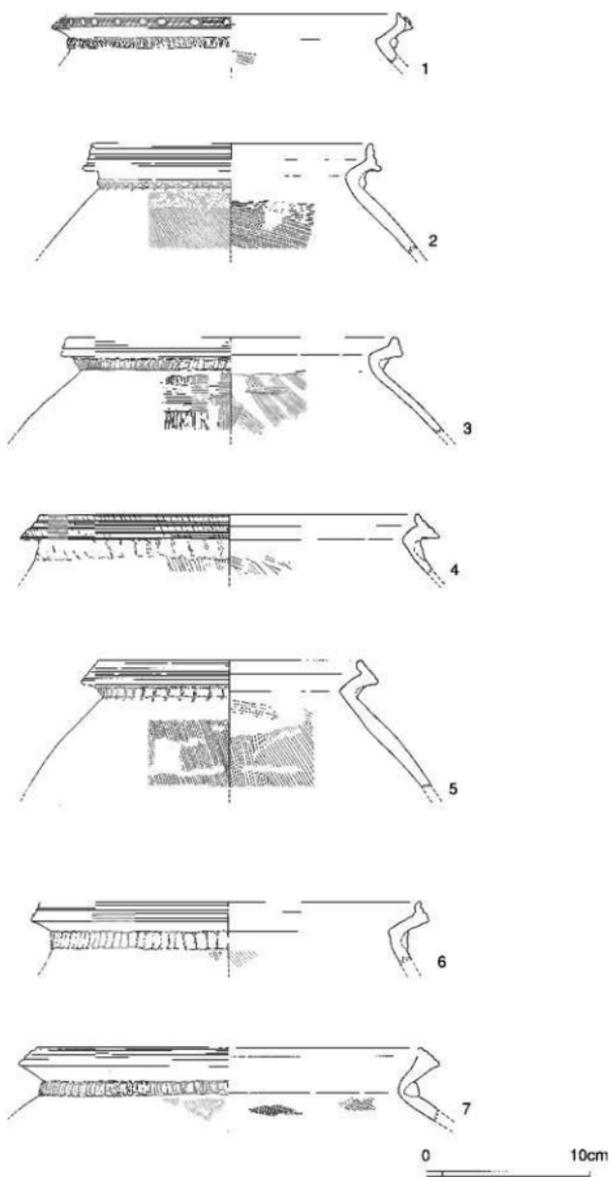


第14图 1区S D-02出土土器实测图(4)

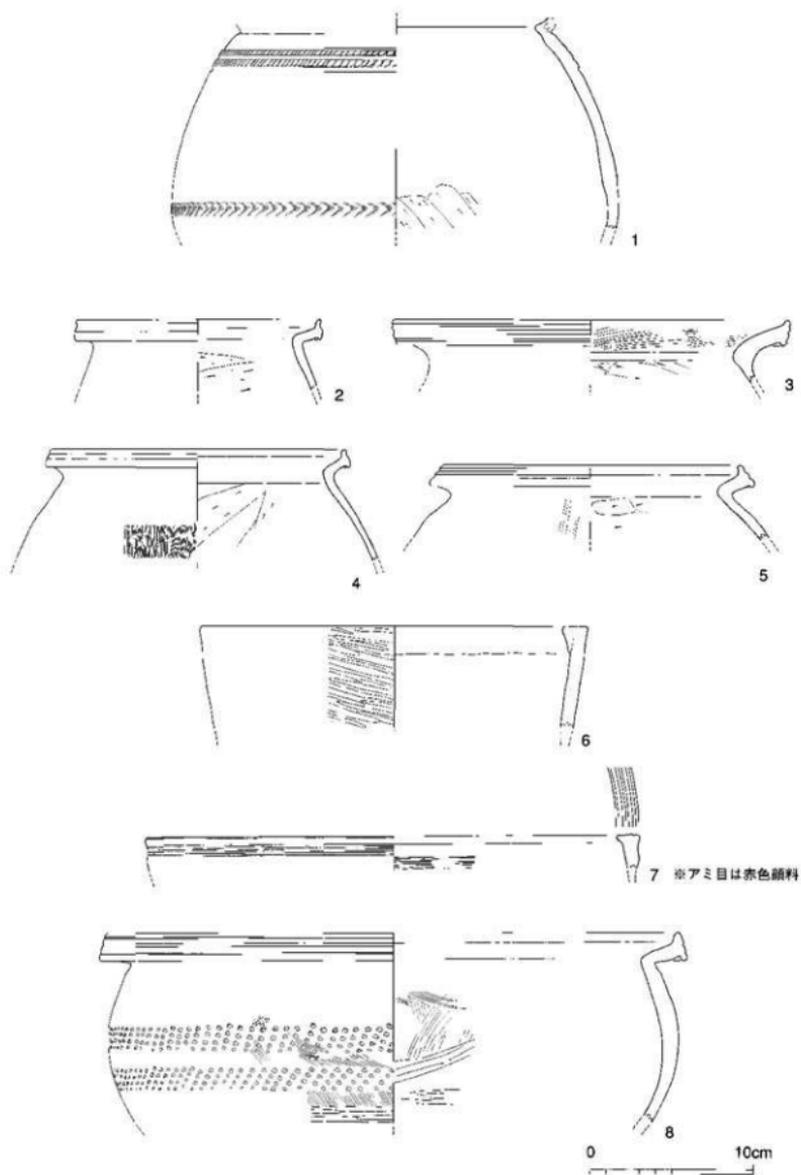


0 ————— 10cm

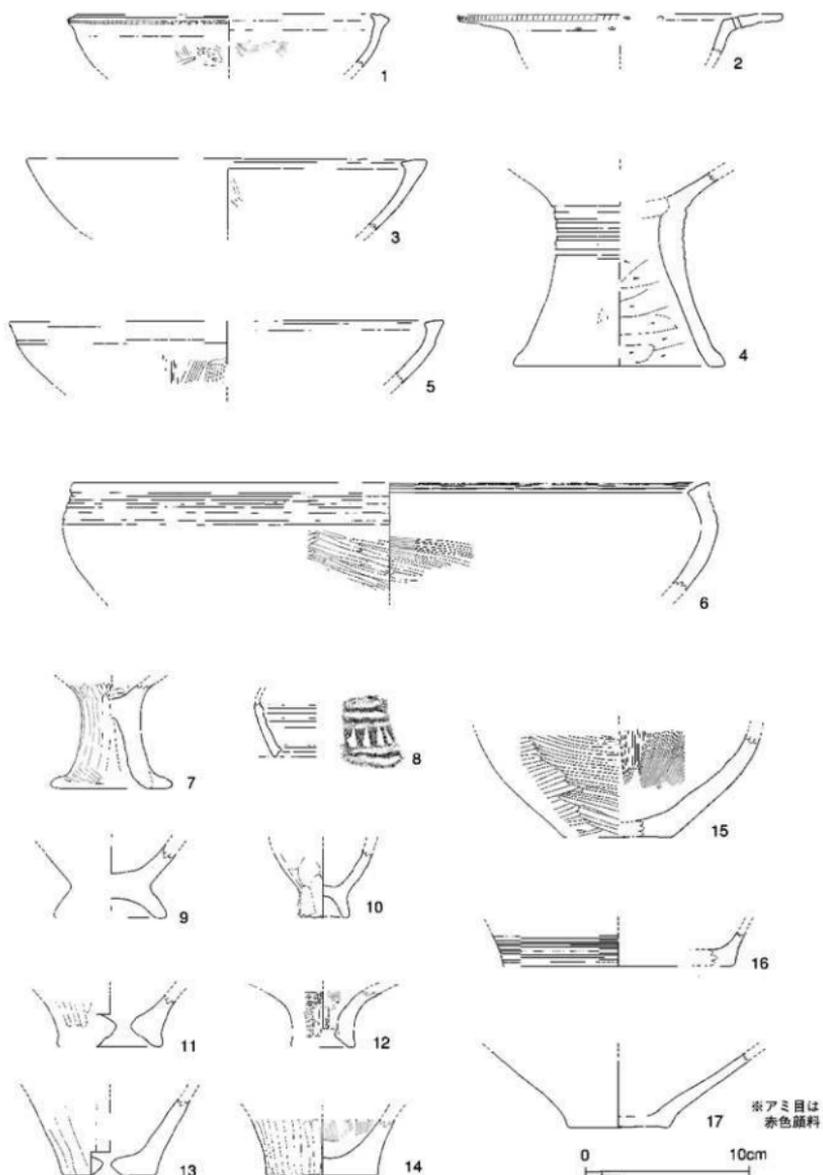
第15图 1区S D-02出土土器实测图(5)



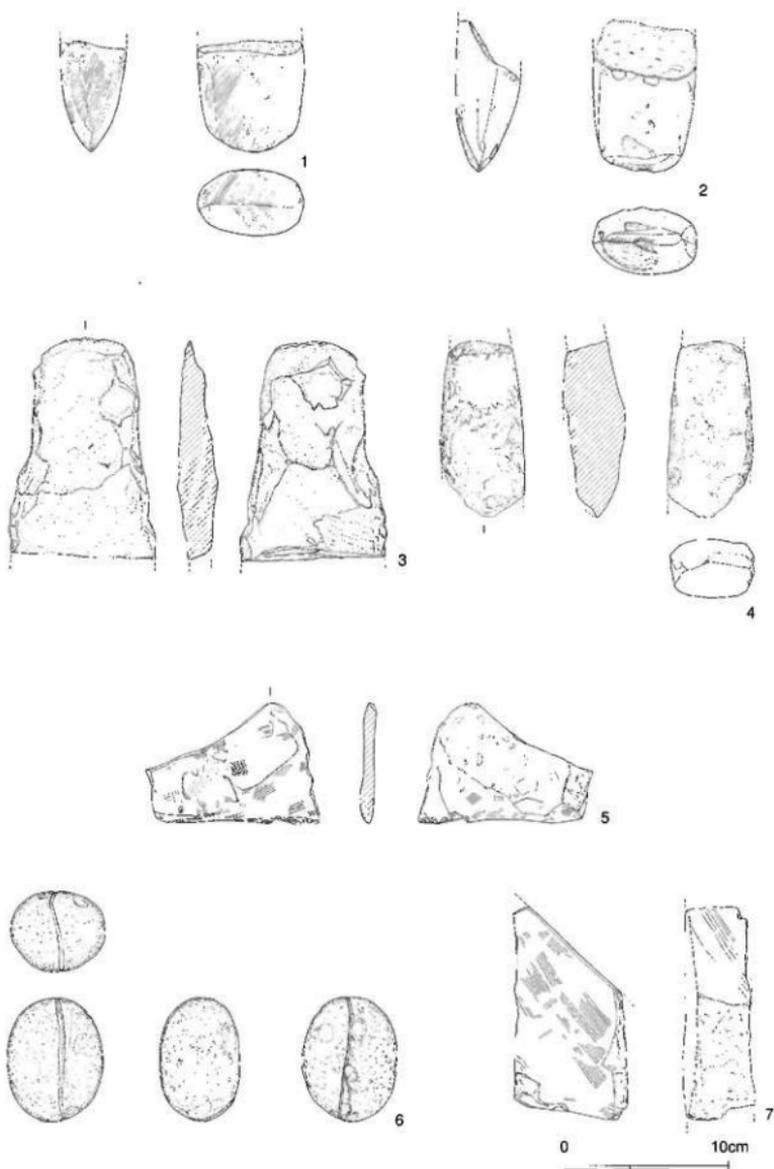
第16图 1区S D-02出土土器实测图(6)



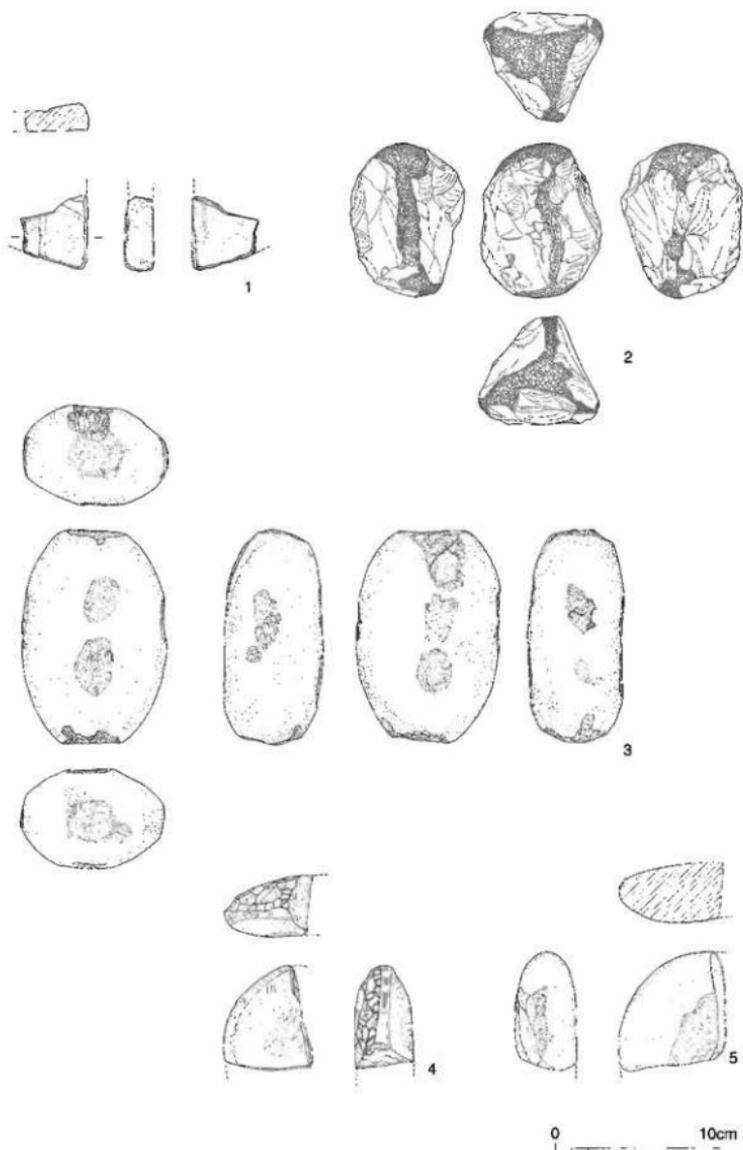
第17図 1区SD-02出土土器実測図(7)



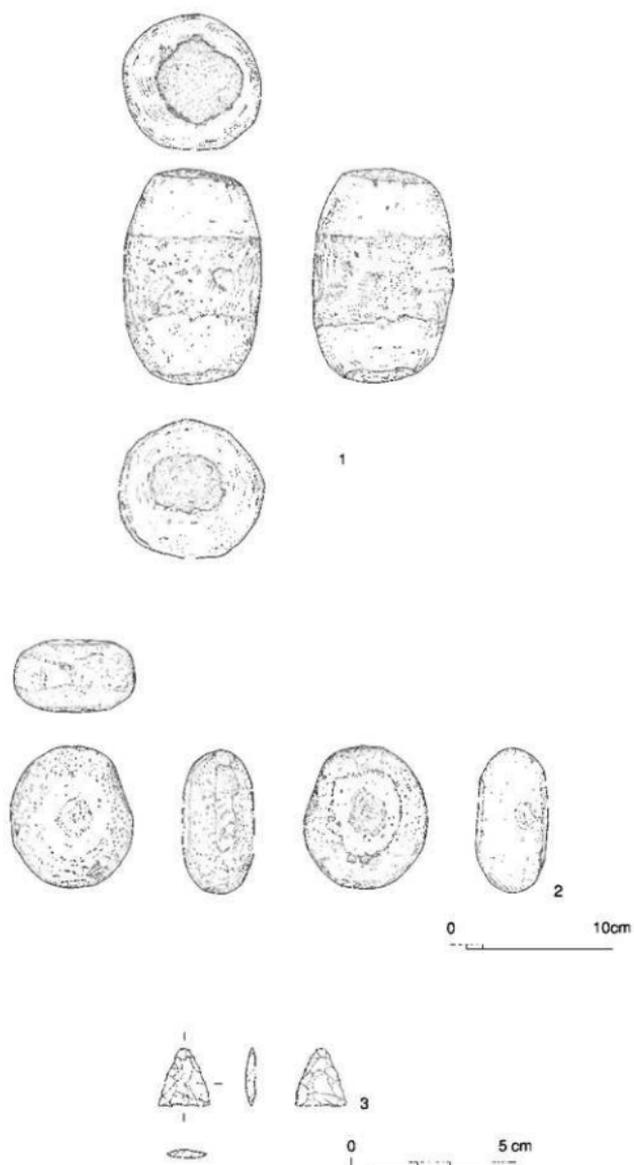
第18図 1区S D-02出土土器実測図(8)



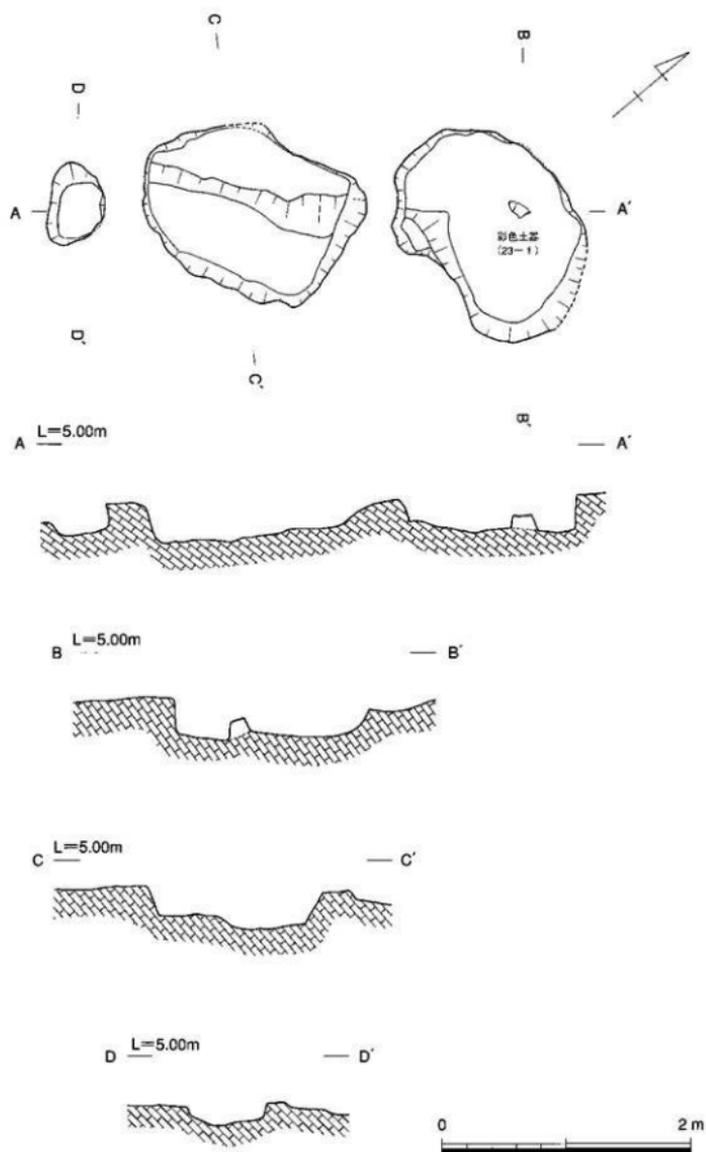
第19図 1区SD-02出土石器及び石製品実測図(1)



第20図 1区SD-02出土石器及び石製品実測図(2)



第21図 1区S D-02出土石器及び石製品実測図(3)



第22図 1区SK-01検出状況及び遺物検出状況図

S K-01

1区西側中央部で検出された3基の土壇である。

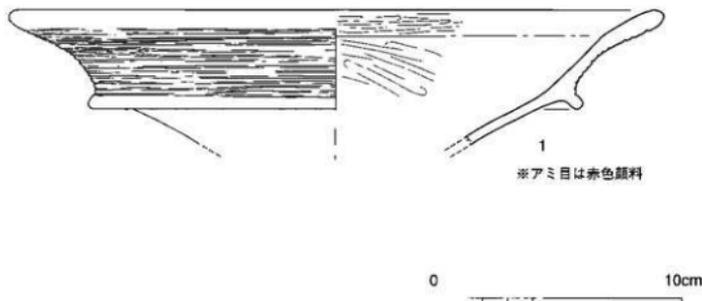
これらの土壇は東西方向に3基ならんで検出された。その中でも一番西側に位置する土壇が最も小型である。平面形は南北方向に長い不整楕円形状を呈し、最大径は0.68mを測る。検出面からの深さは0.26mを測る。遺構内に特殊な構造は認められなかった。

中央に位置する土壇の平面形は東西方向に長い不整楕円形状を呈し、最大径は1.82mを測る。検出面からの深さは0.36mを測る。土壇底面は南側がやや落ち込む形をとるが、それ以外に変わった構造は認められなかった。

東側の土壇の平面形は東西に長い不整楕円形状を呈し、最大径は1.84mを測る。検出面からの深さは0.35mを測る。遺構内に特殊な構造は認められなかったが、中央埋土中より赤色顔料で彩色された弥生上器片が出土した。この上器は弥生時代後期の器台であり、口縁部外面には縦凹線文、内面はヘラミガキが施されている。口径は推定で25.6cmである。

これら3基の土壇はいずれも地山である淡黄褐色粘質土を掘り込んでつくられており、形は不整形で、特殊な構造が見られないことから、粘土の採取坑である可能性が強い。

遺構埋土は淡黒褐色粘性土の単層であり、彩色土器の他に時期不明の弥生土器の細片が含まれ、流れ込みによって一度に埋没したものと思われる。



第23図 1区SK-01出土彩色土器実測図

2区検出遺構

2区においては1区から続く溝状遺構SD-03の他に自然流路SD-04、土壌SK-02が検出された。

SD-03

1区から2区にかけて検出された溝状遺構である。確認された遺構の長さは約50mを測る。

この遺構は2区の北西角から東側中央に向けて直線的に向かい屈折して1区北側中央に至り、再び屈折して直線的に南に向かった後緩やかに曲線を描いて1区南東角に至るものである。

遺構の幅は2～3mを測り、断面形状はU字形を呈するが、2区中央から南部に限っては様相が異なり、遺構上端から下端への落ち込み方がやや緩やかで底部はほぼ平坦面をなす。また、2区中央部では遺構東側部分が調査区外へ逃げており、この部分についての形状は不明である。

2区北壁、及び1区東壁セクションにこの遺構の断面が確認でき、遺構は調査区外北西方向、及び南東方向に続くものであることがわかった。

遺構埋土は淡黒～淡灰茶色粘質土、及び淡黒灰～淡黒褐色粘質土を基本とし、最下層は砂粒や、地山ブロックを含んだ上層となる。層序による出土遺物の時期差は見られず、いずれの土層からも弥生中期中葉から後期中葉にかけての遺物が混ざり合っており出土した。

SD-04

2区南西部で検出された自然流路である。

遺構検出面での幅は2.3～3.7mを測り、検出面からの深さは約0.3mを測る。東西の遺構の長さは約6mを測る。この遺構は2区以西より続くものであり、東側部分はSD-03の掘り込みにより消失したと思われる。

堆積土は、黒褐色～暗茶褐色粘質土、黄灰色粘質土を基本とし、いずれの層からも弥生土器が出土しているが、小片が主であり時期が判別できたのはいずれも弥生中期中葉のものである。

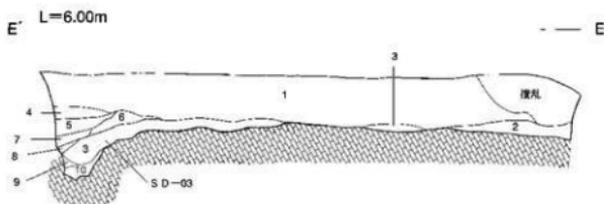
SK-02

2区南西側で検出された性格不明の土壌である。遺構検出面での幅は1.2m、深さは0.4mを測る。遺構底部には直径約0.2mの窪みを有する。遺構理上から遺物は検出されなかった。

木杭跡について

2区北東部では南北約7mの範囲に36箇所の木杭跡が列をなして検出された。木杭跡はいずれも直径が5cm前後を測るものであり、なかには地山南下約0.3mの深さまで打ちこまれているものがあつた。北東部以外ではSD-03、04の遺構上端、下端に沿う形で木杭跡が検出された。いずれの杭跡も直径が5cm前後を測るものであり、地山である淡黄色粘質土、青灰色砂礫層に打ちこまれている。

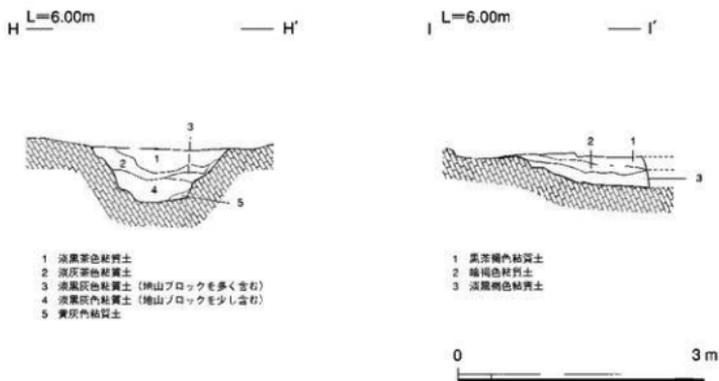
いずれの杭跡も木杭が完全な形で残存しているものは無く、なかにはわずかに先端部分が残るものがあつた。



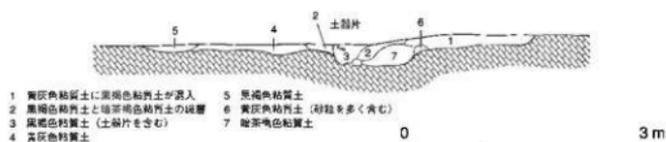
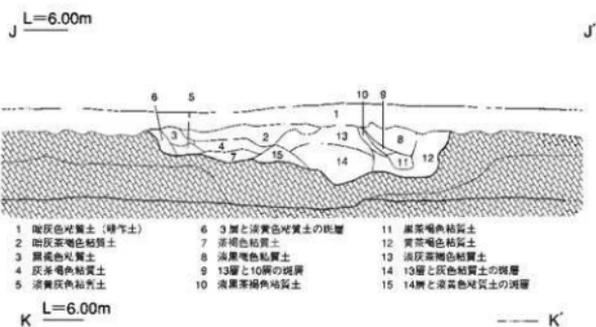
第25図 2区北壁セクション図



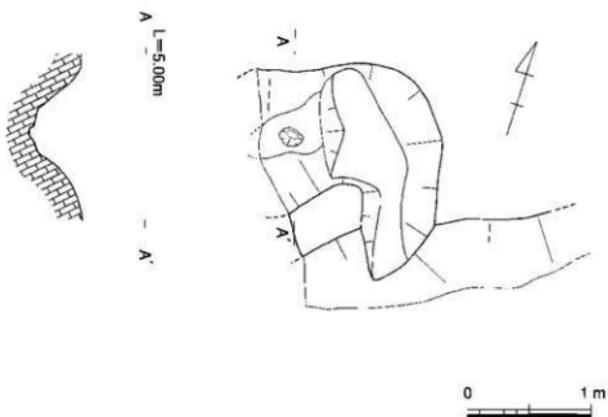
第26図 2区西壁(北側)セクション図



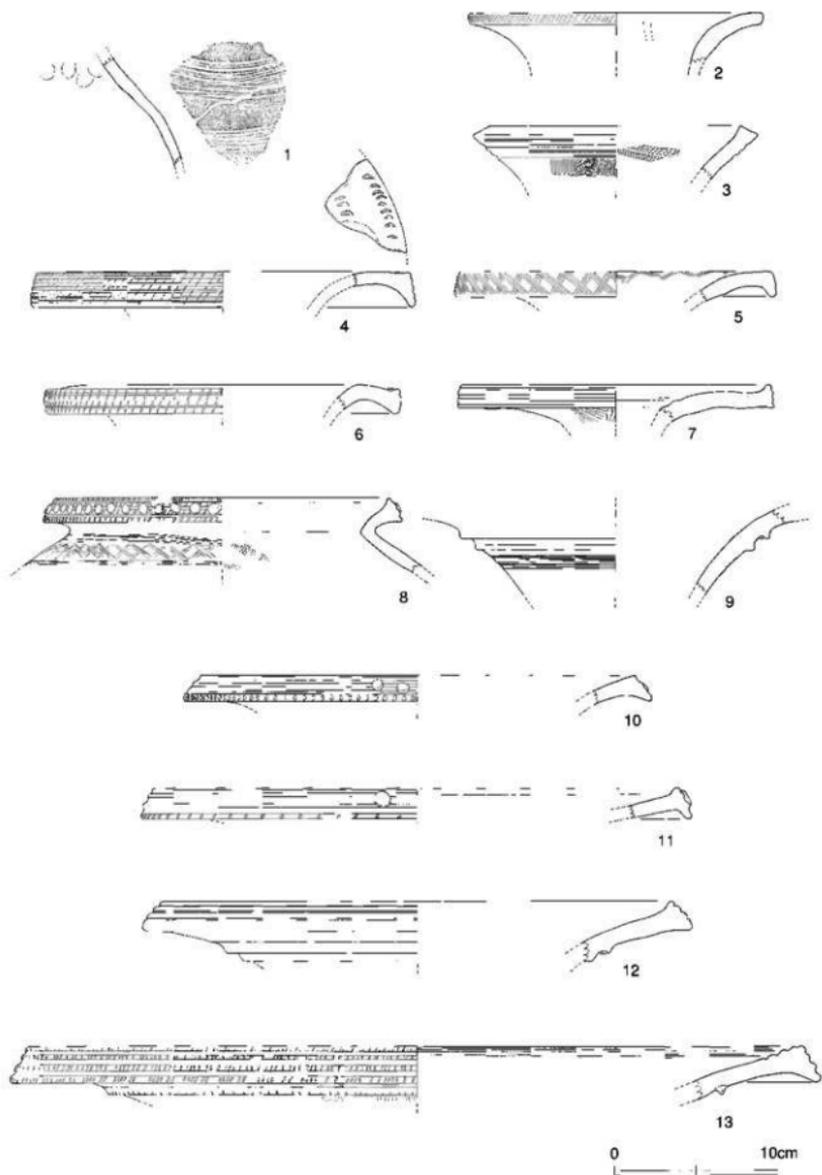
第27図 2区S D-03セクション図



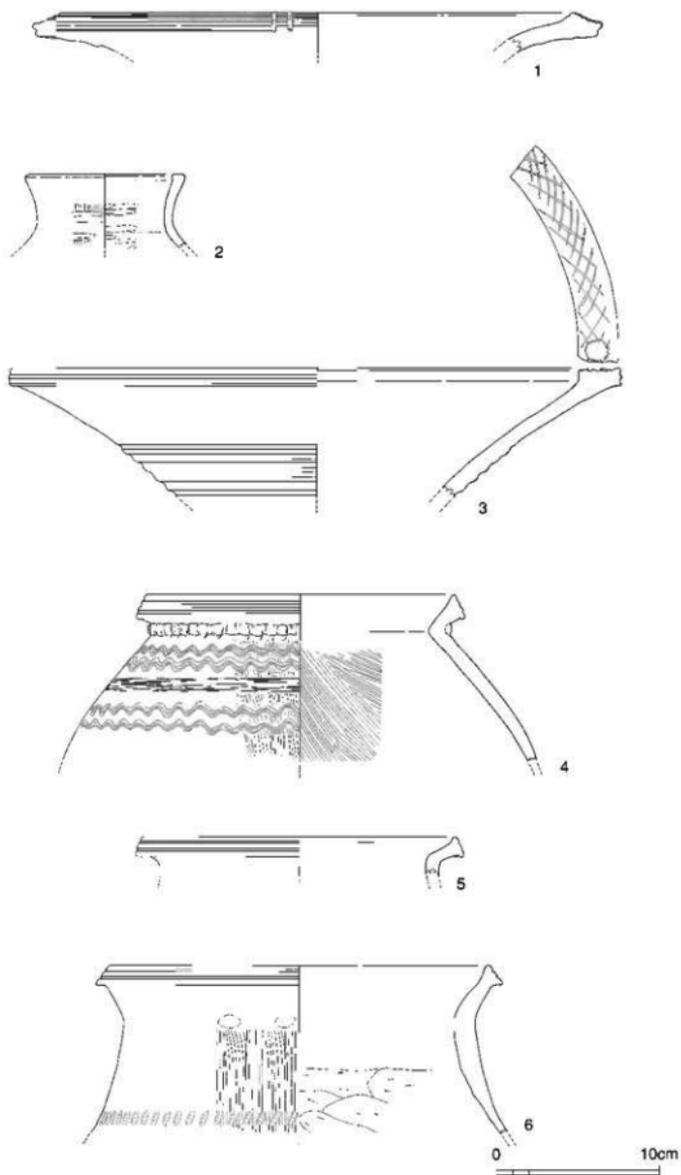
第28図 2区SD-04セクション図



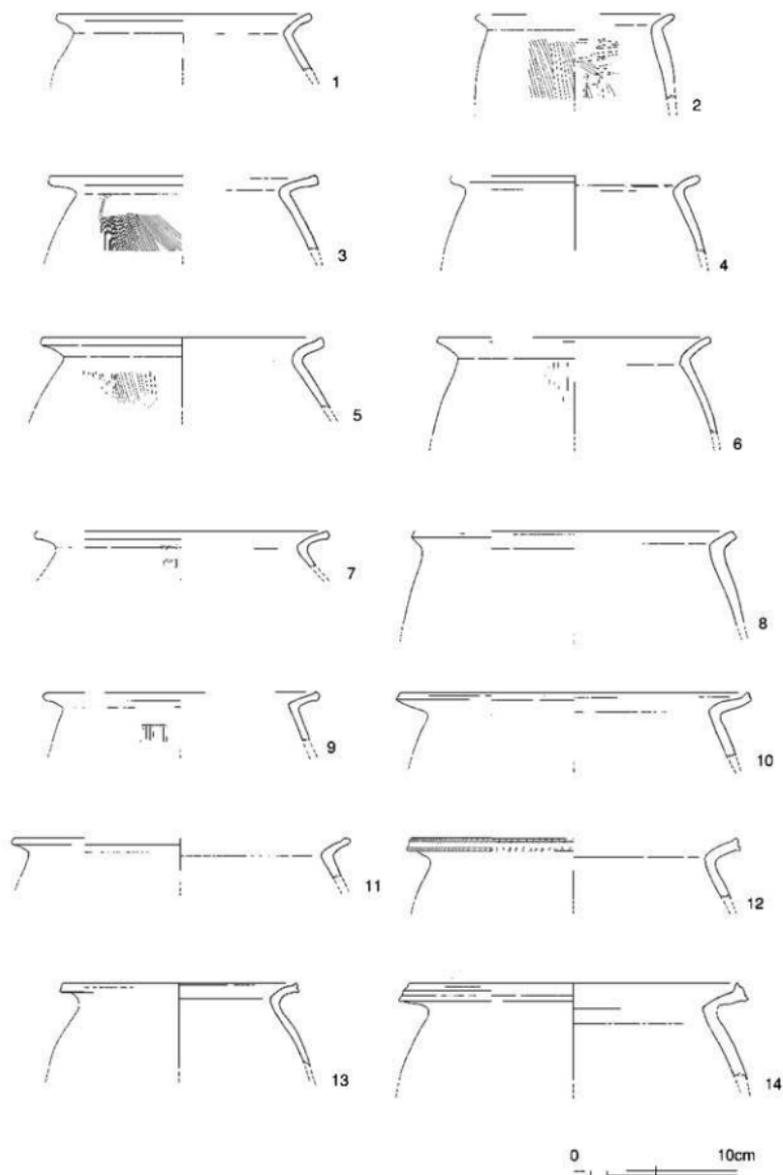
第29図 2区SK-02検出状況図



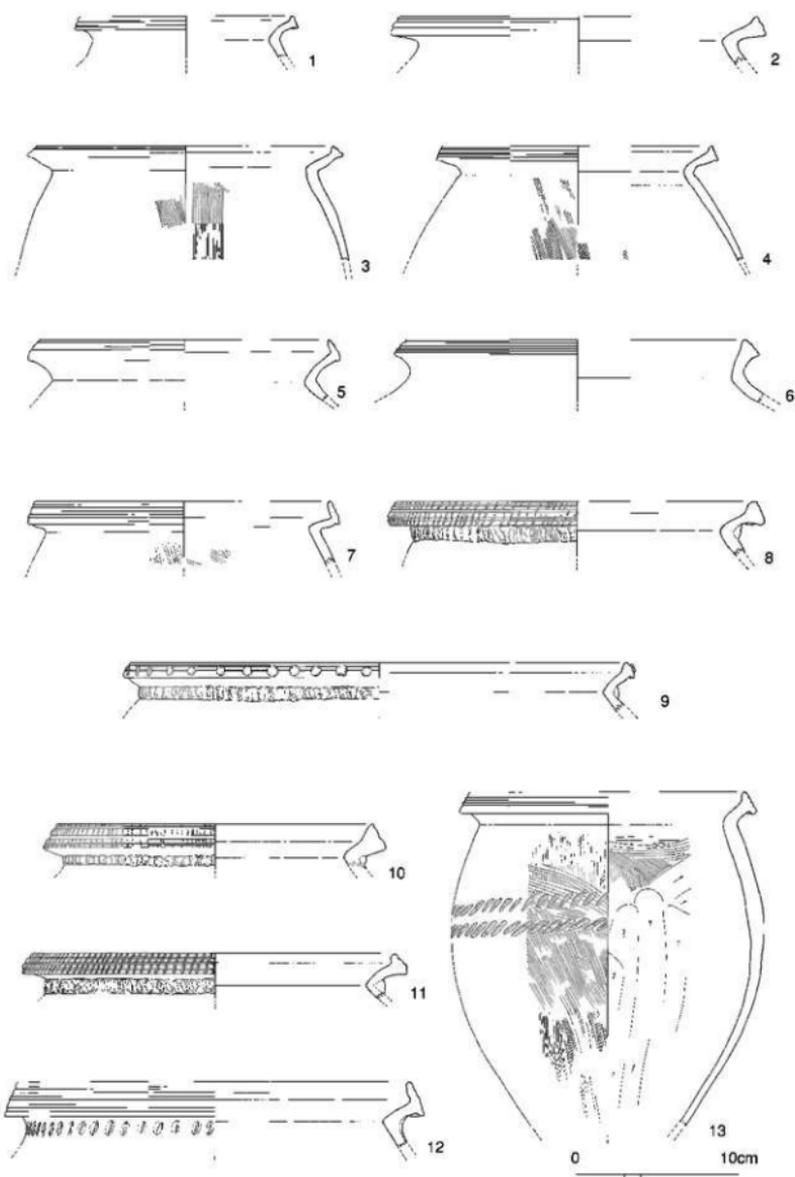
第30图 S D-03出土土器实测图 (1)



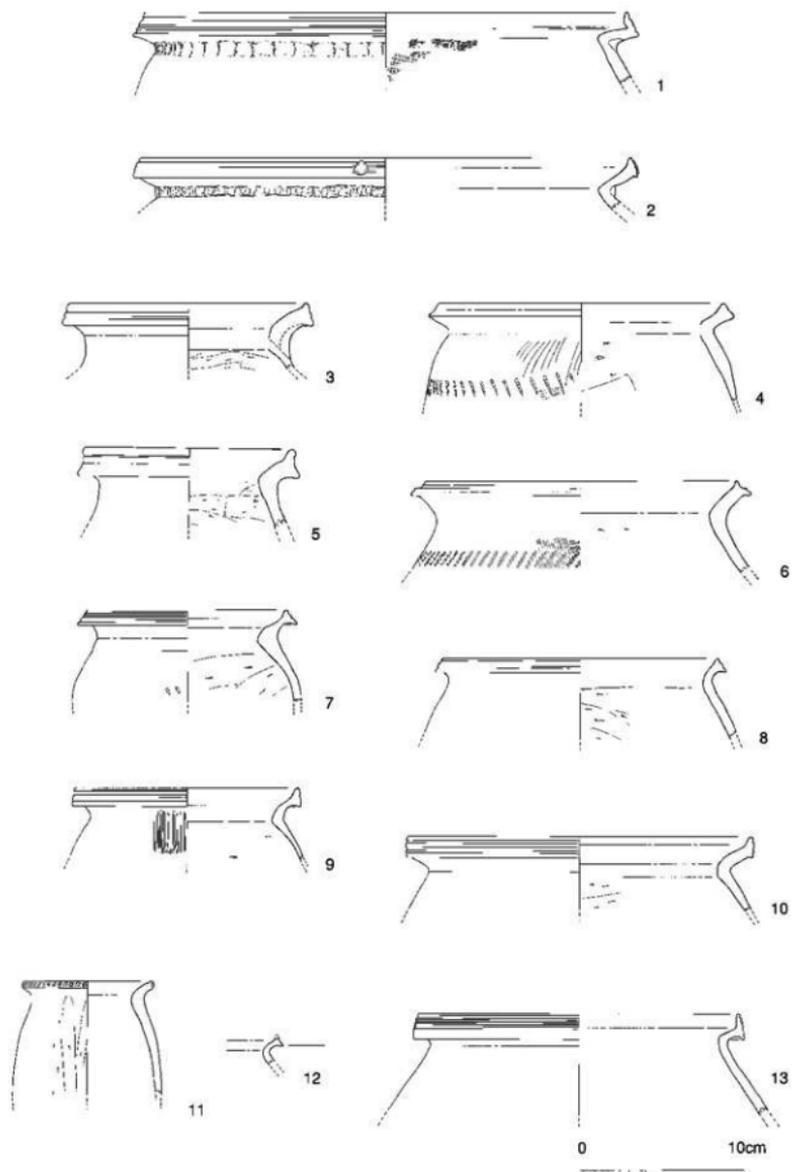
第31图 S D—03出土土器实测图(2)



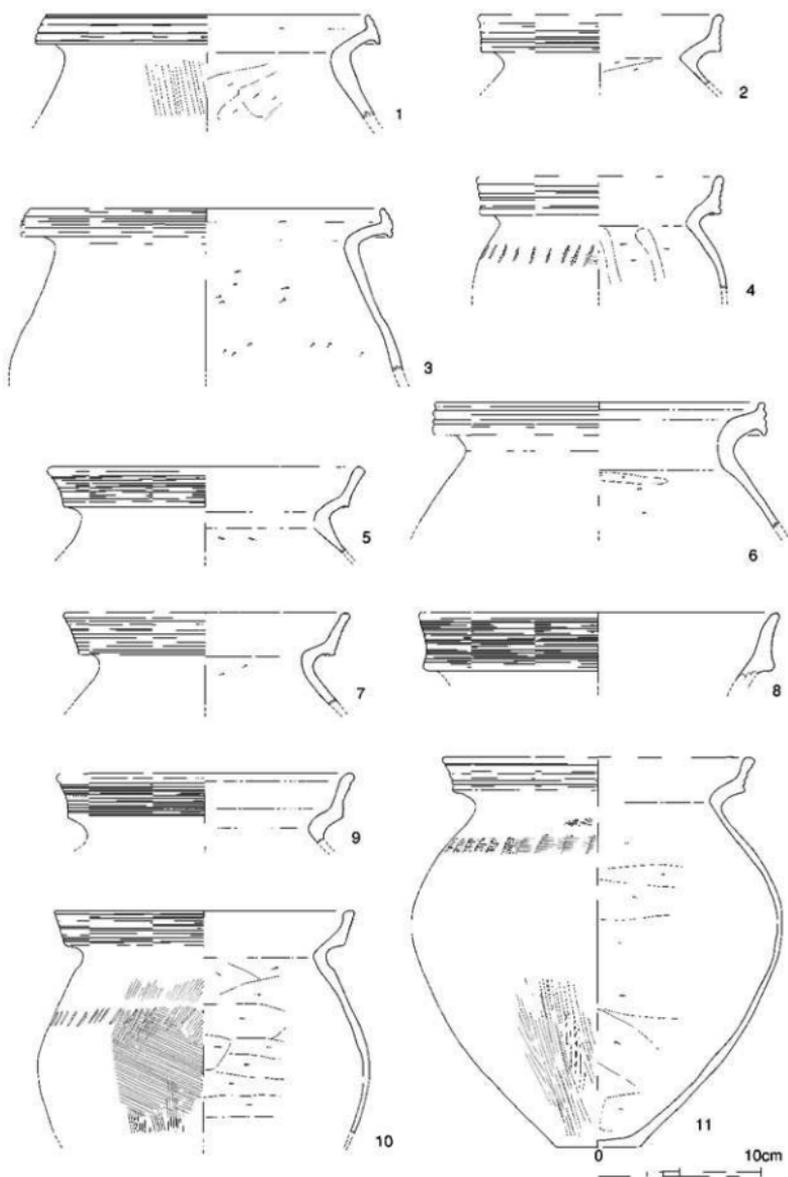
第32图 S D-03出土土器实测图(3)



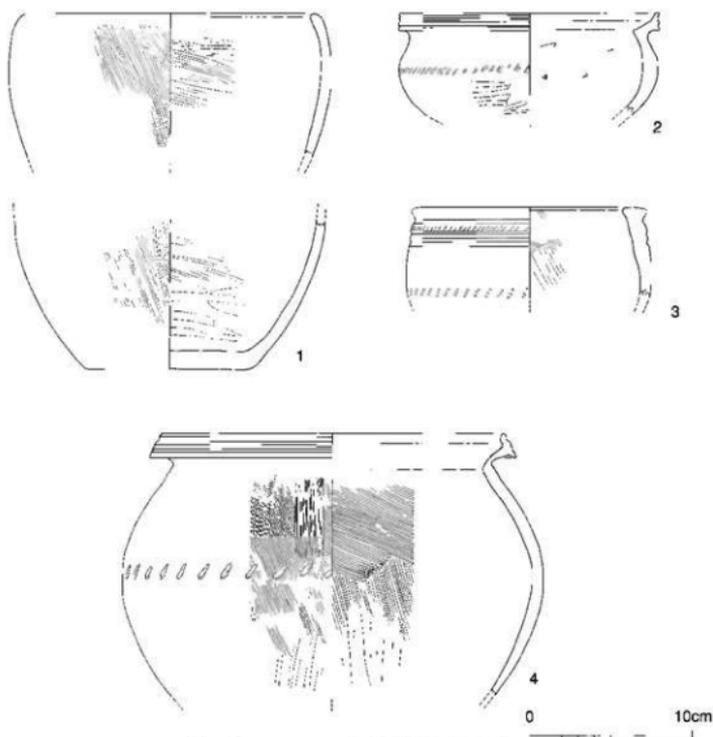
第33图 S D-03出土土器实测图(4)



第34图 S D—03出土土器实测图 (5)



第35图 S D-03出土土器实测图(6)



第36図 S D-03出土土器実測図 (7)

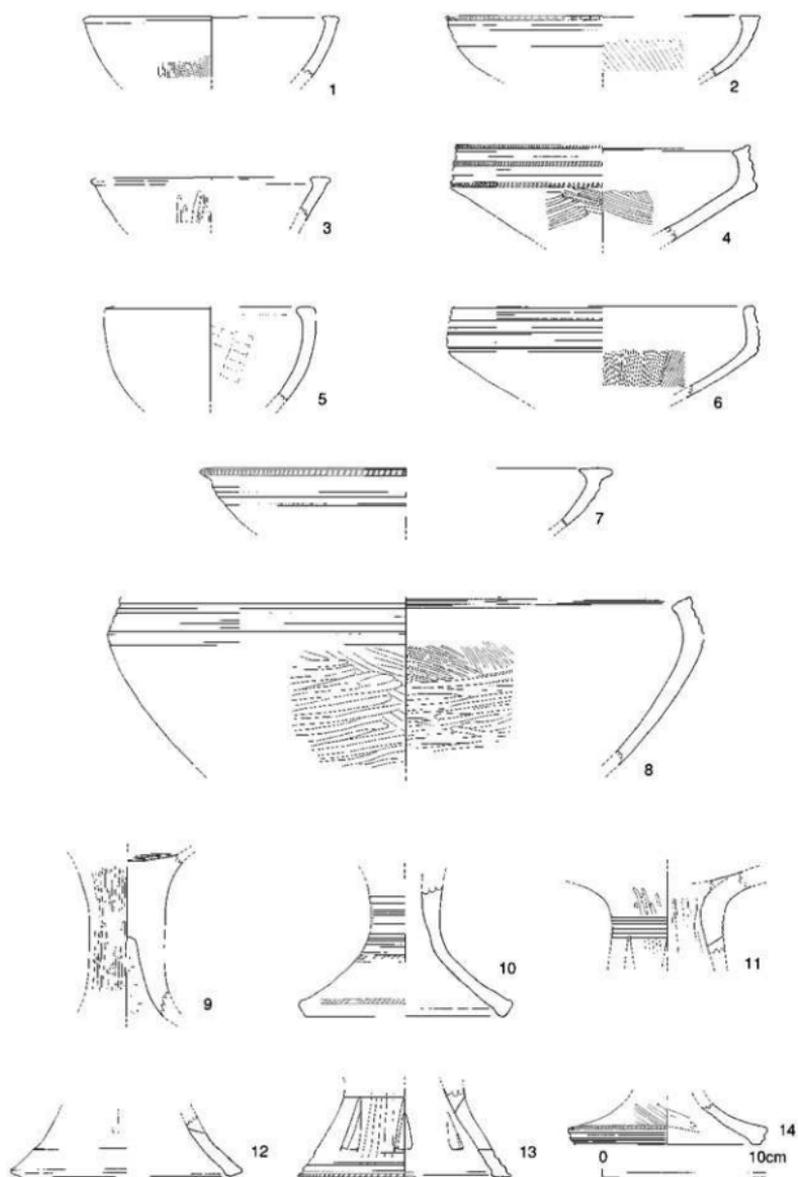
S D-03出土遺物 (第30図~41図)

S D-03では主に弥生中期中葉から後期中葉の遺物が出土している。

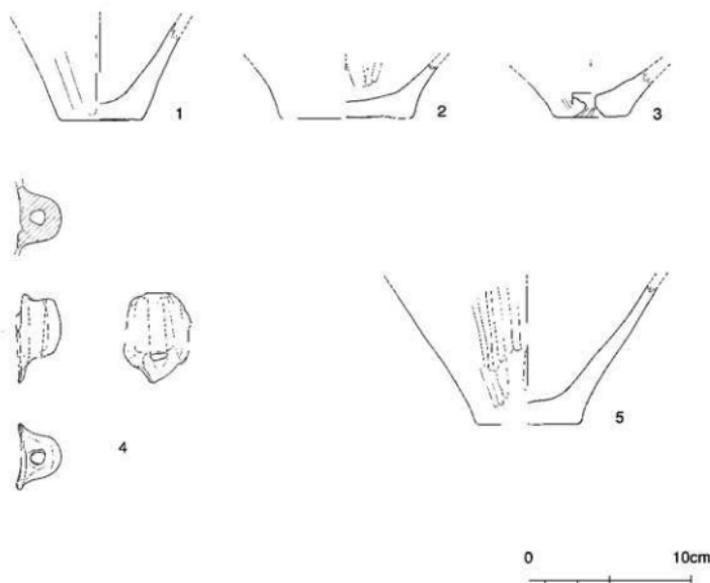
第30図~31図は甕である。30-1は外面に2段の櫛揃直線文が施される中期初頭の甕である。

30-4は口縁端部に5条の凹線文、その上から斜行の刻目文が施され、口縁部内面には刺突文が施される。30-5は口縁端部と口縁部内面に斜格子文が施される。31-3は口縁端部上面に斜格子文と凹形浮文、口縁側面と頸部には凹線文が施される。31-6は後期の甕である。口縁端部には凹線文、頸部には刺突文が施される。調整は内面頸部以下がヘラケズリである。

第32図~35図は甕である。32-3は「く」字状の口縁をもつ甕である。口縁部内外面は横ナデ、外面肩部はハケメ、内面はナデが施される。32-12も「く」字状の口縁を持つ甕であり、口縁端部に1条の凹線文と刻目文が施される。33-9は口縁端部に2条の凹線文、その上に凹形浮文が施され、頸部には指頭圧痕文帯が廻らされている。33-13は口縁端部に3条の凹線文、胴部には2段に刺突文が施されている。外面調整は全体にハケメであり、内面は肩部がハケメ、以下はヘラ削りによる。



第37图 S D—03出土土器实测图 (8)



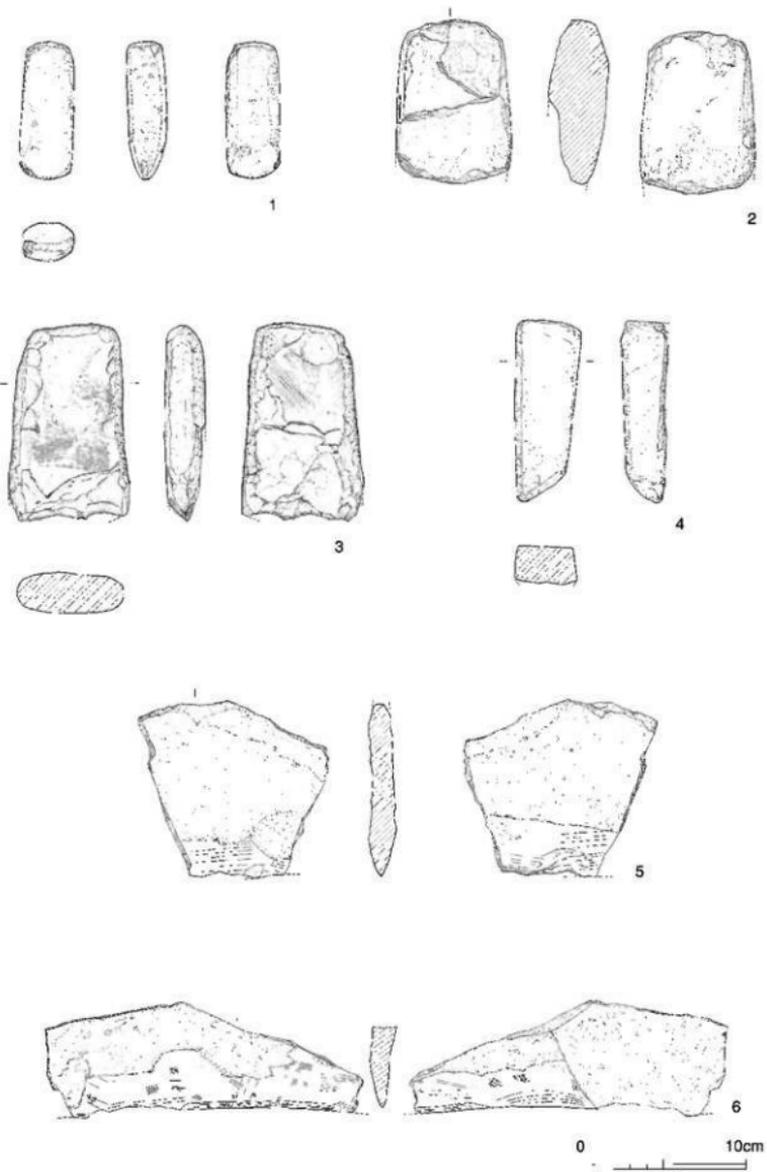
第38図 S D-03出土土器実測図(9)

34-6は口縁端部に2条の凹線文、肩部に刺突列点文が施されている。内面の調整は肩部以下がヘラケズリであり、後期の特徴を持つものである。34-11は細身の甕である。口縁端部には貝殻による刺突文が施される。この土器は外面の調整がヘラケズリという当地域には見られない調整が施され、また胎上も他の土器とは異なるものであることから他地域からの搬入土器である可能性が高い。34-12は小型の甕である。口縁内外面には漆が塗付されている。35-5は複合口縁を持つ後期の甕である。口縁部外面には8条の凹線文が施されている。内面の調整は頸部以下がヘラケズリである。35-10は複合口縁の外面に擬凹線文が施された後期の甕である。胴部外面には刺突文が施されている。内面の調整は頸部以下がヘラケズリである。

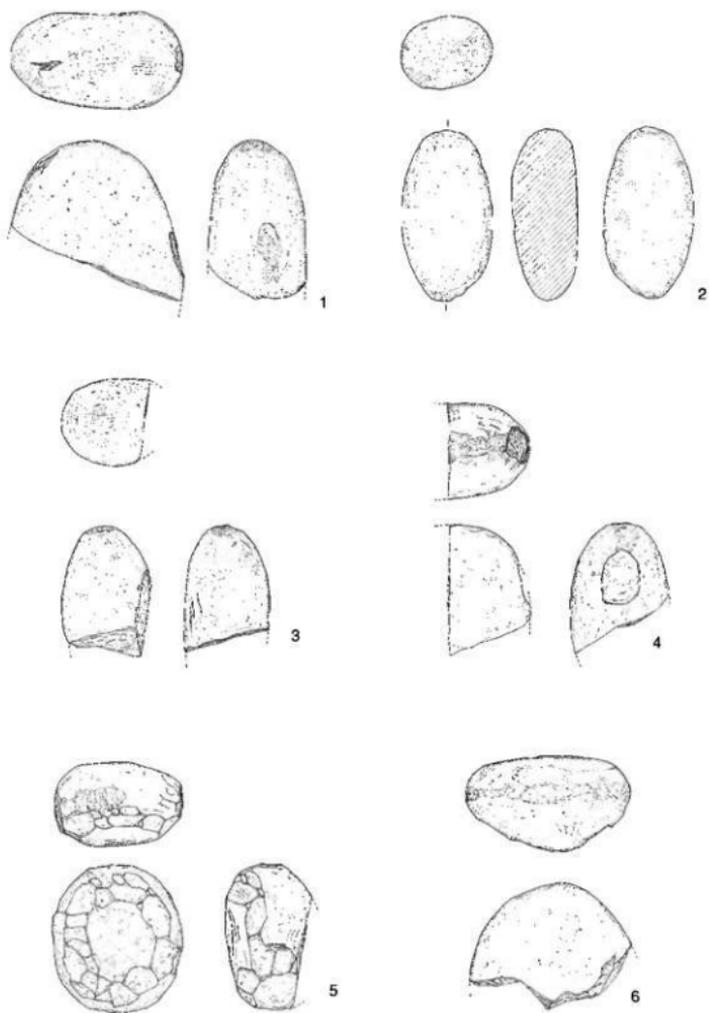
第36図は鉢である。36-1は直口口縁の鉢である。胴部外面はハケメ、内面は胴部上半がハケメ、下半はヘラミガキである。36-2は「く」字状口縁を持つ後期の鉢である。口縁端部には3条の凹線文、胴部には列点文が施されている。内面調整は頸部以下がヘラケズリである。

第37図は高杯である。37-4は口縁部が直立気味に立ち上がる。口縁端部上面と口縁部側面には凹線文が施され、さらに側面には刻目文が施される。杯部内外面の調整はヘラミガキである。37-10は脚部である。筒部側面には凹線文、刻目文が施され、脚端部には刻目文が施される。

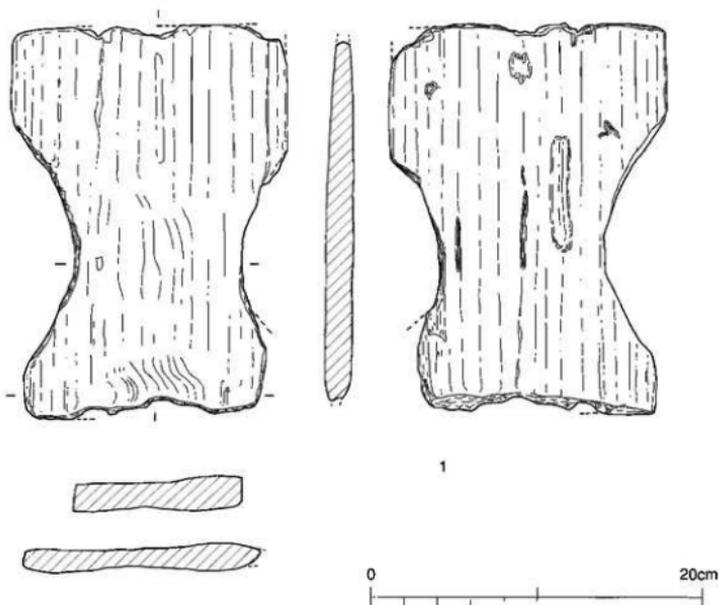
第38図は、底部、及び器種不明土器である。38-3は器種不明の底部であり、中心部に穿孔が認められる。38-4は器種不明の取手状遺物であり、中心に径約0.9cmの孔を有する。



第39図 S D-03出土石器及び石製品実測図 (1)



第40図 S D-03出土石器及び石製品実測図(2)

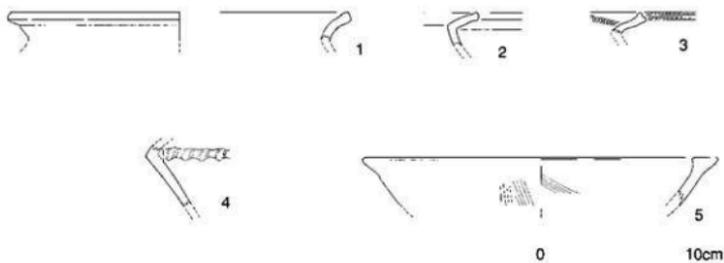


第41図 SD-03出土木製品実測図

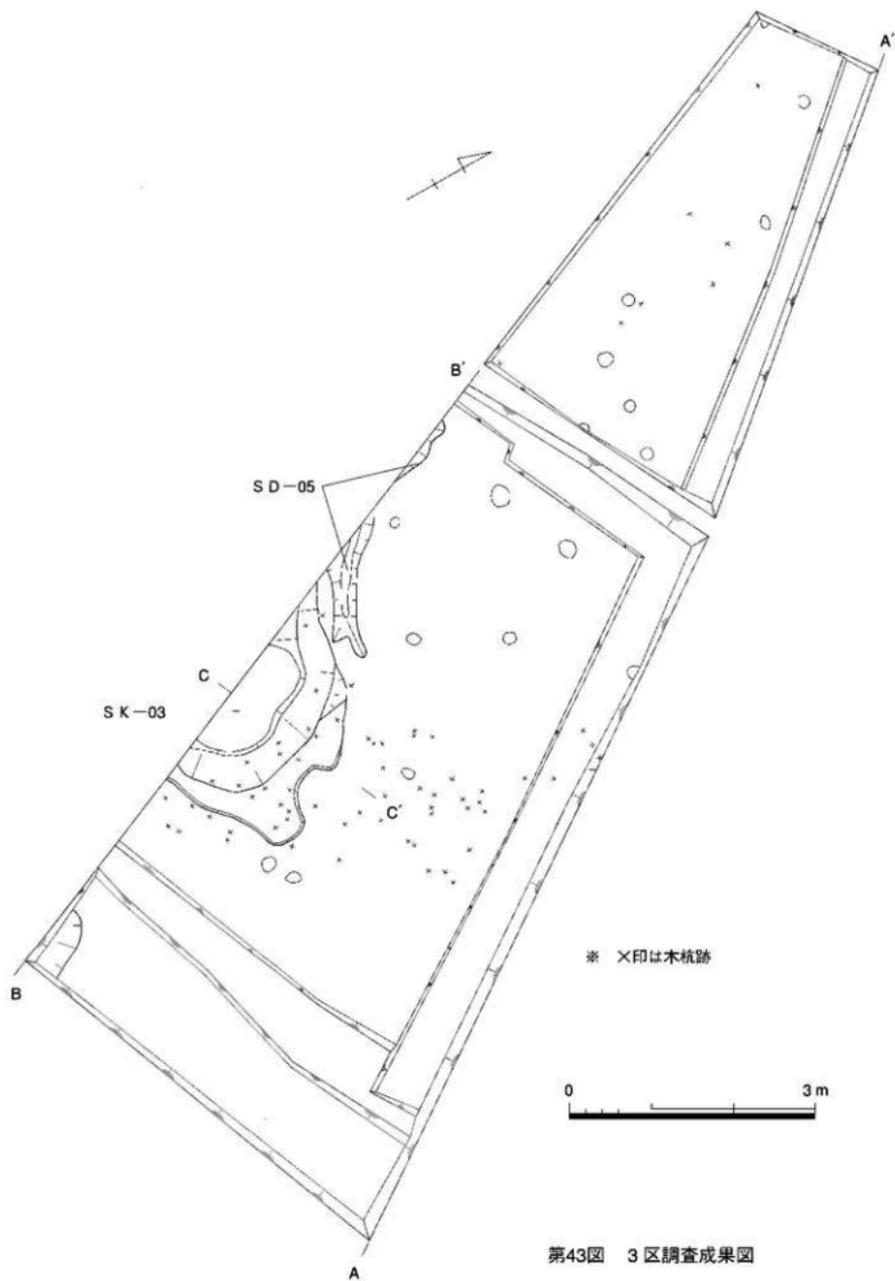
第41図は用途不明の木製品である。中央部両側に凹弧状のくり込みを持つものである。欠損部分を僅かに有するが、ほぼ原形をとどめるものと思われる。

SD-04出土遺物 (第42図)

42-1~4は中期の甕である。42-3は口縁端部に1条の凹線文と刻目が施される。42-4は頸部に指頭丘状文帯が施される。42-5は中期の高杯である。口縁端部は肥厚して上面は平坦面をなす。

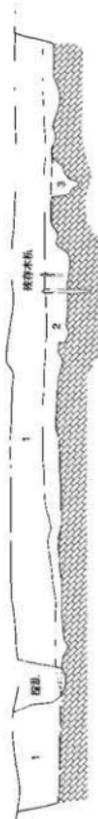


第42図 2区SD-04出土土器実測図



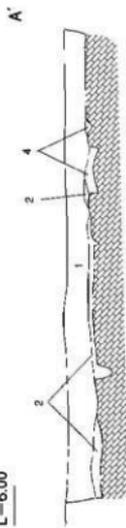
第43図 3区調査成果図

L=6.00m
A



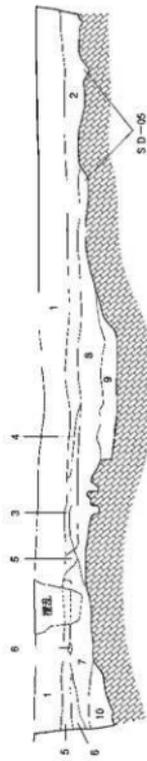
- 1 深灰褐色土に暗茶色土が混入 (耕作土)
- 2 黒褐色土に暗茶色土が混入
- 3 灰赤色土
- 4 深灰褐色土と黄褐色粘質土の混層

L=6.00



第44図 3区東壁セクション図

L=6.00m
B



- 1 深灰褐色土に暗茶色土が混入 (耕作土)
- 2 深灰褐色土
- 3 灰赤色土
- 4 深赤褐色粘質土
- 5 暗灰褐色土
- 6 深灰褐色土
- 7 深赤褐色粘質土
- 8 深赤褐色粘質土の混層
- 9 暗赤褐色粘質土
- 10 暗赤褐色粘質土

L=6.00m

C' — B' — C'



0 3 m

第45図 3区SK-03セクション図

3区検出遺構

3区では土壌SK-03、溝状遺構SD-05、木杭跡、及びピット群が検出された。

遺構上層の堆積土中からは弥生土器片が多数出土したが、器種の判別できるものはわずかであった。その時期としては中期初頭から中頃のものであるが、1区、2区検出の遺物よりやや時期が遅いものである。

SK-03

3区南西部で検出された土壌である。

遺構検出面での幅は3m、底面の幅は1.4mを測る。この遺構は調査区以西に続くものであり、その西側部分についての形状等は不明である。

土壌の埋上は黒褐色粘質土、暗灰色粘質土の2層からなり、いずれの層からも少量の弥生土器片が出土しているが、細片であり器種及び時期の判断はできなかった。遺構底面の暗灰色粘質土中には、木片と思われる有機質の物質が含まれていた。

木杭跡について

3区でも木杭跡が検出された。杭跡は2区で検出されたものと同様に直径が5cm前後を測るものであり、特にSK-03の周辺に集中している。検出された杭跡の数は68箇所である。

SD-05

3区南西部のSK-03北側で検出された溝状遺構である。

遺構検出面での幅は0.3m、深さは約0.1mを測る。遺構の大半は調査区以西に続くものであり、形状等については不明である。

遺構埋上は、SK-03の埋土と同層の黒褐色粘質土と、その上層にあたる黒褐色土からなる。

出土遺物は器種及び時期不明の弥生土器の微細片であった。

ピット群

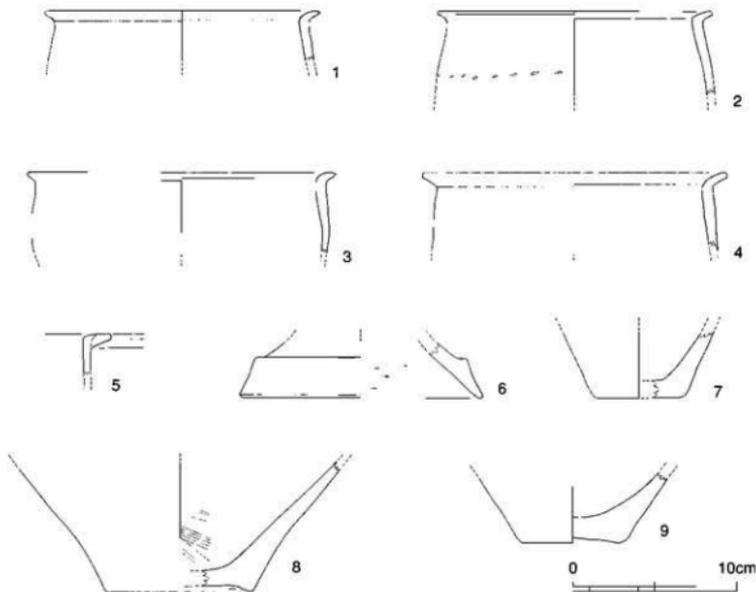
3区では17個の柱穴跡が検出された。柱穴跡は径が0.2~0.3mを測り、その深さは0.1m前後を測るものが主であるが、浅いものでは0.05m、深いものでは0.2mを測る。

柱穴は3区中央に集中して検出されたが、その並び方に規則性は見られず住居跡は存在しないと思われる。

しかし、遺構上面の堆積土である黒褐色土~暗茶色土の中からは弥生土器片や石器に混じって多量の黒曜石片が出土しており、石器製作場としての簡易的な建物があった可能性が考えられる。

出土遺物 (第46図)

3区で出土した弥生土器は時期、器種の区別が付くものが少なく凶化できたものもわずかであった。



第46図 3区出土土器実測図

46-1～4は、「く」字状の口縁部をもつ中期の甕である。器の表面はいずれも摩滅しており調整は不明瞭である。46-2は胴部上半に刺突文が施されており、第Ⅱ様式の文様を残す中期初頭よりやや新しい遺物である。46-5は逆L字状の口縁をもつ中期初頭の鉢、又は甕である。これらの遺物は遺構直上の黒褐色土中より出土している。

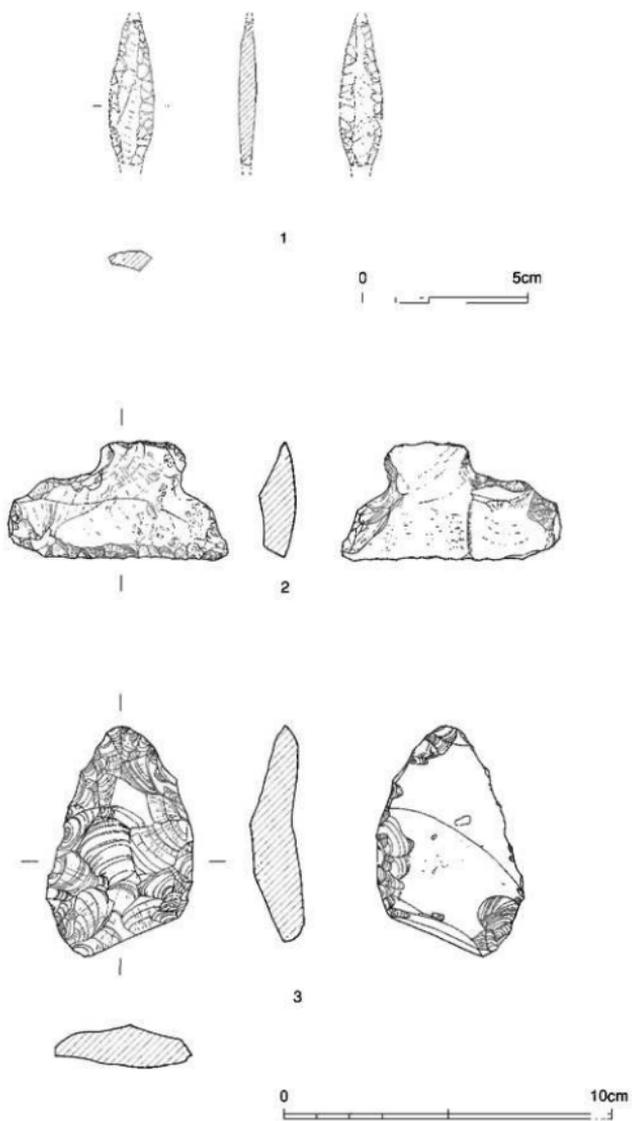
46-6は後期の高杯あるいは帯台の脚部である。表面は全体に摩滅しているが、内面調整はヘラ削りが施されている。この遺物は、前記の遺物より上層から出土しており遺構の時期より新しいものである。46-7～9は甕、あるいは壺の底部と思われる。いずれも内外面は摩滅しており調整は不明瞭である。

3区では6点の石器が出土した。(第47、48図)

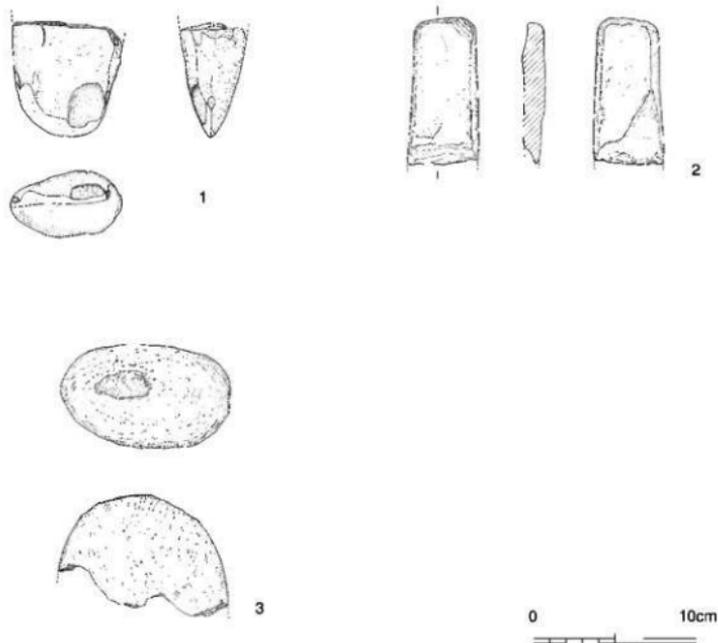
47-1はサヌカイト製の石鏃である。法量は縦4.4cm、横1.3cm、厚さ0.6cm、重さ4.11gを測る。先端部と茎部をわずかに折損する。47-2は横型の石匙である。使用石材は玉髓である。法量は縦3.6cm、横6.7cm、厚さ1.1cm、重さ28.18gを測る。47-3は黒曜石製のスクレイパーである。法量は縦7.1cm、横4.4cm、厚さは1.3cmを測る。48-1は蛤刃石斧であり、基部を折損する。法量は残存長7cm、幅4.3cm、厚さ4cmを測る。刃縁は凹弧状を呈する。全体に風化しており使用痕は認められない。

48-2は石斧であり、刃部を折損する。法量は残存長9.1cm、幅4.3cm、厚さ1.9cmを測る。

48-3は磨石であり、ほぼ半分を欠損する。法量は残存長7.5cm、幅10.3cm、厚さ6.4cmを測る。全体に表面は滑らかであり、1箇所に使用痕跡が認められる。



第47図 3区出土石器及び石製品実測図(1)



第48図 3区出土石器及び石製品実測図(2)

門田遺跡出土の土製品

分銅形土製品 (第49図)

49-1は2区SD-03より出土した分銅形土製品である。この土製品は片側くりこみ部以外を欠損する。厚さは1.8cmを測る。片面には、くりこみ中央とくりこみ部に沿って貝殻による刺突列点文と3条の櫛描線が施されている。胎上は1~1.5mmの砂粒を含み、色調は淡灰茶色を帯びる。

49-2は1区より出土した小型の分銅形土製品であり、下半を欠損する。断面形は紡錘形を呈する。法量は残存長2cm、幅3.2cm、厚さは1cmを測る。片面にはくりこみ部、縁部に沿って刺突列点文が施される。胎上は緻密であり0.5mmほどの砂粒を含む。色調は淡白茶色を帯びる。

分銅形土製品は近畿から中国四国地方にかけて分布する¹¹⁾ものであり、山陰各地でも多くの出土例が報告されている。弥生時代の祭祀にかかる祭具として把握されている¹²⁾これら分銅形土製品の発見は、朱塗りの土器の出土と合わせて、この時代の祭祀に関連した遺跡が本遺跡周辺に存在することを窺がわせるものである。

土玉 (第50図)

50-1は1区SD-02より出上した土玉である。直径は4.1cmを測る。土玉中心に径が0.6cmを測る孔を有する。土玉表面には工具による深い切り込みと浅い切り込みが1条ずつ施され、その方向は孔の方向に一致する。その他には斜め方向の切り込みが1条施されている。表面はナデによる調整が施されている。胎土は黒色を帯び、微小な砂粒を多く含む。焼成は良好である。

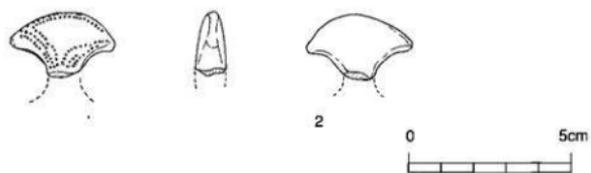
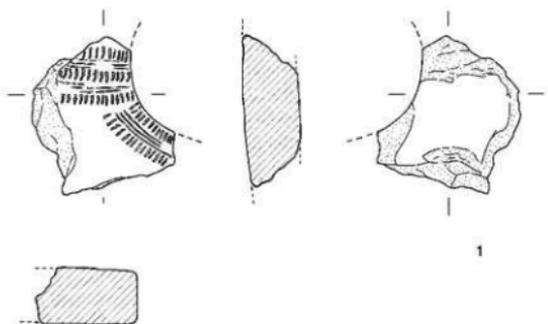
50-2は1と同じくSD-02より出上した小型の上玉である。直径は2.8cmを測る。上玉中心に径が0.4cmを測る孔を有する。表面には工具による浅い3条の切り込みが施されており、その方向は孔の方向に一致する。表面はナデによる調整が施されている。胎土は淡褐色を帯びて緻密である。焼成は良好である。

(1) 笹川龍一「讃岐の分銅形土製品」『香川考古第4号』香川考古刊行会 1995

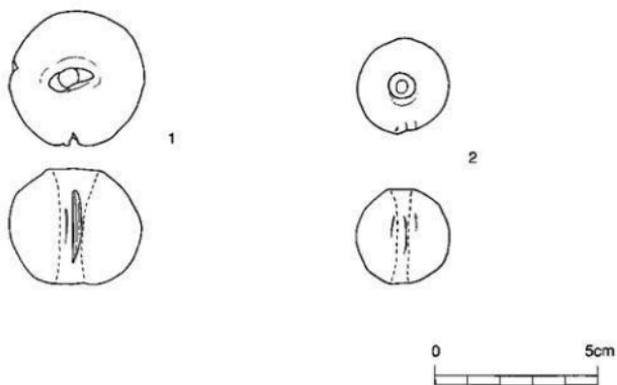
(2) 清水真一「山陰の分銅形土製品」『新田原遺跡県営大山地区園場整備事業に伴う埋蔵文化財の分布調査の記録』大山町教育委員会 1979

遺構外の遺物

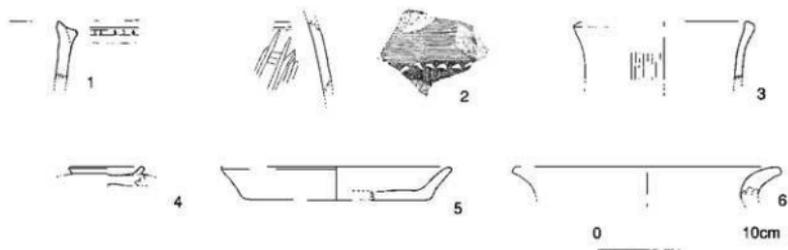
本遺跡の遺構外より出上した遺物を第51岡、52岡にあげた。51-1は縄文式土器の小片である。51-2は弥生土器の小片である。器種は不明である。外面胴部には櫛描直線文、刺突文が施されており、時期としては弥生中期初頭の遺物と思われる。51-3は弥生土器の壺である。内外面は赤茶色を帯びており、上器表面には丹が塗られている。51-4は須恵器の杯のつまみ部分である。51-5は須恵器の杯である。底部は回転糸切によるが、表面は全体に摩滅しており不明瞭である。51-6は須恵器の壺の口縁である。52-1は木製品であり、一端を折損する。法量は残存長51.4cm、幅10.1cm、厚さは2.54cmを測る。ほぼ中心に3×5cmのほぞ穴を有する。建材の一部か。



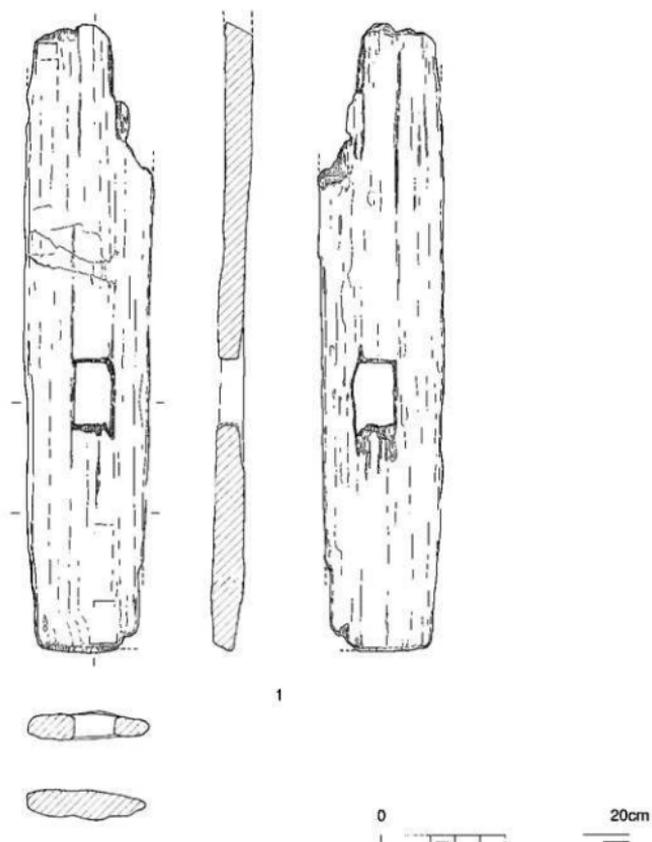
第49圖 門田遺跡出土分銅形土製品実測図



第50圖 門田遺跡出土土玉実測図



第51図 門田遺跡出土遺構外遺物（土器）実測図



第52図 門田遺跡出土遺構外遺物（木製品）実測図

小 結

今回確認された遺構からの出土遺物の時期を、各遺構ごとにまとめると以下のようになる。

- S D-01 弥生中期中葉に限られる。
 - S D-02 弥生中期中葉～後葉が大半を占める。後期初頭が少し含まれる。
 - S D-03 弥生中期中葉～後期中葉。
 - S D-04 弥生中期中頃。
- 3区遺構上層 弥生中期初頭～中葉。

1区、2区検出遺構の土層切合い関係を見ると、S D-02と01の関係は不明だが、S D-03は01、04の後で掘り込まれている。またS D-03は02とほぼ同時に存在していた可能性が高い。これらの前後関係と、それぞれの出土遺物の時期を併せて考えると、次の様に推測することができる。

S D-02と04は自然流路として以前から存在していたとする。まず、3区の遺構が中期の初頭に存在しており、短い間に埋没する。そして同時期、もしくはその直後にS D-01が掘り込まれ、短い間機能した後、中期の中葉にS D-04と共に埋没する。そして、その直後にS D-03が02、04を切る形で掘り込まれる。後期の初頭にS D-02は埋没するが、S D-03は後期の中頃まで存在し、短期間に埋没したものと思われる。

各遺構から出土する遺物は、時期的に限られたものか、または層序による時期差のないものであることから、各遺構は比較的短い間に埋没したものと思われる。当時この周辺では、自然流路の氾濫が頻繁にあったことが窺われる。2区、3区で検出された杭跡は、おそらくは水田の用水路として機能していたと思われるS D-01、03の護岸を目的として打たれたものであろう。

今回の調査では確認できなかったが、本遺跡の周辺には水田跡や多くの出土遺物に伴う当時の住居跡が存在するものと思われる。また、分銅形土製品の出土は祭祀に関係する遺跡の存在を窺わせるものであり、今後の注意が必要である。

本遺跡の出土遺物中から備後北部伊藤編年Ⅳ様式のいわゆる「塚町式」の上器が4点出土している。松江市内では他に、タテチョウ遺跡¹⁰、布田遺跡¹¹からの出土例が報告されており、この時期における当該地方との関係を解明するうえでの資料になり得るものである。

狭い山頂部を取り囲む形で弥生時代の二重の環壕が発見された田和山遺跡群は、本遺跡から南東に傾き800mのところを位置する。この田和山遺跡群も含め、忌部川流域における弥生時代の歴史解明につながる資料を本報告書によって提供できれば幸いである。

(1) 鳥根県教育委員会【朝野川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書―Ⅱ―】1987年

(2) 鳥根県教育委員会【一般国道9号松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書(布田遺跡)】1991年
<参考文献>木下正史編「日本の美術第192号弥生時代」1982年至文堂

SD-O1出土遺物（弥生土器）観察表

観測番号	種類	法量 (cm)	外面調査	内面調査	手法・形状の特徴	胎土	焼成	色調
5-1	甕	口径 10.5 器高 16.1 底径 5.4	口縁部 ココナデ 胴部 一部分 ハケメ 胴部以下 ヘラミゴテ	口縁部 ココナデ 胴部 ハケメ	内面は平直が一部波しい 内面下部 彫削し痕	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	淡緑褐色
5-2	甕	口径 13.1	口縁部 ココナデ 胴部以下 ヘラミゴテ	口縁部 ココナデ 胴部 ナデ	外面は平直している	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	淡灰褐色
5-3	甕	口径 16.6	口縁部 ココナデ 胴部 ハケメ	口縁部 ココナデ 胴部 ハケメ		1mm以下の砂粒を多く含む	良好	淡灰褐色
5-4	甕	口径 13.4	口縁部 ココナデ 胴部 ハケメ	口縁部 ココナデ ナデ	全体に平直している	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	淡緑褐色
5-5	甕	口径 16.6	口縁部 ココナデ 胴部 ハケメ	口縁部 ココナデ ナデ	やや平直している	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	淡灰褐色
5-6	甕	口径 25.0	口縁部 ココナデ 胴上部 ナデ 胴下部 ヘラミゴテ	口縁部 ココナデ ナデ	内外ともに平直が波しい	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	淡緑褐色
5-7	甕	口径 14.1	口縁部 ココナデ 胴部 ナデ 胴下部 ヘラミゴテ	口縁部 ココナデ ナデ		1mm以下の砂粒を多く含む	良好	淡緑褐色
5-8	甕	口径 17.7 器高 20.7 底径 4.9	口縁部 ココナデ 胴上部 ナデ 胴下部 ヘラミゴテ	口縁部 ココナデ ナデ		1mm以下の砂粒を多く含む	良好	淡灰褐色 (内面に黒褐色を帯びる)
5-9	甕	口径 14.4 器高 19.2 底径 4.9	口縁部 ナデ 胴上部 ナデ 胴下部 ヘラミゴテ	口縁部 ナデ 胴上部 ナデ 胴下部 ナデ		1mm以下の砂粒を多く含む	良好	向紫色 (器底から外周下部にかけて黒褐色がある)

SD-O2出土遺物（弥生土器）観察表

観測番号	種類	法量 (cm)	外面調査	内面調査	手法・形状の特徴	胎土	焼成	色調
11-1	甕	口径 19.2	口縁部 ココナデ 胴部 ハケメ	胴部 むかみにハケメ	胴部 粘土線を彫り付けて彫削し痕あり	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	向紫色 (口縁部にやや紫色を帯びた部分と黒褐色あり)
11-2	甕	口径 13.2	口縁部 ココナデ 胴部 ハケメ (ナデ) 胴部 ナデ	口縁部 ココナデ 胴部 物押さえてナデ 胴部 ハケメ	口縁部 3本の彫削文 胴部 2本の彫削文	白色・透明の微砂粒が多い	良好	淡灰色～灰褐色
11-3	甕	口径 16.0 器高 11.9 底径 5.0	口縁部 ハケメ (ナデ) 胴上部 ヘラミゴテ (ナデ) 胴部 ナデ	胴上部 ナデ 胴部 ハケメ		白色・透明の小砂粒が多い	良好	外周: 灰褐色 内面: 灰褐色～淡灰褐色
11-4	甕	口径 12.0	口縁部 ココナデ	口縁部 ココナデ	口縁部 2本の彫削文 胴部 2本の彫削文	白色・透明・灰色の小砂粒が多い	良好	外周: 灰色 内面: 淡灰色
11-5	甕	口径 12.4	口縁部 一部分 ナデ 胴部 ハケメ	口縁部 一部分 ココナデ 胴部 ナデ	口縁部 一部分 ココナデ 胴部 ナデ	1mm未満の白色・灰色・赤色の砂粒を多く含む	良好	外周: 淡灰色 内面: 淡灰色
11-6	甕	口径 11.9 器高 22.0 底径 5.0	胴上部 ハケメ (ナデ) 胴下部 ヘラミゴテ	胴上部 ナデ 胴下部 ナデ	外面胴下部は平直が波しい (ナデ、一部ココナデ)	微砂粒を多く含む	良好	外周: 向紫褐色～淡赤褐色 内面: 黄褐色
11-7	無蓋甕	口径 16.3		口縁部 ナデ	口縁部 上面及び胴部 物押さえてナデ 下部竹管による透気開け 口縁部 彫削し痕 胴部の竹管の跡に4直1斜あり	1mm以下の砂粒を少し含む	良好	淡灰褐色 (口縁部の一部に黒褐色あり)
11-8	甕	口径 26.0	口縁部 ナデ 胴部 ココナデ	口縁部 ナデ	口縁部 上面 斜削しの輪文と内彫削文 胴部 彫削し痕	微小な白色及び透明砂粒を多く含む	良好	褐色～黒褐色
11-9	甕	不明		ケズリ	胴部外面に尖塔が認められる 外面に片を切る	微砂粒を含む	良好	外周: 褐色 内面: 灰褐色
11-10	甕	口径 28.4	小瓶	口縁部 ナデ 胴部 ナデ 胴部 ナデ	口縁部 彫削し痕 胴部 彫削し痕 胴部 彫削し痕	微砂粒を少量含む	良好	向紫色
12-1	甕	口径 34.8	口縁部 ココナデ 胴部 ココナデ	ココナデ	口縁部 3本の彫削文の上には斜削し痕あり 胴部 2本の彫削文の上には斜削し痕あり	2mm以下の砂粒を含む	良好	淡灰褐色
12-2	甕	口径 24.9	口縁部 ハケメ 胴部 ココナデ	口縁部 ハケメ 胴部 ココナデ	口縁部 2本の彫削文の上には斜削し痕あり 胴部 2本の彫削文の上には斜削し痕あり	2mm以下の砂粒を含む	良好	外周: 淡灰色 内面: 淡灰色
12-3	甕	口径 25.9	口縁部 ココナデ	口縁部 ココナデ	口縁部 3本の彫削文の上には斜削し痕あり 胴部 2本の彫削文の上には斜削し痕あり	白色の微小砂粒が多い	良好	淡灰褐色～黒褐色
12-4	甕	口径 25.3	口縁部 ナデ 胴部 ココナデ	口縁部 ナデ 胴部 ココナデ	口縁部 上面 斜削しの輪文と内彫削文 胴部 彫削し痕	0.5mm以下の砂粒を含む	良好	淡褐色～淡紫色
12-5	甕	口径 28.5	口縁部 ココナデ	口縁部 ココナデ	口縁部 上面 斜削しの輪文と内彫削文 胴部 彫削し痕	1mm以下の砂粒を含む	良好	淡灰褐色 (器底の所無内)
12-6	甕	口径 36.8	口縁部 ナデ 胴部 ナデ 胴部 ナデ	口縁部 ナデ 胴部 ナデ 胴部 ナデ	口縁部 上面 斜削しの輪文と内彫削文 胴部 彫削し痕	1mm程度の砂粒を含む	良好	淡灰褐色
13-1	甕	口径 38.4 器高 25.0 底径 5.6	口縁部 ナデ 胴部 ハケメ 胴部 ヘラミゴテ	口縁部 一部分 ナデ 胴部 ナデ 胴部 ナデ	胴部 彫削し痕 胴部 ナデ 胴部 ナデ	外周: 向紫色 内面: 淡灰褐色	良好	外周: 紫色 内面: 淡灰褐色

図録番号	種類	直径 (cm)	外 形 特 徴	内 面 装 装	手法・形跡の特徴	物 土	構成	色 調
16-5	蓋	口径 15.9	口縁部 ココナデ 胴部以下 ハケメ (約め)	口縁部 ココナデ 胴部 ハケメ後ナデ	口縁部部 4条の凹線文 (断面に残り) 胴部 筋土部を帯び付け残りに付	0.5mm以下の砂粒を多く含む	良好	淡褐色
16-6	蓋	口径 23.0	口縁部 ココナデ 胴部 ハケメ	口縁部部 ココナデ 胴部 ハケメ	口縁部部 3条の凹線文 胴部 筋土部を帯び	1mm以下の砂粒を含む	良好	外面: 淡褐色-灰褐色 内面: 淡褐色
16-7	蓋	口径 23.2	口縁部 ココナデ 胴部 ハケメ	口縁部部 ココナデ 胴部 ハケメ	口縁部部 3条の凹線文 胴部 筋土部を帯び	0.5mm以下の砂粒を含む	良好	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色
17-1	無蓋鉢 (厚肉式)	胴部最大径 27.4	胴部 ハケメ後ナデ	胴部 ハケメ後ナデ	口縁部 口縁をわずかに欠け 胴部 斜行刺突文 (列点文) 胴部 斜行刺突文の上下、中央に3条の凹線文を帯び	白・灰色、透明砂粒が多い	良好	淡褐色-黒褐色
17-2	蓋	口径 15.0	口縁部 ココナデ	口縁部以下 ヘラケズリ	口縁部部 1条 (1.5mm) の凹線文 外面に凹凸付着	微砂粒を含む	良好	外面: 淡褐色-灰褐色 内面: 淡褐色
17-3	蓋	口径 25.8	口縁部一部 ココナデ	口縁部部 ココナデ, ハケメ 胴部以下 ヘラケズリ	口縁部部 3条の凹線文	1mm前後の砂粒を多く含む	良好	外面: 淡褐色-灰褐色 内面: 淡褐色
17-4	蓋	口径 17.8	口縁部 ココナデ	口縁部部 ココナデ 胴部以下 ヘラケズリ	外面に凹凸付着	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	外面: 赤褐色 内面: 淡褐色
17-5	蓋	口径 18.0	口縁部 ココナデ 胴部 ハケメ後ナデ	口縁部部 ココナデ 胴部以下 ヘラケズリ	口縁部部 2条の凹線文 一部に凹凸付着	1-2mm大の砂粒を含む	良好	淡褐色
17-6	鉢	口径 23.4	胴部ハケメ 胴部ハケメ (斜め方向)	胴部以下 ヘラケズリ	残存 8×6cm大の刺突文	1mm以下の砂粒を含む	良好	表面: 淡褐色 断面: 灰色
17-7	鉢	口径 30.0	不明	不明	口縁部部 凹線文 口縁部内面にしほり文	微砂粒を多く含む	良好	白黄褐色 (赤色染料を塗付)
17-8	鉢	口径 34.7	口縁部 ココナデ 胴部 ハケメ, ミダキ (タコ)	胴部 ハケメ 胴部以下 ヘラケズリ	口縁部部 3条の凹線文 胴部 2條の連続刺突文	微砂粒を含む	良好	白黄褐色 (外面一部黒化)
18-1	鉢	口径 17.6	口縁部 ココナデ 口縁部部 ハケメ後 ヘラミダキ	口縁部部 ココナデ 口縁部部 ハケメ	口縁部部 筋目目 口縁部部 1条 2条の凹線文	0.5mm以下の砂粒を含む	良好	淡褐色
18-2	高杯	口径 19.8	口縁部 ココナデ	口縁部部 ココナデ	口縁部部 筋目目	1mm未満の白灰・灰砂粒を多量に含む	やや好	外面: 淡灰色 内面: 淡紅色
18-3	高杯	口径 21.3	口縁部 ナデ	口縁部部 ナデ	口縁部部 筋目目	1mm以下の砂粒を多量に含む	良好	外面: 淡灰褐色 内面: 淡灰褐色
18-4	高杯	口径 12.8	胴部 赤土を染めたハケメ 胴部ハケメ	胴部内面 ヘラケズリ 口縁部部 ナデ	胴部上部に6条の刺突文 胴部内面に凹凸付着	2mm以下の砂粒を含む	良好	白赤 胴内面 1条は凹線文 (内面)
18-5	高杯	口径 26.4	口縁部 ココナデ 口縁部部 ナデ 胴部以下 ハケメ (タコ)	口縁部部 ココナデ 口縁部部 ナデ	口縁部部 筋目目 口縁部部 1条 2条の凹線文	白・灰・褐色等の砂粒を多量に含む	良好	淡灰褐色
18-6	高杯	口径 38.5	口縁部 ココナデ 口縁部部 ヘラミダキ	口縁部部 ココナデ 口縁部部 ハケメ 胴部部 ハケメ	3条の凹線文, 4条の凹線文	1mm未満の白灰砂粒を多く含む	良好	外面: 淡褐色-灰褐色 内面: 灰褐色
18-7	高杯	口径 6.2	胴部 ヘラミダキ	胴部部 ヘラミダキ 胴部部 ハケメ 胴部部 ヘラケズリ ナデ		2mm以下の砂粒を多く含む	良好	灰褐色
18-8	蓋	不明	不明	不明	刺突文 3条の凹線文 内面は凹凸	0.2mm程度の砂粒を多く含む	良好	暗灰褐色
18-9	内付鉢 底部	口径 6.5	胴部一部 ナデ	胴部部 ナデ		1-2mm大の砂粒を少々含む	良好	外面: 赤褐色 内面: 淡灰褐色
18-10	内付鉢 上部	口径 2.8-3.2	胴部 ナデ	胴部部 ナデ	筋目目	白灰を多量に含む	良好	灰褐色
18-11	不明	口径 6.1	胴部以下 ヘラミダキ (少)	胴部部 ナデ		空孔が中心よりずれている	良好	外面: 灰褐色
18-12	不明	口径 3.8-3.9	胴部以下 ヘラミダキ 胴部部 ハケメ	胴部部 ナデ	中央に径1.4cmの穴	1mm未満の砂粒を多く含む	良好	外面: 暗褐色-暗褐色 内面: 暗褐色-黒褐色
18-13	底部	口径 3.4	胴部以下 ナデ	胴部部 ナデ		1mm以下の砂粒を多く含む	良好	淡褐色-黒褐色
18-14	底部	口径 8.7	胴部以下 ナデ 胴部部 ハケメ	胴部部 ナデ		1mm大の砂粒を多量に含む	良好	淡灰褐色 (断面 暗灰褐色)
18-15	底部	口径 0.4	胴部以下 ナデ 胴部部 ハケメ (タコ)	胴部部 ナデ		微砂粒を多く含む	良好	外面: 淡褐色-灰褐色 内面: 淡褐色
18-16	不明 口縁部	口径 13.9	不明	ハケメ	凹線文	1mm以下の砂粒を含む	良好	外面: 黒色-暗褐色 内面: 淡褐色
18-17	底部	口径 6.0	胴部 ナデ	胴部部 ナデ	赤色染料の付着あり 黒化により調整不明	1-3mmくらい程度の砂粒を含む	良好	外面: 淡褐色-灰褐色 内面: 灰色

SK-O1出土遺物 (弥生土器) 観察表

図録番号	種類	直径 (cm)	外 形 特 徴	内 面 装 装	手法・形跡の特徴	物 土	構成	色 調
23-1	水次	口径 25.6	下部 ココナデ 残存高 5.3		上端: ミダキ (タコ) 胴部: 斜め刺突文 (底のため不明)	1-2mmの白色砂粒を含む	良好	赤褐色 (内面に 濃褐色あり)

SD-O3出土遺物（弥生土器）観察表

観測番号	種類	法量 (cm)	外面 測量	内面 測量	手法・形制の特徴	胎土	胎成	色 調
30-1	甕	不明	ヘラミダナ	ナデ	コゴテ文に2段の條線文	3mm程度の砂粒を含む(中程度)	良好	灰黄色
30-2	甕	口径 17.6	ナデ	ナデ	口縁部 滑込文	1-2mm程度の砂粒を少し含む(少中程度)	良好	暗灰褐色
30-3	甕	口径 15.3	口縁部 ヌツナデ 口縁下部 ハケミ(斜)	口縁部 ヌツナデ 口縁下部 ハケミ(斜)	口縁部 4条の凹線文	0.5mm以下の砂粒を多く含む	良好	淡灰褐色 (外は黒灰色に帯びる)
30-4	甕	口径 22.4	コナナデ	コナナデ	口縁部 5条文 斜行條線文 口縁部内面 斜線文	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	暗赤褐色
30-5	甕	口径 18.0	コナナデ	コナナデ	口縁部 4条の凹線文 口縁部 滑込目付手文	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	淡褐色
30-6	甕	口径 21.3	コナナデ	コナナデ	口縁部 2条の凹線文の上に2段の斜行條線文	1mm程度の砂粒を含む	良好	淡灰褐色
30-7	甕	口径 18.7	口縁部 ヌツナデ 口縁下部 ハケミ(斜)	口縁部 ヌツナデ	口縁部 3条の凹線文	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	内面: 暗色 外面: 褐色
30-8	甕	口径 20.2	口縁部 ヌツナデ 口縁下部 ハケミ(斜)	口縁部 ヌツナデ 口縁下部 ハケミ(斜)	口縁部 3条の凹線文の上に斜行條線文 口縁部 表面文の間に斜行手文 外面に斜行條線文、風車	1mm以下の砂粒、雲母を含む	良好	白灰色
30-9	甕		コナナデ	コナナデ	口縁部 2条文、凹線目付手文	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	淡褐色
30-10	甕	口径 26.4	コナナデ	コナナデ	口縁部 3条の凹線文の上に斜行手文、通目	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	淡灰褐色
30-11	甕	口径 31.8	コナナデ	コナナデ	口縁部 3条の凹線文 口縁部 通目	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	褐色
30-12	甕	口径 31.0	コナナデ	コナナデ	口縁部 3条の凹線文 口縁下部 条線文	1mm程度の砂粒をわずかに含む	良好	暗・淡灰褐色
30-13	甕	口径 42.1	ナデ 口縁下部 ハケミ(斜)	ナデ	口縁部 3条の凹線文 通目 口縁部内面 4条の凹線文 口縁下部 条線文	1-2mm程度の砂粒を少し含む	良好	外面: 淡灰褐色 内面: 淡灰黄色 底面: 暗灰色
31-1	甕	口径 31.1	コナナデ	コナナデ ナデ	口縁上部 4条の凹線文の上に斜行手文 口縁部 1条の凹線文	1mm以下の砂粒、雲母を多く含む	良好	外面: 暗灰褐色 内面: 淡灰褐色 底面: 暗灰色
31-2	甕	口径 34.1	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ハケミ(斜)ヘラミダナ(斜)	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ヘラミダナ(斜)	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ヌツナデ	白色小砂粒が多い	良好	淡灰褐色
31-3	甕	口径 37.0	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ハケミ(斜)ヘラミダナ(斜)	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ヘラミダナ(斜)	口縁上部 斜行手文 口縁部 7条文	1mm以下の白色・灰色等の砂粒を多く含む	中々	外面: 淡褐色 内面: 淡褐色・灰色
31-4	甕	口径 18.7	口縁部 ハケミ(斜)	口縁部 ヌツナデ 口縁部 斜いハケミ	口縁下部 斜線文(6条程度)	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	白土 (外縁部等に黒色あり)
31-5	甕	口径 19.0	コナナデ	コナナデ	口縁部 3条の凹線文 口縁部 1条文 条線文、直線文	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	淡褐色 内面: 淡褐色 底面: 暗灰色
31-6	甕	口径 23.0	口縁部 ナデ 口縁部 ハケミ(斜)	口縁部 ナデ 口縁部 ヘラミダナ(斜)	口縁部 2条の凹線文 口縁部 斜行條線文(斜点文)	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	淡褐色
32-1	甕	口径 15.6	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ハケミ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	1mm程度の砂粒が多い	良好	外面: 暗褐色 内面: 暗褐色
32-2	甕	口径 11.8	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ハケミ	口縁部 ナデ 口縁部 ヘラミダナ(斜)	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	白色小砂粒を多く含む	良好	暗赤・灰褐色
32-3	甕	口径 16.2	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ハケミ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	1mm程度の砂粒を少し含む	良好	暗灰褐色
32-4	甕	口径 13.0	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ハケミ	口縁部 ナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ナデ 口縁部 ナデ	1mm程度の透明の砂粒を少し含む	良好	黄褐色
32-5	甕	口径 17.0	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ハケミ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	1mm以下の砂粒を少し含む	良好	内面: 暗褐色 外面: 暗灰褐色
32-6	甕	口径 16.5	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ハケミ(斜)	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	黄褐色
32-7	甕	口径 17.8	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ハケミ(斜)	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	淡褐色
32-8	甕	口径 19.4	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	暗灰褐色
32-9	甕	口径 16.4	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ハケミ(斜)	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	0.5mm以下の砂粒を含む	良好	黄褐色
32-10	甕	口径 21.2	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	外面: 暗褐色 内面: (口縁部) 暗褐色 (胴部) 暗灰褐色
32-11	甕	口径 20.4	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	外面: 淡褐色
32-12	甕	口径 18.8	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	口縁部 ヌツナデ 口縁部 ナデ	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	外面: 淡褐色

検体番号	種類	長さ (mm)	外形	調整	表面調整	手法・調整の特徴	色調	
32-13	黄	142	口縁部 ヌコナデ 胴部 ナデ	口縁部 ヌコナデ 胴部 ナデ	口縁部 ヌコナデ 胴部 ナデ	手洗・新製の特徴 1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好 褐色灰白	
32-14	黄	200	口縁部 ヌコナデ 胴部 ナデ	口縁部 ヌコナデ 胴部 ナデ	口縁部 ヌコナデ 胴部 ナデ	表面に浮遊している 1mm以下の白色砂粒を少し含む	良好 褐色色	
33-1	黄	129	口縁部 ヌコナデ	口縁部 ヌコナデ	口縁部 ヌコナデ	口縁部部 2条の閉鎖文	良好 淡黄褐色	
33-2	黄	219	口縁部 ヌコナデ	口縁部 ヌコナデ	口縁部 ヌコナデ	外側に炭化物質付着 0.5mm以下の砂粒を多く含む	良好 外面：黄色 内面：淡黄褐色	
33-3	黄	180	口縁部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	1mm程度の砂粒を含む	良好 褐色色	
33-4	黄	163	口縁部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部部 3条の閉鎖文 外側に炭化物質付着	1mm以下の砂粒を含む	良好 淡黄褐色
33-5	黄	176	不明	不明	不明	口縁部部 2条の閉鎖文 (厚壁のため不明)	1mm程度の白色砂粒を少し含む	良好 黄白色
33-6	黄	203	口縁部 ヌコナデ (厚壁) ナデ	口縁部 ヌコナデ (厚壁) ナデ	口縁部部 3条の閉鎖文	0.5mm以下の砂粒を含む	良好 褐色色	
33-7	黄	179	口縁部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部部 3条の閉鎖文	1mm程度の砂粒をおおむね含む	良好 外面：暗灰褐色 内面：淡灰褐色	
33-8	黄	220	口縁部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部 ヌコナデ 胴部 ナデ	口縁部部 3条の閉鎖文 閉鎖 部部 断面に炭化物質付着を少し含む	1mm以下の砂粒、全部 炭を少し含む	良好 外面：暗灰褐色 内面：淡灰褐色	
33-9	黄	302	不明	不明	不明	口縁部部 2条の閉鎖文 (厚壁) 閉鎖部に炭化物質付着	1mm以下の砂粒を少し含む	良好 外面：暗灰褐色 内面：淡黄褐色
33-10	黄	191	口縁部 ヌコナデ	口縁部 ヌコナデ	口縁部部 3条の閉鎖文 閉鎖 部部 断面に炭化物質付着	1mm以下の砂粒、全部 炭を含む	良好 外面：黄褐色 (断面 暗灰色)	
33-11	黄	220	口縁部 ヌコナデ	口縁部 ヌコナデ	口縁部部 3条の閉鎖文 断面 部部 断面に炭化物質付着	1mm程度の砂粒を含む	良好 淡褐色	
33-12	黄	239	口縁部 ヌコナデ	口縁部 ヌコナデ	口縁部部 4条の閉鎖文 部部 断面に炭化物質付着 (厚壁付)		良好 淡褐色	
33-13	黄	167	口縁部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部 ヌコナデ 上部 ハナメ 下部 ヘラケズリ	口縁部部 3条の閉鎖文 部部 2段の連続閉鎖文	1～2mmの砂粒を多く含む	良好 淡褐色	
34-1	黄	204	口縁部 一部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部 一部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部部 3条の閉鎖文 部部 ヘラケズリによる閉鎖部	0.5mm以下の砂粒をおおむね含む	良好 淡黄褐色	
34-2	黄	204	口縁部 ヌコナデ	口縁部 一部 ヌコナデ	口縁部部 3条の閉鎖文 閉鎖部 部部 断面に炭化物質付着	1mm程度の砂粒をおおむね含む	良好 外面：淡黄褐色 内面：淡白褐色	
34-3	黄	142	口縁部 ヌコナデ 胴部 ナデ	口縁部 一部 ヌコナデ 胴部以下 ヘラケズリ	口縁部部 3条の閉鎖文 部部部 3条の閉鎖文	1mm程度の砂粒をおおむね含む	良好 外面：淡褐色 内面：淡黄褐色	
34-4	黄	173	口縁部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部 一部 ヌコナデ 胴部以下 ケズリ	口縁部部 3条の閉鎖文 部部 明文	1mm程度の砂粒をおおむね含む	良好 外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	
34-5	黄	124	口縁部 一部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部 ヌコナデ 胴部以下 ヘラケズリ	口縁部部 3条の閉鎖文 部部以下 ヘラケズリ	1mm程度の砂粒をおおむね含む	良好 淡褐色	
34-6	黄	180	口縁部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部 ヌコナデ 胴部 ヘラケズリ (厚壁)	口縁部部 3条の閉鎖文 (厚壁) 内側に炭化物質付着	1mm程度の砂粒を含む	良好 灰茶 (部分の表面より茶褐色)	
34-7	黄	126	口縁部 一部 ヌコナデ	口縁部 ヌコナデ 胴部以下 ヘラケズリ	口縁部部 3条の閉鎖文 部部 強いコナデによるおおむね含む	2mm程度の砂粒を多く含む	良好 外面：淡褐色 内面：褐色	
34-8	黄	167	口縁部 一部 ヌコナデ 胴部以下 ナデ (厚壁)	口縁部 ヌコナデ 胴部以下 ヘラケズリ	口縁部部 3条の閉鎖文 (厚壁) 部部部 3条の閉鎖文	2mm程度の砂粒を多く含む	良好 外面：淡褐色 (黄褐色) 内面：淡褐色	
34-9	黄	134	口縁部 ヌコナデ 胴部 ハナメ	口縁部 一部 ヌコナデ 胴部以下 ヘラケズリ	口縁部部 3条の閉鎖文 外側に炭化物質付着	1mm程度の砂粒を多く含む	良好 外面：黄色 内面：淡黄褐色	
34-10	黄	209	口縁部 ヌコナデ	口縁部 ヌコナデ 胴部以下 ヘラケズリ	口縁部部 3条の閉鎖文 部部部 断面 風化	1mm程度の砂粒を含む	良好 淡黄褐色	
34-11	黄	78	断面以下 ケズリ後ナデ 胴部 ヘラケズリ	口縁部 ナデ 胴部 一部 ナデ以下ナデ	口縁部部 ナデ 部部 断面に炭化物質付着	断面部を含む	良好 暗灰色	
34-12	黄	不明	ナデ?	不明	不明	1mm以上の砂粒をおおむね含む	良好 灰褐色	
34-13	黄	195	口縁部 ヌコナデ 胴部 一部 ナデ	口縁部 ナデ 胴部 ナデ	口縁部部 4条の閉鎖文 (厚壁) 部部 一部部の内面 風化	1mm程度の砂粒を含む	良好 暗灰褐色	
35-1	黄	194	口縁部 ヌコナデ 胴部 ナデ	口縁部 一部 ヌコナデ 胴部 ナデ	口縁部部 5条の閉鎖文 部部部 断面に炭化物質付着	1～2mm程度の砂粒を含む	良好 外面：淡褐色～淡白色 内面：淡褐色	
35-2	黄	160	口縁部 一部 ヌコナデ 胴部以下 ナメ (厚壁)	口縁部 ヌコナデ 胴部以下 ヘラケズリ	口縁部部 5条の閉鎖文 外側に炭化物質付着	1mm以下の砂粒を含む	良好 外面：黄白 内面：灰白色	
35-3	黄	213	胴部以下 ナメ (厚壁)	胴部以下 ヘラケズリ	口縁部部 4条の閉鎖文 内側に炭化物質付着	1～2mm程度の砂粒を多く含む (厚壁)	良好 暗灰褐色	
35-4	黄	149	口縁部 ヌコナデ	口縁部 ヌコナデ 胴部以下 ケズリ後ナデ	口縁部部 4条の閉鎖文 部部 断面に炭化物質付着	1mm以下の砂粒を多く含む 外側に炭化物質付着	良好 淡褐色 (断面 上部 コナデ系)	
35-5	黄	186	口縁部 一部 ヌコナデ	口縁部 ヌコナデ 胴部以下 ヘラケズリ	口縁部部 6条の閉鎖文	1mm以下の砂粒をおおむね含む 2mm程度のものを含まれる	良好 淡黄褐色	

観測番号	種類	直径 (cm)	外面調整	内面調整	手法・形態の特徴	胎土	胎成	色調
35-6	甕	L口径 18.8	L胎部-胴部 ココナデ L胎部 ナゲ	L胎部-胴部 ココナデ ナゲ	L胎部部 3本の指線文	1~2mm大の砂粒を多く含む	良好	灰白色 (黄緑・暗灰色)
35-7	甕	L口径 17.0	L胎部 ヲコナデ	胎部 ナゲ L胎部 ヲコナデ 胎部 ヘラウズリ	L胎部部 9本の指線文 外面に灰化物付着	1mm程度の砂粒を含む	良好	黄灰色
35-8	甕	L口径 21.7	L胎部 ココナデ	L胎部 ココナデ	L胎部部 指線文	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	淡緑黄色
35-9	甕	L口径 17.7	L胎部 ココナデ	L胎部 ココナデ	L胎部部 指線文	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	淡黄色
35-10	甕	L口径 18.2	L胎部 ココナデ	L胎部-胴部 ナゲ 胎部-頸部 ケズリ	L胎部部 8本の指線文 外面に灰化物付着	1~2mmの砂粒を多く含む	良好	淡緑黄色
36-11	甕	L口径 18.3	L胎部 ココナデ 器底 24.1 胎部 ハナメ	L胎部 ココナデ 胎部以下 ナゲ	L胎部部 指線文 胎部 縦横工具による線文 外面に灰化物付着	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	黄褐色
36-1	鉢	L口径 17.6	L胎部 ナゲ 器底 14.6 胎部 ハナメ	胎部 ハナメ 下部 ヘラウズリ	L胎部部 2本の指線文 胎部 灰点文	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	淡黄褐色 (内面 黒色-黒灰茶色)
36-2	鉢	L口径 15.6	L胎部 ココナデ 胎部 ヲコナデ	L胎部-胴部 ナゲ 胎部-胴部 ナゲ	L胎部部 3本の指線文 胎部 灰点文	1~2mm大の砂粒を含む	良好	黄灰色
36-3	鉢	L口径 12.3	L胎部 ナゲ 胎部 ナゲ	L胎部 ハナメ後ナゲ 胎部上り下足 ハナメ	L胎部部 2本の指線文 胎部 灰点文	1mm以下の砂粒を少量含む	良好	淡黄褐色
36-4	鉢	L口径 20.7	L胎部 ココナデ 器底 ハナメ (下部におおすかにヒケガキ)	L胎部 胴部 ココナデ 胎部 ハナメ 胎部 ヘラウズリ	L胎部部 3本の指線文 胎部 連続指線文 外面に灰化物付着	1mm程度の砂粒を含む	良好	淡黄色
37-1	高杯	L口径 14.8	L胎部 ココナデ 器底 ハナメ	L胎部 ココナデ	L胎部部 ナゲ	白磁・灰濁を含む	良好	外面：褐色 内面：黒色-黒褐色
37-2	高杯	L口径 18.7	L胎部 ココナデ 器底 ナゲ	L胎部 ナゲ 器底 ハナメ	L胎部部 斜付 L胎部部 輪郭指線文		良好	淡黄褐色
37-3	高杯	L口径 13.8	L胎部 ココナデ 器底 ヘラウズリ(器底)	L胎部 ココナデ	L胎部部 輪郭指線文	灰色・白小砂	良好	淡黄褐色
37-4	高杯	L口径 18.0	胎部 ヘラウズリ	L胎部 ナゲ、ヘラウズリ 胎部 ヘラウズリ(器底)	L胎部部 2本の指線文 L胎部部 4本の指線文 並列	微砂を含む	良好	淡黄褐色
37-5	高杯	L口径 11.8	L胎部 ココナデ 器底 ヲコナデ後ナゲ	ココナデ後ナゲ	内外面は平滑している	0.5mm以下程度の砂粒を多く含む	良好	淡緑黄色
37-6	高杯	L口径 18.0	L胎部 ココナデ 器底 ヲコナデ、ナゲ	L胎部 ココナデ 器底 ハナメ	L胎部部 6本の指線文	0.2mm程度の砂粒を多く含む(胎部以下)	良好	淡緑黄色
37-7	高杯	L口径 23.6	ココナデ、ナゲ	ココナデ、ナゲ	L胎部部 4本の指線文、肩付 器底 2本の指線文		良好	淡緑黄色
37-8	高杯	L口径 34.6	L胎部部 ココナデ 器底 ヘラウズリ	L胎部 ココナデ L胎部-胴部 ハナメ 外底部 ヘラウズリ 外底部 ヘラウズリ 胎部部 ヘラウズリ	L胎部部 3本の指線文 L胎部部 4本の指線文 外面に灰化物付着 肩付部内底は黒色で光沢がある	1mm以下の砂粒を含む	良好	淡黄褐色
37-9	高杯		胎部部 ヘラウズリ			白磁・灰濁を含む	良好	外面：淡褐色-褐色 内面：黒色-黒褐色
37-10	高杯	L口径 11.8	呼風	ヘラウズリ後ナゲ	L胎部部 11本の指線文 胎部部と胎部 斜付文	1mm以下の砂粒の胎土を含む	良好	黄灰色
37-11	高杯		呼風部 ヘラウズリ 胎部部 ヘラウズリ	呼風部 ナゲ	胎部部外底 5本の指線文 透かし (確定8ヶ所) 胎部部内底 じぼり肌		良好	黄褐色
37-12	高杯	L口径 12.6	胎部 ナゲナゲ	胎部 ナゲ、ココナデ	胎部 透かし 胎部 3本の指線文	微砂が多い	良好	黄褐色-黒褐色
37-13	高杯	L口径 12.9	胎部 ヘラウズリ(器底)	胎部 ココナデ 一帯胎部ナゲ(胎部)	胎部 透かし(確定8ヶ所) やや丸化	微砂を含む	良好	淡黄褐色
37-14	高杯	L口径 11.3	ヘラウズリ(器底)	ヘラウズリ ナゲ後ナゲ ナゲ ヘラウズリ	胎部 1本の指線文 肩付部線文による斜付文 胎部部 2本の指線文	白磁・小砂が多い	良好	淡黄褐色
38-1	1 甕部	L口径 3.0	ヘラウズリの跡 (少し残る)	ナゲナゲ		0.5mm以下の砂粒を多く含む	良好	外面：淡褐色-黒褐色 内面：灰黄色
38-2	2 甕部	L口径 7.9	呼風	ヘラウズリ ナゲ	呼風は発生	2mm以下の砂粒を含む	良好	淡褐色-黒褐色
38-3	3 甕部	L口径 4.1	ハナメ	器底部 ヘラウズリ 器底 跡によるナゲ	器底中央に径約0.5cmの穴	2mm以下の砂粒を含む	良好	外面：淡褐色 内面：灰濁感
38-4	4 甕部		ナゲ	ケズリ	径約0.5cmの穴、海平状	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	灰白褐色
38-5	5 甕部	L口径 6.5	胎部部 ヘラウズリ ヘラウズリ後ナゲ	器底部 跡によるナゲ 胎部 ナゲ		2mm以下程度の砂粒を含む	良好	外面：淡褐色-黒褐色 内面：灰濁感

SD-O4出土遺物(弥生土器)観察表

観測番号	種類	直径 (cm)	外面調整	内面調整	手法・形態の特徴	胎土	胎成	色調
42-1	甕	L口径 20.5	ココナデ	ココナデ		黒、白磁・灰濁を含む	良好	外面：褐色 内面：灰白-灰色
42-2	甕		ココナデ	ココナデ		灰濁・白小砂	良好	淡黄褐色
42-3	甕		L胎部 ナゲ	ハナメ、ナゲ	L胎部部 1本の指線文(指線は指線)	白・灰濁・砂粒を含む	良好	淡黄褐色
42-4	甕		呼風	ナゲ	胎部部一帯部 胎部部指線文帯 内面ともに平滑	小砂粒が多い	良好	淡黄褐色

探検番号	種類	法量 (cm)	外 面 調 整	内 面 調 整	手法・形造の特徴	胎 土	地 成	色 調
42-3	高小 土器	口径 21.4 口縁 16.6	不明 口縁部 ココナデか? 下部 ハタメ	不明 口縁部 ココナデか? 下部 ハタメ	口縁部は厚肉している	白色皮の透明な粉粒を 含む	良好	外周: 赤赤褐色 内周: 淡灰褐色 底面: 黒色

調査3区出土遺物（弥生土器）観察表

探検番号	種類	法量 (cm)	外 面 調 整	内 面 調 整	手法・形造の特徴	胎 土	地 成	色 調	
46-1	甕	口径 16.4 口縁 16.6	不明	不明	内外ともに厚肉している	1mm前後の白色粉粒が多い	良好	淡灰褐色	
46-2	甕	口径 16.6 口縁部	ナデか	ナデか	斜交 斜交文 内外ともに厚肉化している	1mm～2mmの粉粒を含む	良好	外周: 暗灰褐色 内周: 灰褐色	
46-3	甕	口径 16.5 口縁部	ナデか	口縁部	ナデか	1mm前後の白色粉粒が多い	良好	灰褐色	
46-4	甕	口径 16.3 口縁部	ナデか	口縁部	ナデか	内外ともに厚肉化している	1mm前後の粉粒が多い	良好	外周: 黒褐色 内周: 淡灰褐色
46-5	高小鉢	不明	不明	不明	逆V字状の口縁 内外ともに厚肉化している	2mm～3mm大の粗粒砂粒を含む	良好	褐色～暗褐色	
46-6	高小鉢	口径 14.3	不明	ヘラナデ	内外ともに厚肉化している	1mm大の粗粒砂粒を多く含む	良好	淡灰褐色	
46-7	7流部	口径 5.4	不明	不明	内外ともに厚肉化している	2mm～3mm大の粗粒砂粒が多い	良好	外周: 暗赤褐色 内周: 褐色～黒褐色	
46-8	7流部	口径 8.8	ナデか	ナデ	内外ともに厚肉化している	粗粒砂粒～2mm大の粗粒を多量に含む	良好	褐色	
46-9	7流部	口径 6.0	ナデ	ナデ	内外ともに厚肉化している	2mm～3mm大の粗粒が多い	良好	暗褐色	

土製品観察表

探検番号	種類	出土地点	残存状況/法量 (cm)	調 整	手法・形造の特徴	胎 土	地 成	色 調
49-1	分銅形土製品	調査2区	横溝 SD-02 (60)	くりこみ部のみ	くりこみ部をくりこみ部によって 流部の縦状部分と流部の横状部分	1～2mmの粉粒を含む	良好	淡灰褐色
49-2	分銅形土製品	調査1区	1/2型 断面は横溝型	ナデ	くりこみ部、横溝によって 縦状部分	0.5mm程度の粉粒を少し含む	良好	灰白褐色 (裏面はやや褐色をむく)
50-1	土糸	調査1区	直径 4.1 SD-02 (60)	表面はナデ	手工による深い縦状の溝 手工による深い縦状の溝	ごく微細な白色及び透明な粉粒を多く含む	良好	褐色
50-2	土糸	調査1区	直径 2.8 SD-02 (77)	表面はナデ	手工で磨き立て(又はあたって) 縦状にぼく	滑	良好	淡灰褐色

遺構外出土遺物観察表

探検番号	種類	法量 (cm)	外 面 調 整	内 面 調 整	手法・形造の特徴	胎 土	地 成	色 調
51-1	縄文 高小鉢	口径 19.0	ナデ	ナデ	口縁部 胎土付突部1条 (胎土あり)	1mm前後の白色粉粒を多く含む	良好	灰白褐色
51-2	高小鉢	不明	口縁以下 ハタメ後ナデ	ハタメ後ヘラミナギ	斜方向の縦交文 斜交文	2mm程度の粉粒をわずかに含む	良好	暗灰褐色
51-3	弥生土器	口径 19.0	斜交ヘラミナギ (あるいはハタメ)	不明	内外ともに厚肉	石灰質の微粉粒を含む	良好	淡黄褐色 (裏面)
51-4	高小鉢	不明	不明	ナデ	つまみ部分で1/2残存 つまみは胎土付	褐色・白色粒子を少量含む	良好	青灰色
51-5	高小鉢	口径 12.7 口径 21.1 口径 11.0	不明	不明	口縁 約1/2残存 やや斜交文 底面 胎土面取り(厚肉で不明)	灰褐色・赤褐色の粒を多く含む	やや暗	白褐色
51-6	高小鉢	口径 16.0	不明	不明	口縁 約1/10残存 弁状くる	粗粒・微粉粒を少量含む	良好	暗灰褐色 (やや暗褐色)

遺構外出土遺物観察表

探検番号	種類	法量 (cm)	法量 (cm) / (g)	石 材	備 考
21-3	矢じり	横溝1区 SD-02	長さ: 1.8 幅: 1.3 厚さ: 0.3	重さ: 0.01 ヤマト	
47-1	矢じり	調査3区	長さ: 4.4 幅: 1.3 厚さ: 0.6	重さ: 4.11 ヤマト	尖部、底面をめぐりに研削
47-2	石珠	調査2区	長さ: 6.7 幅: 2.6 厚さ: 1.1	重さ: 28.18 黒曜石	
47-3	スガキイハ	調査3区 (中央)	長さ: 7.1 幅: 4.4 厚さ: 1.3	重さ: 37.37 黒曜石	

石製品観察表

目録番号	種類	現存状態	法長 (cm) / (g)	出土地	備考
19-1	磨製石斧 (細石)	現存長: 6.9 最大幅: 6.5 厚さ: 4.1	重さ: 236.15	調査1区 SD-02	新製品: 刃端はきれいな刃部状態を呈するが、先端は使用による欠損あり。又、使用痕が見える。 全体がきれいに磨製されているが、わずかに鈍角面が見える。
19-2	磨製石斧 (細石)	現存長: 9.3 最大幅: 6.2 厚さ: 4.0	重さ: 305.24	調査1区 SD-02	新製品: 刃端は鈍角面を呈するが、先端及び背面に使用による欠損あり。 刃端に使用痕が見える。 全体に磨製されている。わずかに鈍角面がある。
19-3	打製石斧	現存長: 12.4 最大幅: 8.9 厚さ: 2.4	重さ: 302.89	調査1区 SD-02	打製痕: 刃部を研削する。
19-4	磨製石斧	現存長: 10.8 最大幅: 5.2 厚さ: 3.6	重さ: 303.12	調査1区 SD-02	新製品: 全体に研削されているが、表面は鈍角面がほとんど。 基部と片面刃部を欠損。
19-5	石鏃1	現存長: 10.1 最大幅: 7.6 厚さ: 1.0	重さ: 74.06	調査1区 SD-02	欠損品: 刃部を 部欠損する。 刃部には背割面に研削痕が見える。
19-6	石鏃	現存長: 6.7 最大幅: 5.8 厚さ: 4.9	重さ: 200.89	調査1区 SD-02	表面方向に浅い溝が1箇所ある。
19-7	磨石	現存長: 13.1 最大幅: 6.9 厚さ: 4.2	重さ: 473.89	調査1区 SD-02	2面に使用による磨痕あり。
20-1	磨石	現存長: 4.5 最大幅: 3.9 厚さ: 1.7	重さ: 39.71	調査1区	片側中央に磨石のV字状の溝。
20-2	磨石	現存長: 9.4 最大幅: 7.2 厚さ: 4.9	重さ: 526.10	調査1区 SD-02	磨石3方。及び1下2面に使用磨痕あり。
20-3	磨石	現存長: 13.1 最大幅: 8.7 厚さ: 6.1	重さ: 1210.00	調査1区 SD-02	両面に2ヶ所ずつの浅部磨痕あり。 4面に平研あり。磨石1つより使用済み。
20-4	磨石	現存長: 6.3 最大幅: 3.6 厚さ: 3.2	重さ: 146.80	調査1区 SD-02	欠損品: 3/4を欠損。 一面中央に使用による磨痕あり。片面は割裂。
20-5	磨石	現存長: 7.3 最大幅: 6.2 厚さ: 3.2	重さ: 245.38	調査1区 SD-02	欠損品: 3/4を欠損。 2面に使用による磨痕面を有する。 1面が一部割れている。
21-1	磨石	現存長: 13.5 最大幅: 8.4 厚さ: 4.4	重さ: 1440.00	調査1区 SD-02	側面は磨痕面が 面する。 下2面も使用により平研する。
21-2	磨石	現存長: 8.8 最大幅: 17.4 厚さ: 4.4	重さ: 435.30	調査1区 SD-02	3面に使用による磨痕あり。
20-1	磨製石斧	現存長: 8.2 最大幅: 13.2 最大厚: 1.6	重さ: 128.70	調査2区 SD-03	全体によく磨製されており、研削痕が見える。 刃端は鈍い。
20-2	磨製石斧	現存長: 9.9 最大幅: 7.0 最大厚: 3.5	重さ: 366.80	調査2区 SD-03	新製品: 刃部を研削する。 全体に研削されているが、欠損、割れが多い。
20-3	磨製石斧	現存長: 11.9 最大幅: 7.3 最大厚: 2.5	重さ: 331.25	調査1区 SD-03 (B)	欠損品: 片面を表面により欠損する。 部分的に研削されている。
20-4	磨石	現存長: 11.1 最大幅: 2.6 最大厚: 4.0	重さ: 102.04	調査2区 SD 03 (B)	欠損品: 一面を研削により欠損する。 全体に磨痕は平らで滑らかであるが、使用痕は認められない。
20-5	大型石斧	現存長: 5.8 最大幅: 10.8 最大厚: 1.6	重さ: 269.96	調査2区 SD-03 (B)	欠損品: 両方面 部欠損。 刃端はよく磨製されており、磨石による研削痕あり。
20-6	大型石斧	現存長: 18.0 最大幅: 6.7 最大厚: 1.2	重さ: 194.94	調査2区 SD-03 (B)	欠損品: 片面の刃端に一部研削あり。 刃部はよく磨製されており、刃に沿って研削痕、研削あり。
20-1	磨石	現存長: 9.8 最大幅: 10.4 最大厚: 6.0	重さ: 710.00	調査1区 SD-03 (B)	欠損品: 表面は全体に滑らかである。 2ヶ所に使用痕あり。
20-2	磨石	現存長: 10.6 最大幅: 5.6 最大厚: 3.9	重さ: 340.03	調査1区 SD-03	一面に使用痕あり。
20-3	磨石	現存長: 6.1 最大幅: 5.2 最大厚: 5.3	重さ: 311.10	調査2区 SD-03 (B)	欠損品: 一面に使用痕あり。
20-4	磨石	現存長: 8.2 最大幅: 6.1 最大厚: 6.0	重さ: 287.6	調査1区 SD-03 (B)	欠損品: 一面に使用痕あり。

検出番号	種 別	残存状況	法量 (cm) / (g)	出土地点	備 考
40-5	磨石	残存長：9.1 最大幅：7.9 最大厚：5.1	重 量：530.36	調査2区 SD-03 (壁)	欠損品：箇所剥離。 内面は他区に加工か？ 刃面に使用痕あり。
40-6	磨石	残存長：7.3 最大幅：9.5 最大厚：2.9	重 量：498.19	調査2区 SD-03 (面)	欠損品：後面にホチカに使用痕あり。
48-1	石押 (磨石)	残存長：7.0 最大幅：6.7 最大厚：4.0	重 量：244.21	調査3区	新製品：石押は円筒状を呈する。 使用痕 (凹痕) は確認できない。 全体的に磨化している。
48-2	石押	残存長：9.1 最大幅：4.7 最大厚：1.9	重 量：127.31	調査3区 (シロ)	新製品：刃部を新鋭する。 金庫に埋納は施されない。
48-3	磨石	残存長：7.5 最大幅：10.3 最大厚：6.1	重 量：597.28	調査3区	欠損品：全体に表面は磨らかである。 一面に使用痕あり。

木器観察表

検出番号	種 別	法量 (cm)	出土地点	備 考
41-1	不明	長 径：29.8 最大幅：16.5 最大厚：1.9	調査1区 SD-03 (穴)	中央周囲に円筒状のくりこみあり。 部分的に欠損するが、ほぼ磨形。
52-1	惣持か?	残存長：51.4 最大幅：10.1 最大厚：2.5	調査1区	新製品：中央に5×3cmの長方形の窪みあり。 表面には、ホチカに加工痕 (のこぎり) が残る。

圖 版



門田遺跡調査前全景（南より）



1区完掘状況（北より）



1区SD-01完掘状況(南より)



1区SD-01土器検出状況(南より)

1区
SD-01
土器検出状況

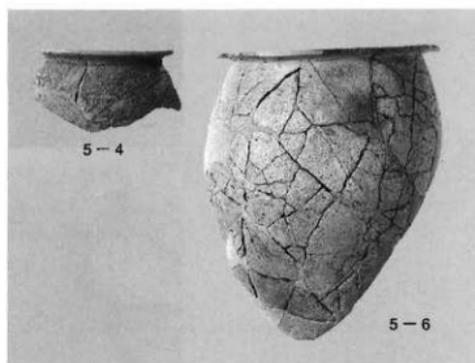
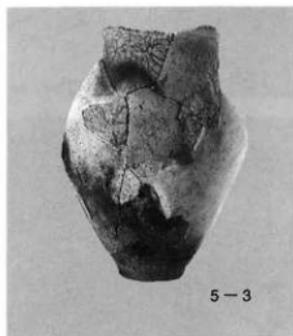


1区
SD-01
土器検出状況



1区北壁
SD-01断面







1区S D-02プラン検出状況（北より）



1区S D-02完掘状況（東より）



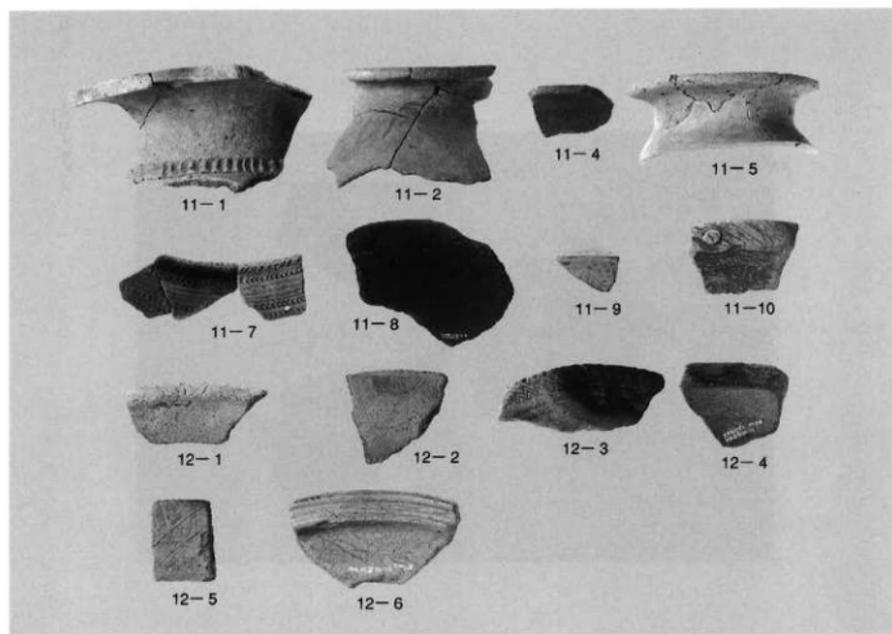
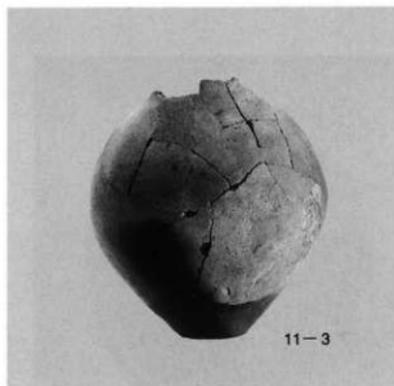
1区
SD-02
土器検出状況

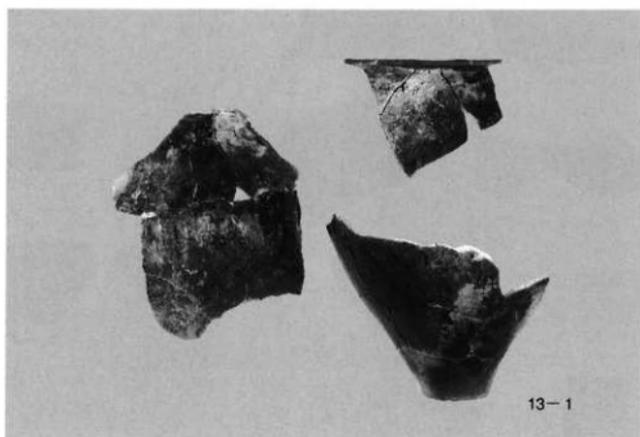


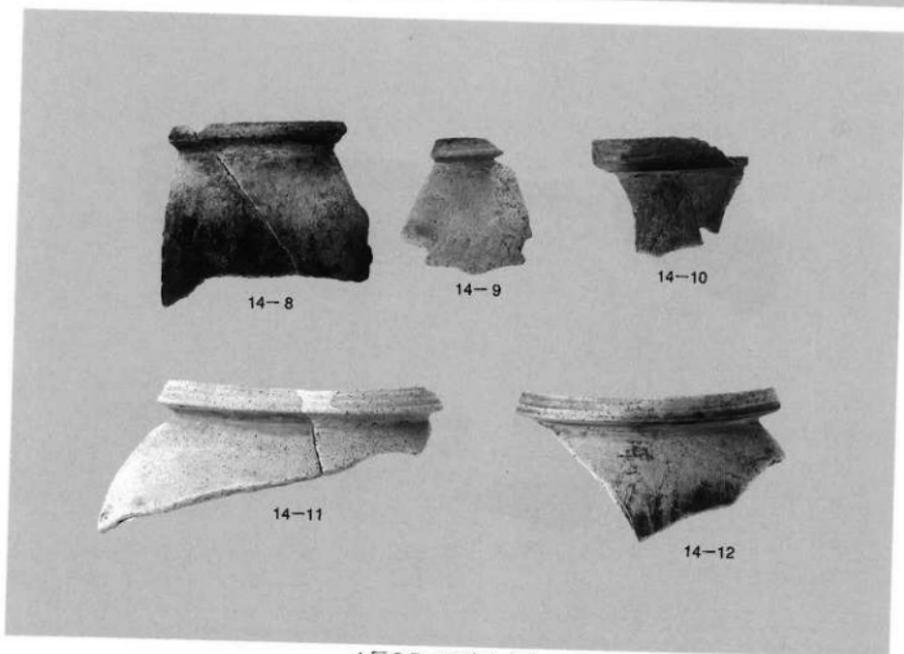
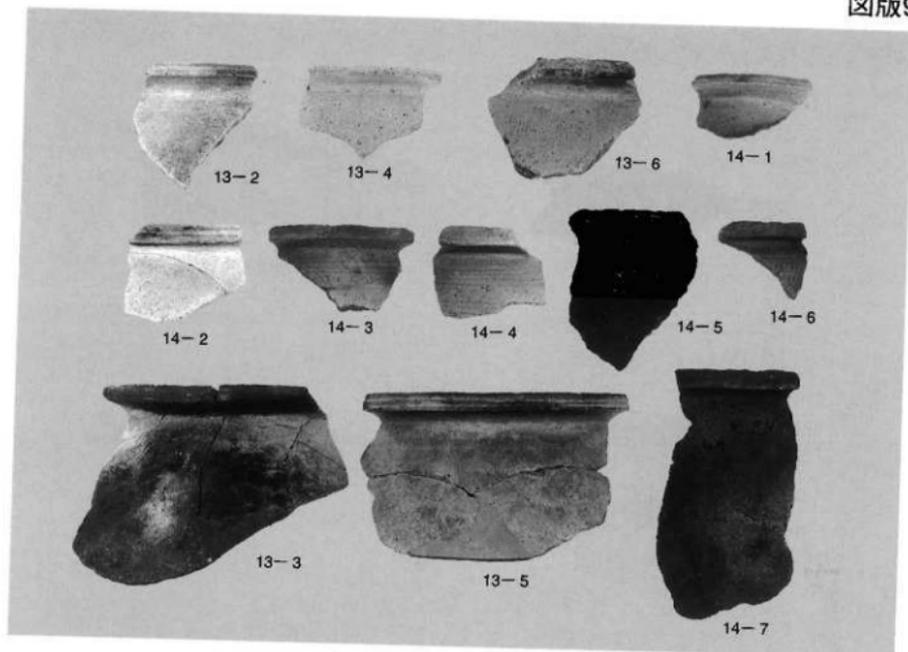
1区
SD-02
土器検出状況



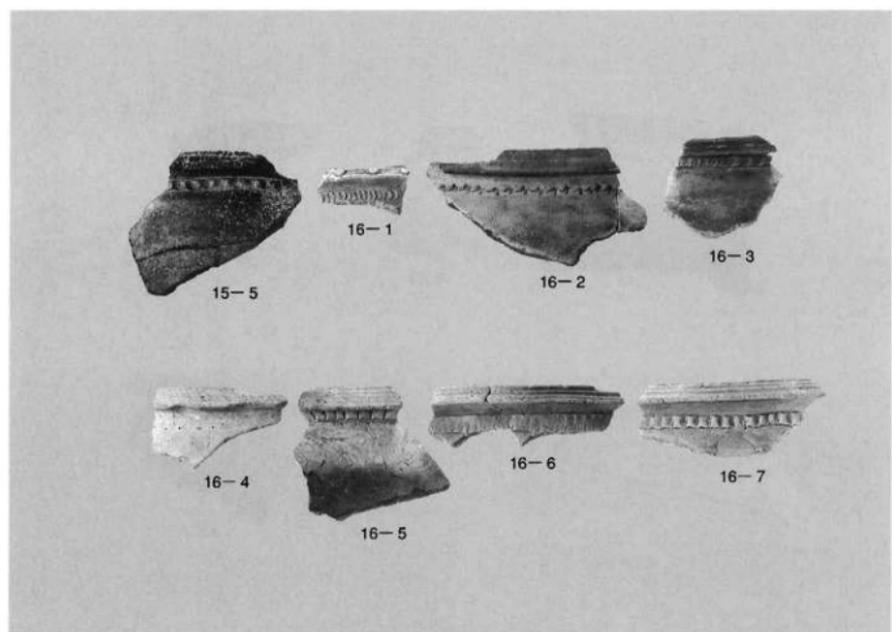
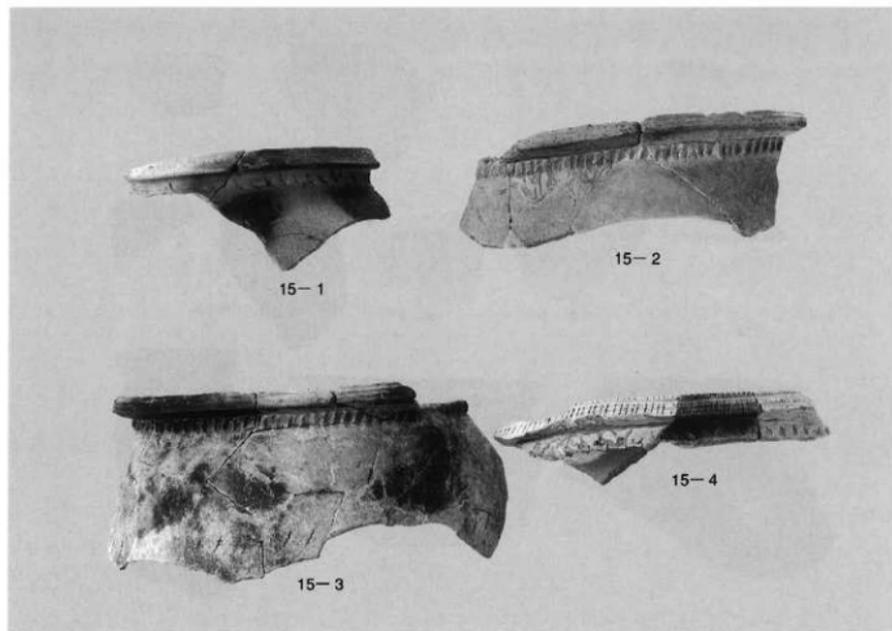
1区
SD-02
土器検出状況

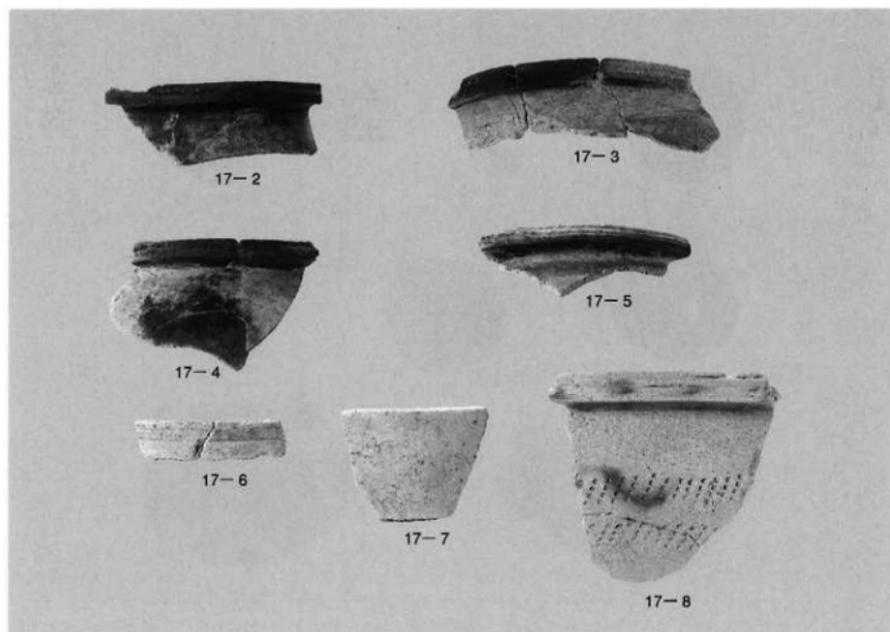
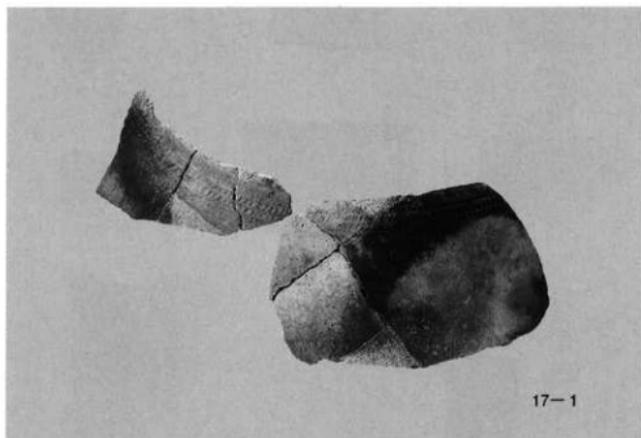




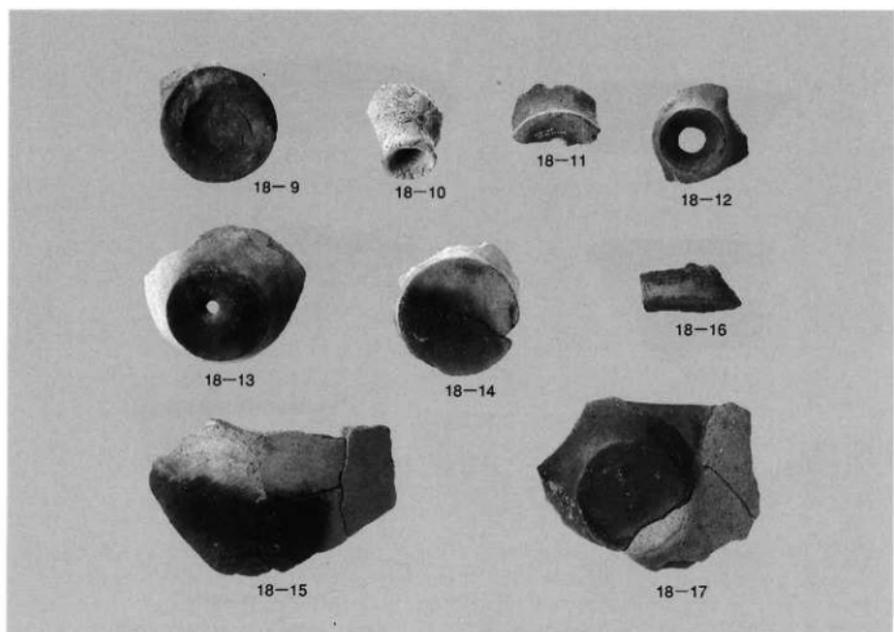
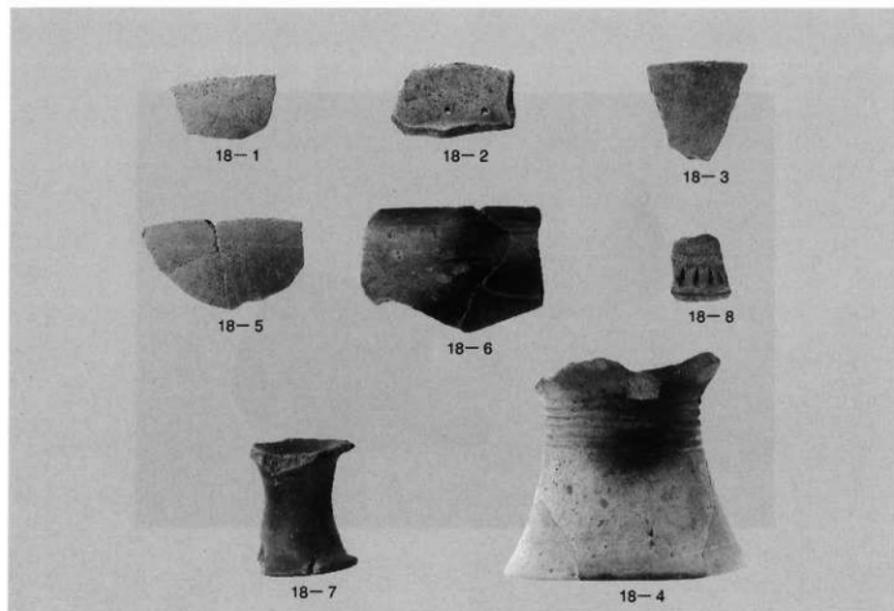


1区S D-02出土土器

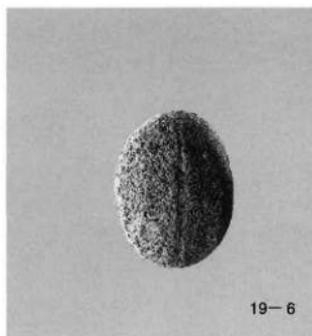
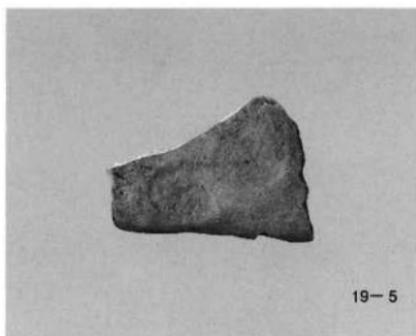
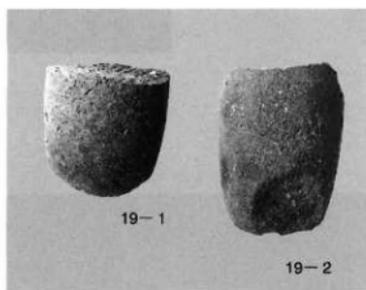


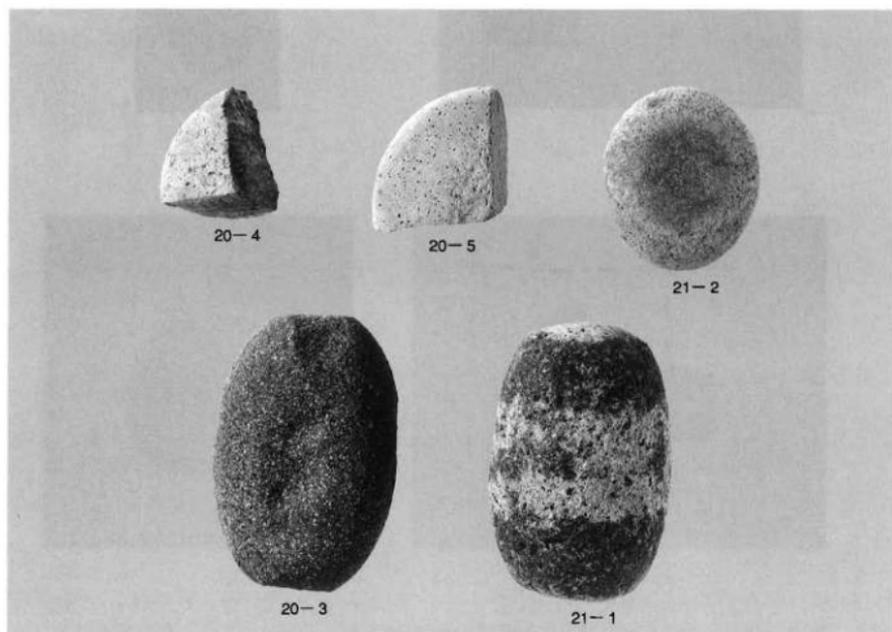
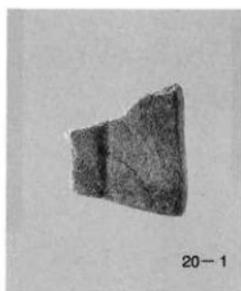


1区S D-02出土土器



1区SD-02出土土器





1区S D-02出土石器及び石製品



1区SD-03完掘状況（南より）



1区SD-03中央セクション（南より）



1区北壁
S D—03断面



1区
S D—03南部検出状況



1区東壁
S D—03断面

1区
S D-03
木器検出状況

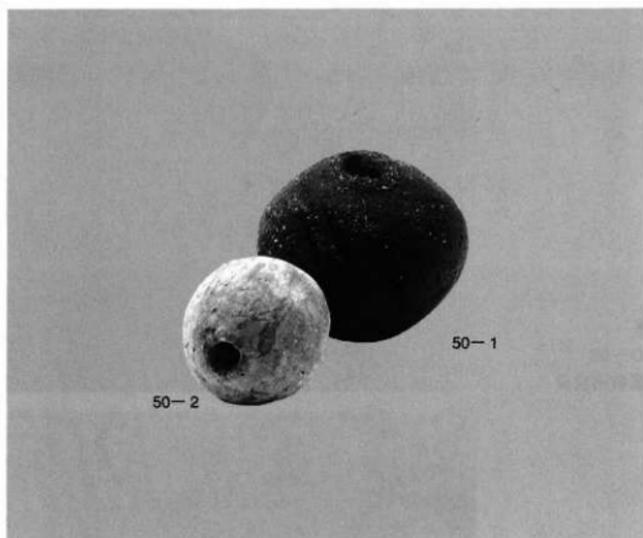


1区
S D-03
土器検出状況

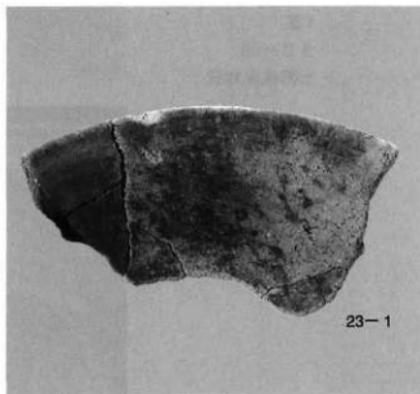
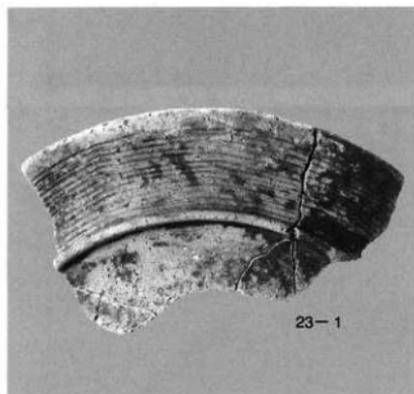


1区
S K-01
検出状況(北より)





1区S D-02出土土玉



1区S K-01出土彩色土器



2区完掘状況（北より）



2区S D-03完掘状況（南より）



2区
S D-03北側完掘状況



2区
S D-03セクション (北側)



2区
S D-03セクション (中央部)

2区
S D-03南側
杭列跡検出状況



2区
S D-03
残存木杭検出状況



2区
S D-03
土器検出状況





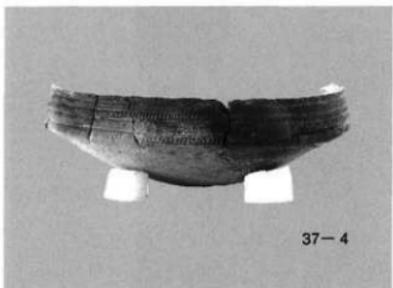
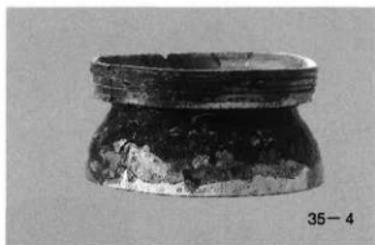
2区
S D-04完掘状況（西より）

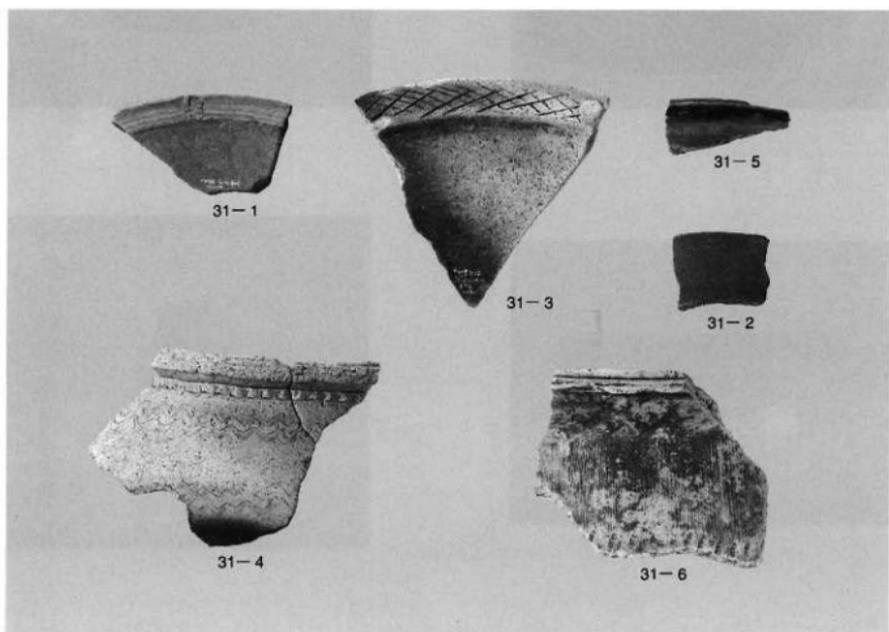
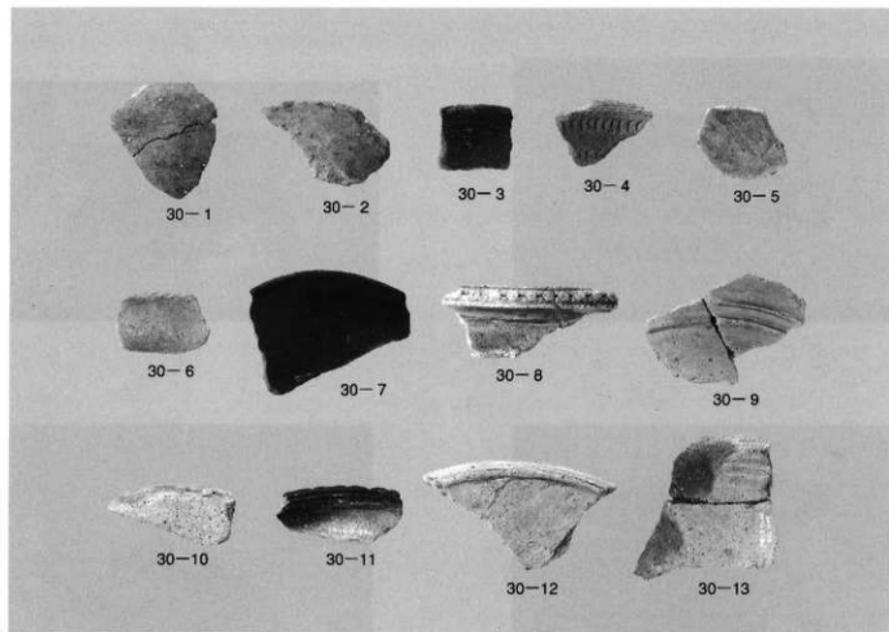


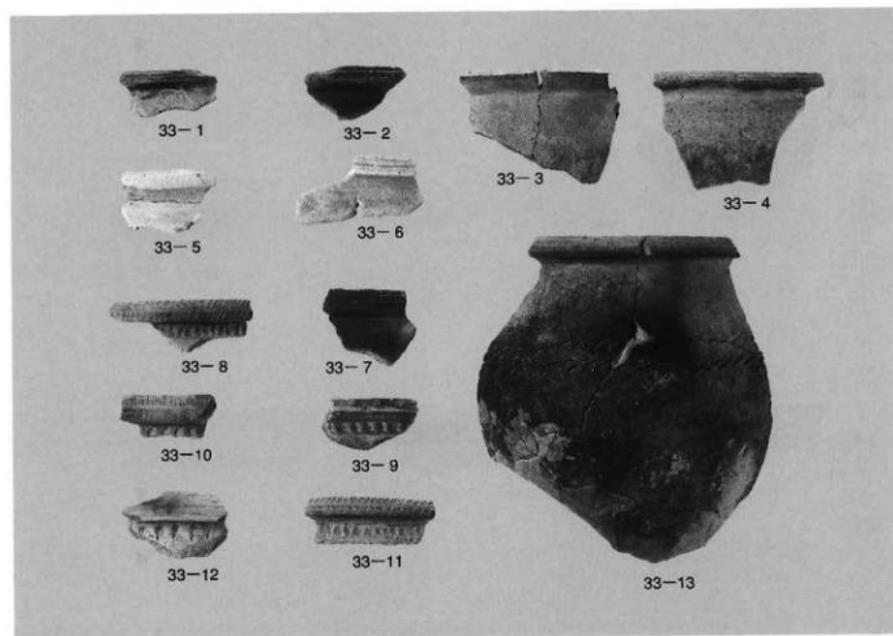
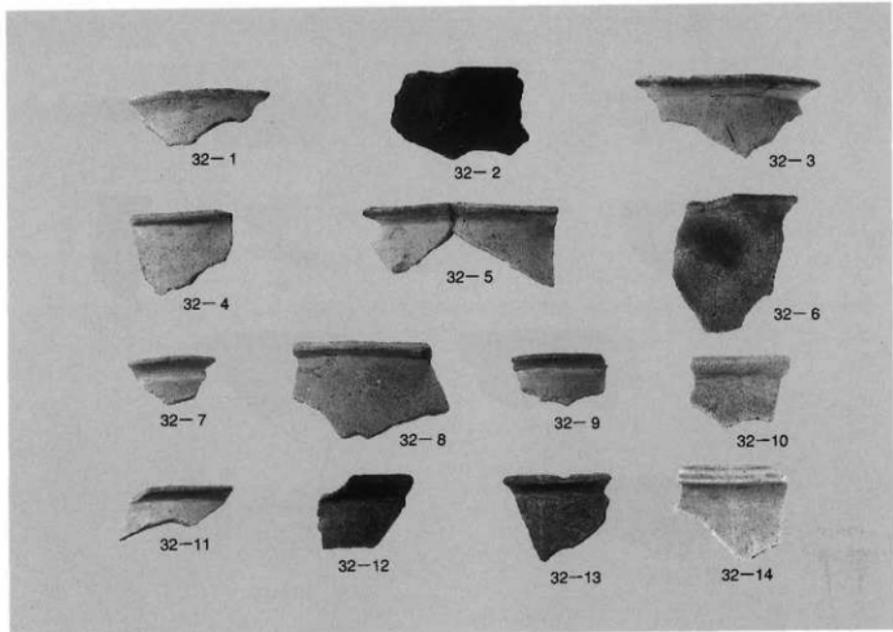
2区東壁
杭列跡検出状況



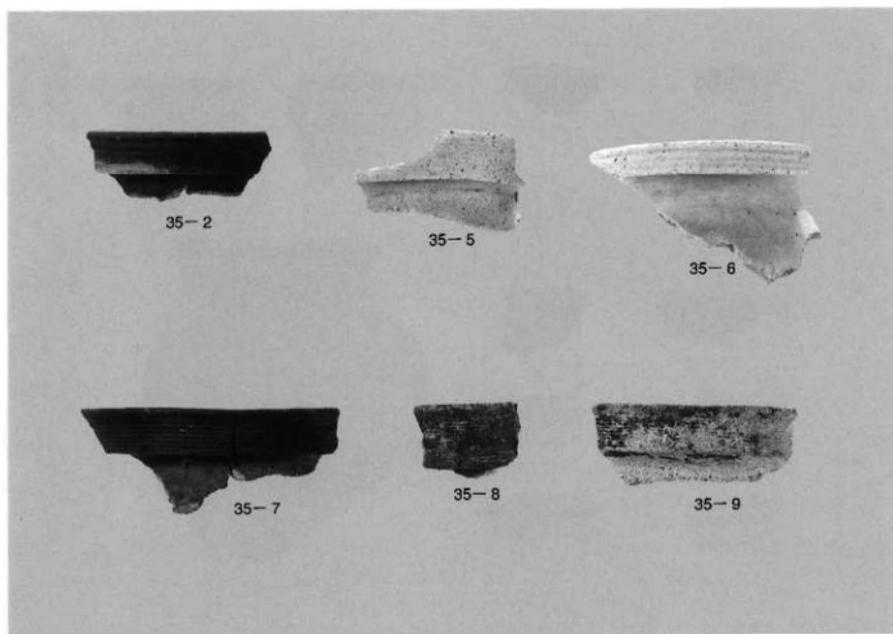
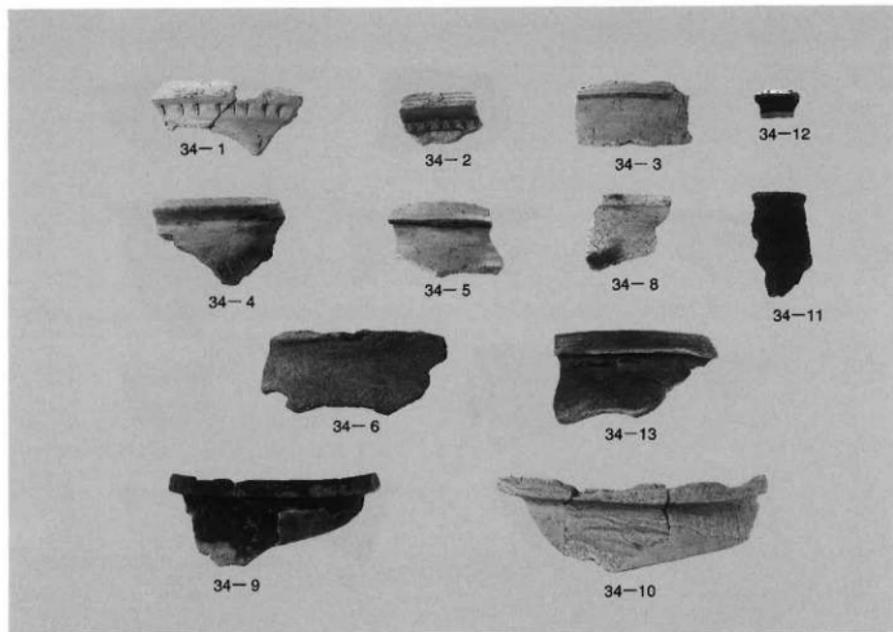
2区
S K-02検出状況

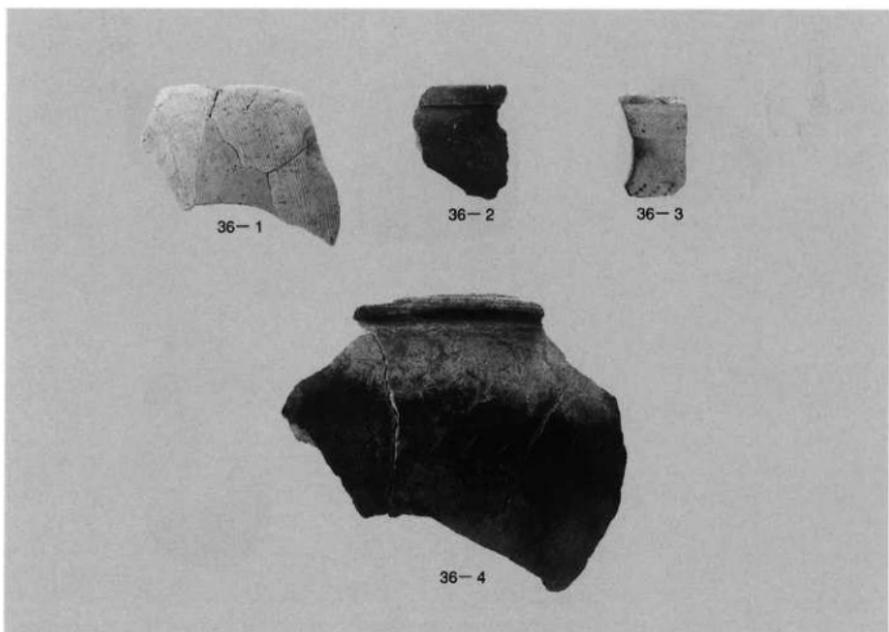
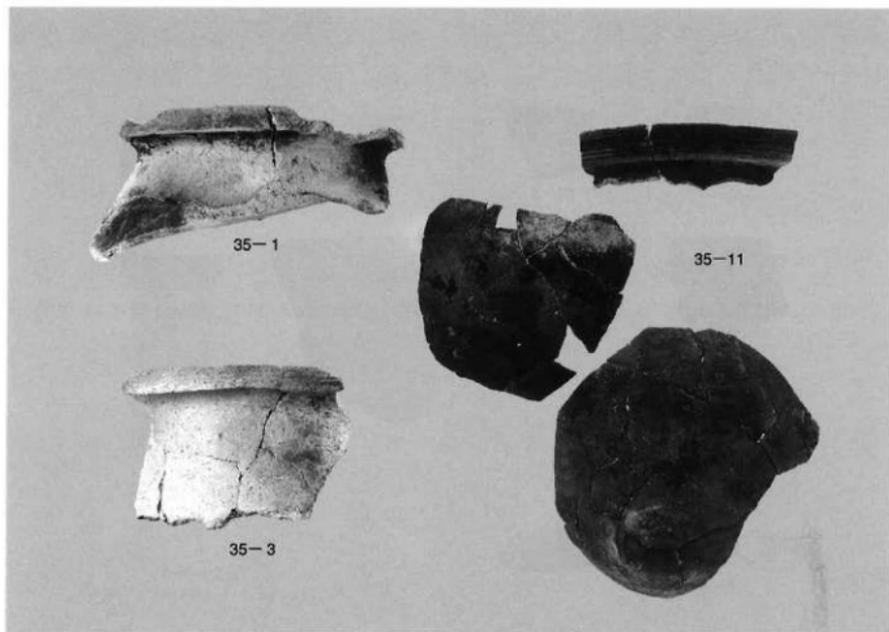




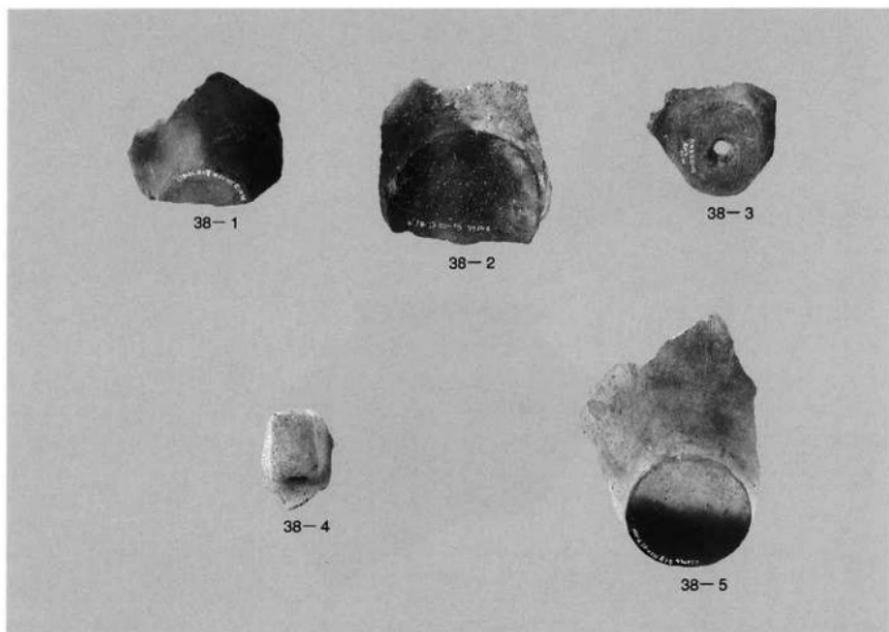
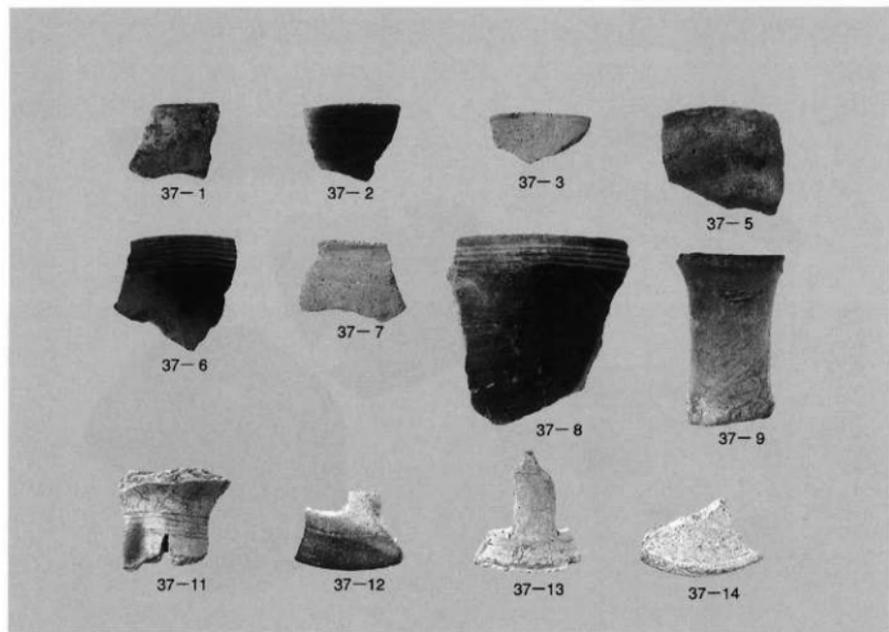


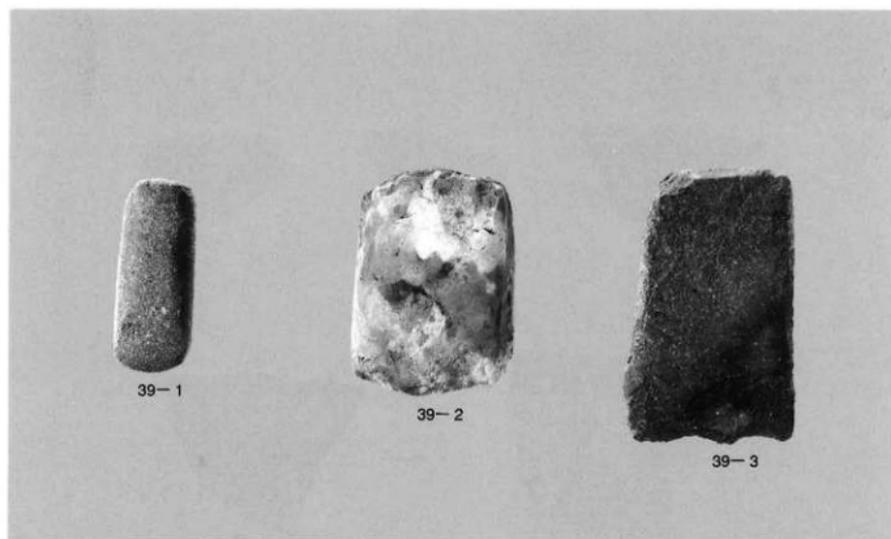
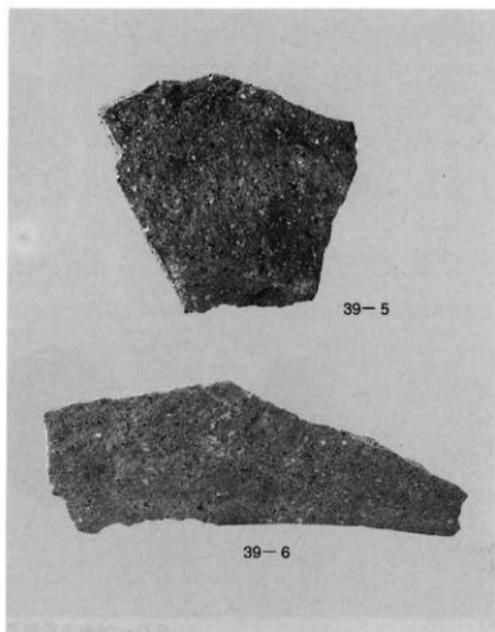
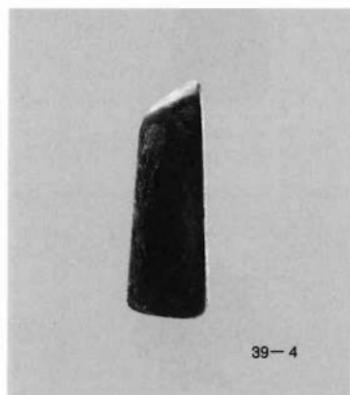
S D-03出土土器

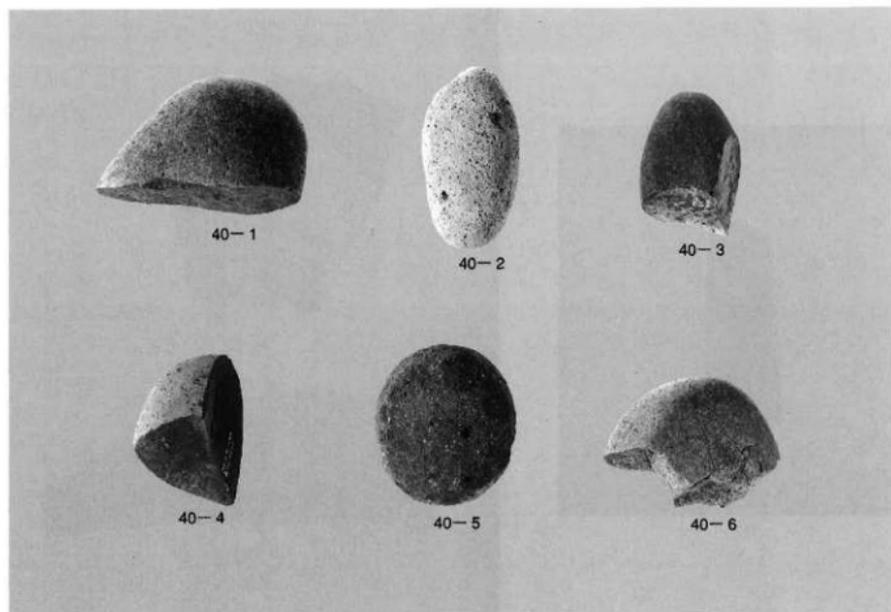




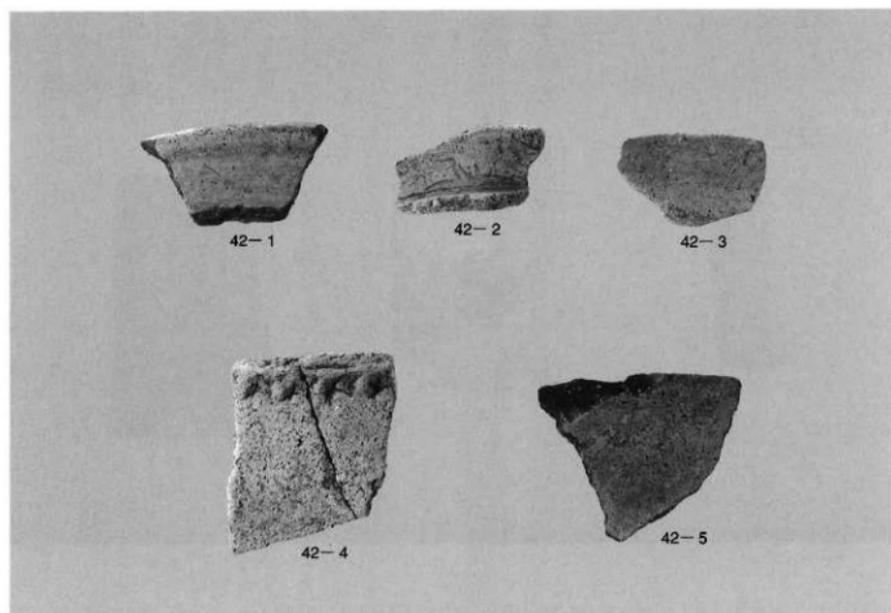
S D-03出土土器



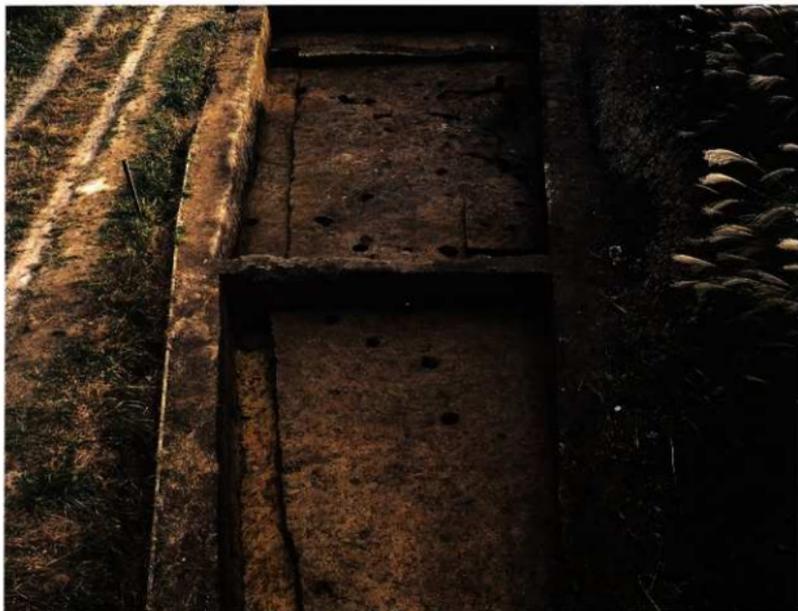




S D-03出土石器及び石製品



2区S D-04出土土器



3区完掘状況（北より）



S K-03検出状況及び木杭跡検出状況



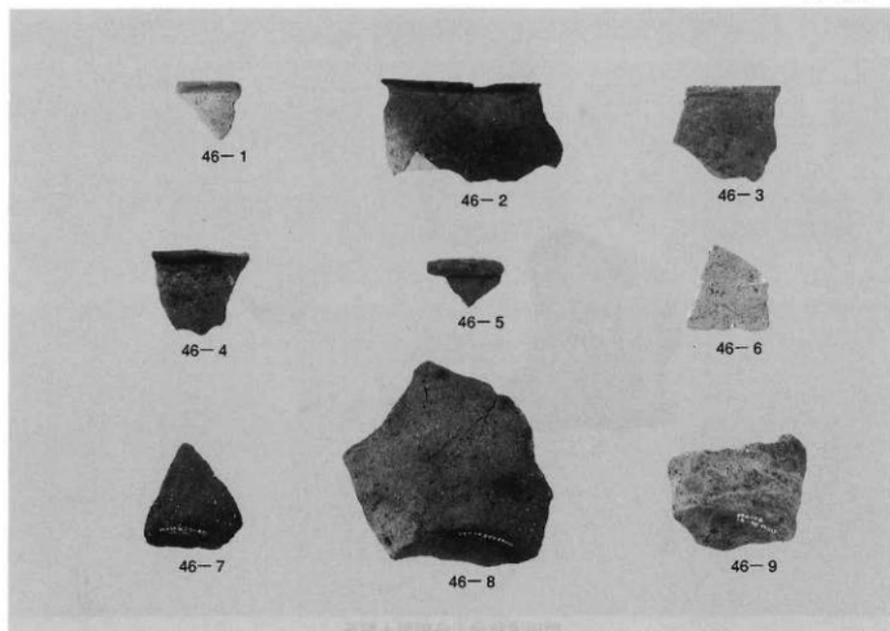
3区東壁セクション



3区
S D-05検出状況



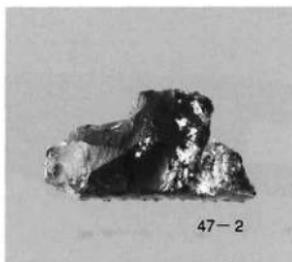
3区
ピット群検出状況（西より）



3区出土土器



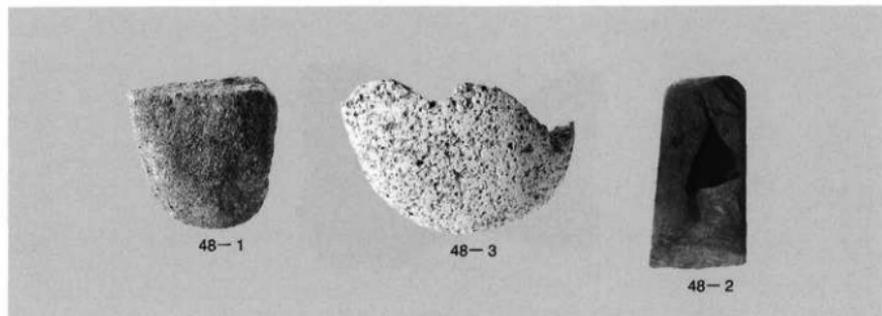
47-1



47-2



47-3

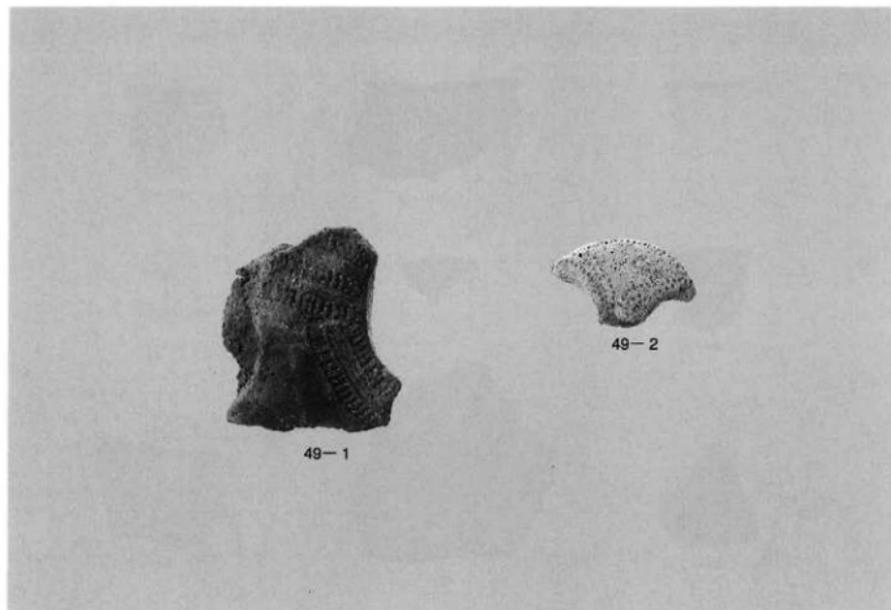


48-1

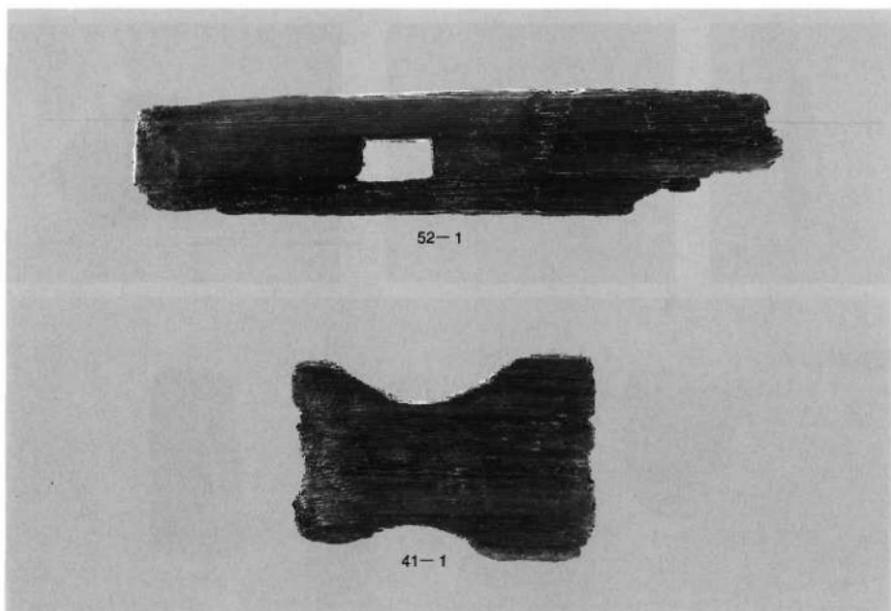
48-3

48-2

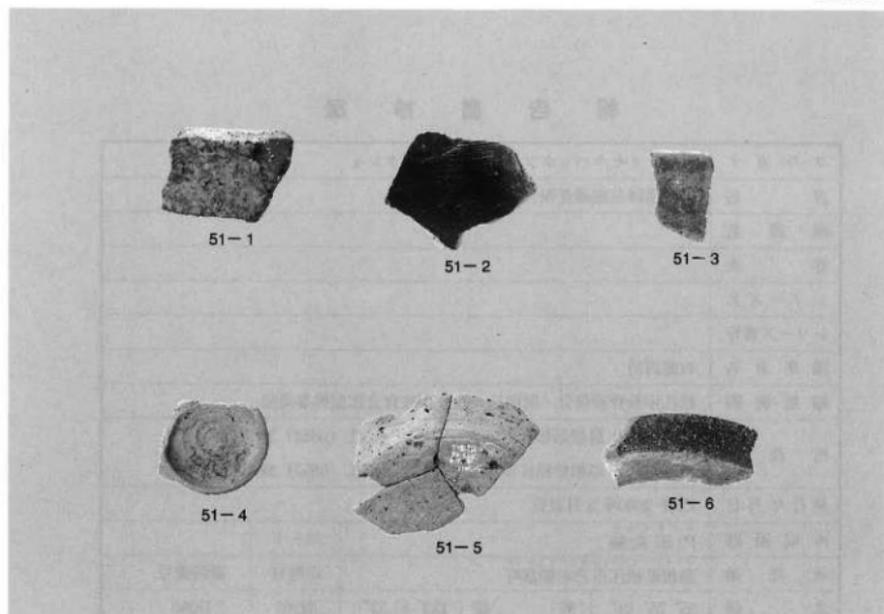
3区出土石器及び石製品



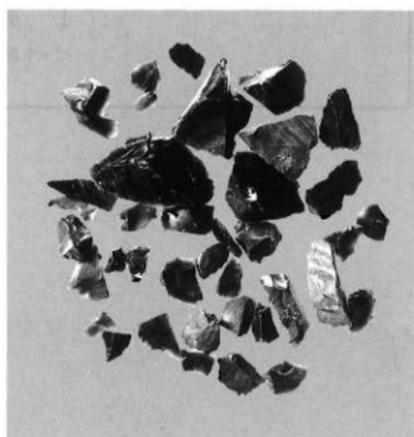
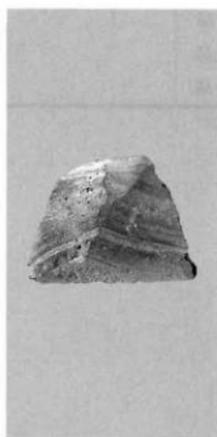
門田遺跡出土分銅形土製品



門田遺跡出土木製品



門田遺跡出土遺構外遺物（土器）



門田遺跡出土石器石材（左：サヌカイト、右：黒曜石）

報 告 書 抄 録

フリガナ	カドタイセキハクツツチョウサホウコクシヨ				
書名	門田遺跡発掘調査報告書				
副書名					
巻次					
シリーズ名					
シリーズ番号					
編集者名	古藤博昭				
編集機関	松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団				
所在地	〒690-8540 鳥根県松江市木次町86番地 TEL (0852) 55-5294				
	〒690-0886 鳥根県松江市母衣町180-21 TEL (0852) 28-2065				
発行年月日	西暦 2000年3月31日				
所収遺跡	* 門田遺跡			コード	
所在地	シマエケンマツエシノボラチノミヤウ			市町村	遺跡番号
	鳥根県松江市乃木福富町				
北緯	35° 26' 13"	東経	133° 2' 53"	32201	D050
調査期間		調査面積			
1999年6月10日～1999年12月9日		約1,500m ²			
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
門田遺跡	散布地	弥生時代	溝状遺構 土 壇 ピット群	弥生土器 土 製 品 石 製 品 木 製 品	分銅形土製品の出土

門田遺跡発掘調査報告書

2000年3月

発行 松江市教育委員会
財団法人松江市教育文化振興事業団

印刷 株式会社 谷口印刷
松江市東長江町902-59